

児玉町遺跡調査会報告書第6・7集

南共和・新宮遺跡

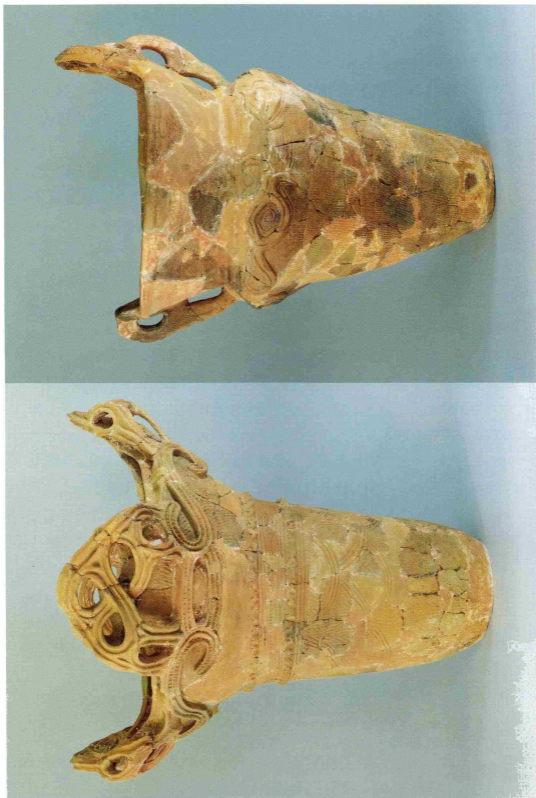
児玉町遺跡調査会

児玉町遺跡調査会報告書第6・7集

みなみ きょう わ しん ぐう
南共和・新宮遺跡

1 9 9 5

児玉町遺跡調査会



新宮遺跡D地点第89号土塚出土土器

序

埼玉県北西部に位置する児玉町は、南側に秩父の峰嶺から連なる上武山地を背し、北側に女堀川や旧赤根川によって開析された沖積低地の田園地帯が広がる、自然と緑に恵まれた真に風光明媚な町であります。それとともに、児玉町にはこの恵まれた自然の大地に、先人達の各時代にわたる多くの文化遺産が埋蔵文化財として眠っており、県内でも屈指の「文化財の宝庫」として注目されています。

しかしながら、この児玉町でも近年の交通網の整備による経済圏の拡大や、一極集中化に連動した地方都市の通勤圏拡大による都市化が進み、それに伴う民間や公共の大小様々な開発が増加し、我々がこれまでに慣れ親しんでいた自然景観や生活環境も急速に変化しつつあります。

このような社会状況の変化に対応して、児玉町内でもこれまでに様々な開発に伴う記録保存のための発掘調査が多くの遺跡で実施されています。それらの発掘調査によって、膨大な出土資料の蓄積とともに、当地域における多くの歴史的事実が次第に明らかになりつつありますが、これらの貴重な歴史資料と調査の成果を、今後ますます人々の関心と意欲が高まっていく生涯学習の場に生かし、将来的展望に立った町づくりに役立たせていくことが、まじかに迫った21世紀に向けての、我々の大きな課題と言えましょう。

今回報告する南共和遺跡と新宮遺跡の発掘調査につきましては、塚本住吉氏や榊原鉄工株式会社を始とする多くの方々や関係機関より、文化財保護に対する深いご理解と様々なご協力を賜りました。ここに心より感謝申し上げますとともに、本書が学術研究や教育活動に広く活用されることを念願する次第であります。

平成7年3月10日

児玉町教育委員会教育長
児玉町遺跡調査会会長
富 丘 文 雄

例 言

1. 本書は、埼玉県児玉郡児玉町大字共栄字南共和400番地に所在する南共和遺跡(A地点)、同324番地に所在する新宮遺跡(D地点)の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、南共和遺跡(A地点)が分譲住宅建設、新宮遺跡(D地点)が工場建設に伴う事前の記録保存を目的として、それぞれ原因者の委託を受けた児玉町遺跡調査会が実施し、その調査担当には恋河内昭彦が当たった。
3. 発掘調査の期間は、南共和遺跡(A地点)が平成2年4月に、新宮遺跡(D地点)が平成3年4月～同7月に実施した。
4. 本書は、当初第6集と第7集として、別々に刊行する予定であった南共和遺跡と新宮遺跡D地点の報告書を、委託者の了解を得て一冊に合冊したため、それぞれの報文は異なった体裁になっている。そのため、報文中の挿図の縮尺も両遺跡では以下のとおり異なっているので注意されたい。

南共和遺跡 — 遺構(住居跡・土塋 溝跡1/60、カマド1/30)、
遺物(土器1/4、石・鉄製品1/3)

新宮遺跡 — 遺構(住居跡・円形周溝1/80、カマド・炉1/40、土塋1/60)、
遺物(土師器・須恵器1/4、縄文土器1/3・1/4・1/5、石・土製品1/2)

5. 本書中の第1図と第2図は、国土地理院発行の5万分の1と2万5千分の1の地図を使用している。
6. 本書の執筆及び編集は、恋河内が行った。
7. 写真は、遺構を恋河内が撮影し、遺物については小林節子と中里広子の協力を得た。
8. 現地発掘調査及び本書刊行に際して、下記の方々や機関より御教示・御協力を頂いた。記して感謝いたします。

赤熊浩一、伊丹 徹、磯崎 一、市川 修、出縄康行、井上尚明、梅沢太久夫、太田博之、岡本幸男、金子彰男、榊原徳太郎、坂本和俊、佐藤好司、篠崎 潔、鈴木敏昭、須田英一、外尾常人、高橋一夫、谷井 彪、田村 誠、塚本住吉、富田和夫、鳥羽政之、中島 宏、長滝歳康、野口泰宣、長谷川勇、細田 勝、増田一裕、丸山 修、丸山陽一、水村孝行、宮井英一、矢内 勲、山口逸弘、

埼玉県教育局文化財保護課、埼玉県埋蔵文化財調査事業団、児玉町史編さん室

9. 発掘調査及び本書刊行のための整理作業には、下記の者が参加した。

青木フク、飯島満江、池田芳野、磐上クラ、内田ナカ、生形サト、梅沢トモ子、小賀野フジ、久米とし子、黒崎百合子、小島森平、小林節子、鈴木美江、鈴木利一、関根トヨ、出牛イネ子、戸沢ミチ子、戸谷昭太郎、中よし江、中里広子、永尾君代、野本キク江、野本ミチ子、長谷川光広、花井マサエ、福島恵美子、三友秀子、毛呂みさを、山田松枝、渡辺裕子

目 次

序 例 言

第 I 章	発掘調査に至る経緯	1
	第 1 節 南共和遺跡(A地点)の経緯	1
	第 2 節 新宮遺跡(D地点)の経緯	1
第 II 章	遺跡の立地と環境	3
第 III 章	南共和遺跡(A地点)の発掘調査	7
	第 1 節 遺跡の概要	7
	第 2 節 検出された遺構と遺物	8
	1. 竪穴式住居跡	8
	2. 掘立柱建物跡	11
	3. 土 壙	11
	4. 溝 跡	11
第 IV 章	新宮遺跡(D地点)の発掘調査	33
	第 1 節 遺跡の概要	33
	第 2 節 古墳・奈良時代の遺構と遺物の概要	36
	1. 竪穴式住居跡	36
	2. 円形周溝遺構	37
	第 3 節 縄文時代の遺構と遺物の概要	50
	1. 竪穴式住居跡	50
	2. 土 壙	57
	3. 土 器	74
	4. 土 製 品	107
	5. 石 器	107
参 考 文 献		117
写 真 図 版		

児玉町遺跡調査会組織

- 会 長** 富丘 文雄（児玉町教育委員会教育長）
- 理 事** 田島 三郎（児玉町文化財保護審議会委員長）
清水 守雄（児玉町文化財保護審議会委員）
武内 和雄（児玉町文化財保護審議会委員）
野口 敏雄（児玉町文化財保護審議会委員）
永尾 憲司（児玉町総務課長）
高橋 寛（児玉町産業課長）
山口 忠一（児玉町土地改良課長）
木村 和雄（児玉町土木課長）
山口 雄朗（児玉町都市計画課長）
大塚 勲（児玉町教育委員会社会教育課長）
- 監 事** 安久沢 一（児玉町企画財政課長）
小島 和子（児玉町文化財保護審議会委員）
- 幹 事** 関根 安男（児玉町教育委員会社会教育課長補佐）
岩上 高男（児玉町教育委員会社会教育課長補佐）
清水 満（児玉町教育委員会社会教育係長）
鈴木 徳雄（児玉町教育委員会社会教育係主任）
田島 賢二（児玉町教育委員会社会教育係主任）
倉林美恵子（児玉町教育委員会社会教育係主任）
恋河内昭彦（児玉町教育委員会社会教育係主事）
徳山 寿樹（児玉町教育委員会社会教育係主事）
大熊 季広（児玉町教育委員会社会教育係主事）

第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯

第1節 南共和遺跡(A地点)の経緯

平成元年3月、児玉町大字共栄字南共和400番地に分譲住宅の建設を計画している土地所有者の塚本住吉氏より、開発予定地内の埋蔵文化財の所在について児玉町教育委員会に照会があった。

児玉町教育委員会では、照会のあった開発予定地を『埼玉県遺跡地図』と照合したところ、児玉町No-029遺跡の包蔵地範囲内に位置していることから、埋蔵文化財が存在する可能性が高いと考えられたため、照会者に対し開発予定地内の埋蔵文化財の所在については、試掘調査を実施して明確にする必要があることを説明した。

数日後、塚本氏より児玉町教育委員会に試掘調査の依頼があり、3月16日に開発予定地内の試掘調査を実施したところ、古代の住居跡と中世の溝跡が確認された。この結果、開発予定地内における埋蔵文化財の所在が明確になったため、「開発予定地は埋蔵文化財が存在するため現状保存することが望ましいが、やむを得ず現状変更する場合は事前に記録保存のための発掘調査を実施する必要がある」と3月18日付け児教社第376号により回答し、文化財保護に対する理解と協力を求めた。

その後、塚本氏と児玉町教育委員会で開発予定地内の埋蔵文化財の保存措置について協議を重ねたが、すでに開発計画が進行しており、開発予定地を現状保存することが困難であることから、やむを得ず発掘調査を実施して記録保存することになった。

発掘調査の実施にあたっては、調査機関として児玉町遺跡調査会を紹介したが、すでに平成元年度の発掘調査の予定は一杯であり、本年度中における調査の実施が不可能であったため、発掘調査は次年度早々に実施することになった。そして、年が代わった平成2年2月28日に児玉町遺跡調査会会長野口敏雄と塚本氏の間で発掘調査に関する委託契約が締結され、4月より現地での発掘調査が実施される運びとなった。

なお、発掘調査に関わる届出は、文化財保護法の規定に基づいて、平成2年2月1日に児玉町遺跡調査会長より「埋蔵文化財発掘調査届」が、塚本氏より「埋蔵文化財発掘届」が児玉町教育委員会と埼玉県教育委員会を経て文化庁長官に提出された。

第2節 新宮遺跡(D地点)の経緯

平成元年3月、児玉町大字共栄字南共和324・325番地の土地について、同地を所有する新井ハル氏より、同地内の埋蔵文化財の所在について児玉町教育委員会に照会があった。児玉町教育委員会では照会のあった土地について『遺跡地図』と照合したところ、周知の埋蔵文化財包蔵地である児玉町No-030(新宮遺跡)の範囲内に位置しており、また担当職員が現地を確認したところ、現地は栗林であったため確認が困難ではあったが、縄文式土器を主体とする土器破片が表採されたことから、同地内には埋蔵文化財が存在する可能性が極めて高いと推測された。そのため、埋蔵文化財の所在を明確にするには、試掘調査を実施する必要があることを照会者に対して説明した。

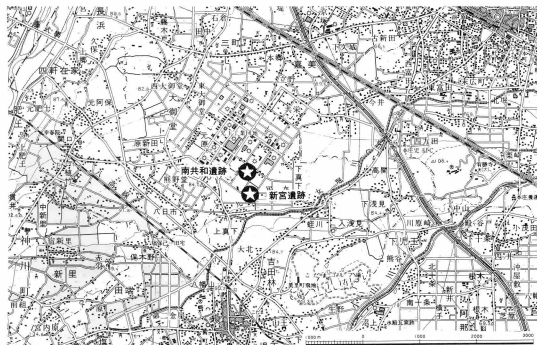
その後、新井氏より児玉町教育委員会に試掘調査の依頼があったため、同地内の試掘調査を3月22日に実施したところ、同地内にはその東側を主体にして、縄文時代中期の住居跡や土壇など多数

の遺構の所在することが確認された。この結果、「同地は埋蔵文化財が所在するため現状で保存することが望ましいが、やむを得ず現状変更する場合は、事前に記録保存のための発掘調査を実施する必要がある」ことを同日付け見教社第381号により回答した。

その後、同地は榊原鉄工株式会社により、同社の工場を建設する予定であることが明らかとなり、同社より見玉町教育委員会に対して事前の発掘調査を実施してほしい旨の依頼があった。このため見玉町教育委員会では、現地発掘調査を実施するにあたり、榊原鉄工株式会社と建物配置計画に基づいて細かな協議を行った結果、発掘調査は工場及び事務所の敷地となる同地東側の約1500㎡について実施し、同地西側の駐車場部分については現状保存するよう指導し、発掘調査実施機関として見玉町遺跡調査会を紹介した。しかしながら、同調査会ではすでに平成2年度までの発掘調査の予定が一杯であったため、平成3年度の早々に発掘調査を実施することになった。

かくして現地における発掘調査は、榊原鉄工株式会社と見玉町遺跡調査会との間で発掘調査に関する委託契約が締結され、平成3年4月15日より実施された。

発掘調査の届出は、平成3年3月11日付けで榊原鉄工株式会社代表取締役榊原徳太郎より「埋蔵文化財発掘の届出」が、同じく同日付けで見玉町遺跡調査会会長野口敏雄より「埋蔵文化財発掘調査の届出」が、見玉町教育委員会と埼玉県教育委員会を経て、文化庁長官に提出されている。なお、埼玉県教育委員会からは、原因者の榊原鉄工株式会社に対して、5月2日付け教文第3-16号による「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」の通知があり、文化庁からは、見玉町遺跡調査会に対して、7月8日付け委保第5の817号による「埋蔵文化財の発掘について」の通知があった。



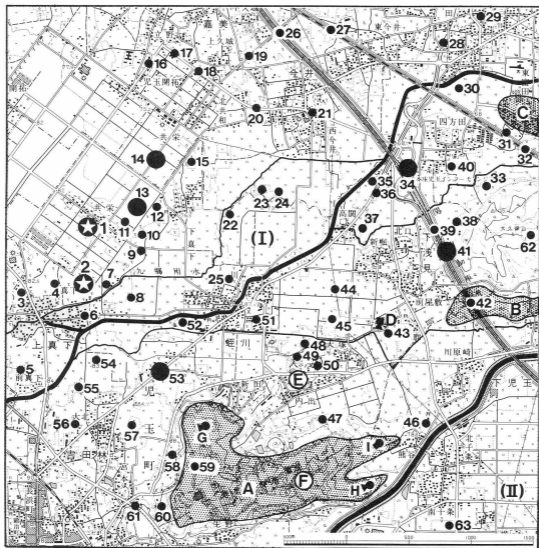
第1図 遺跡の位置

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

本遺跡は、女堀川中流域の左岸に広がる本庄台地の縁辺部に位置する。女堀川の中流域は、女堀川を中心にしてその両側に当流域では最大の沖積低地が開けており、その西側には本庄台地が、東側には大久保山・鷲山・生野山と呼ばれる上武山地の北側に接して展開する児玉丘陵より分断された3つの残丘が列状に沖積地と平行して存在している。本遺跡が立地する本庄台地は、群馬県との県境をなす神流川の氾濫によって形成された神流川扇状地の扇尖部東端にあたり、砂利層や礫層の上にローム層が薄く被覆する沖積低地の水田部とあまり比高差のない平坦で広い台地である。標高は50m～100mを測り、北東方向に向かって緩やかに傾斜している。このような地形的条件を有する当地域には、古くより多くの遺跡が形成されており、それらは西側の沖積地に面する本庄台地の縁辺部、東側の残丘上及びその斜面下の台地上、沖積低地内の自然堤防上を中心に立地している。

先土器時代の遺跡は、発掘調査例がないため明確なことは解らないが、当地域にも本庄台地上や残丘上を中心に該期の遺跡が存在することは十分予想される。現在のところ当地域では、大久保山残丘上の本庄市大久保山遺跡(高橋1980)で石核1点、同じく宍勝寺北裏遺跡(高橋1980)で剥片1点、生野山残丘下の児玉町域の内遺跡(栗島1981)でナイフ形石器とUフレイクが各1点、本庄台地縁辺部の本庄市将監塚遺跡(石塚1986)で細石刃核1点と削器3点、児玉町古井戸遺跡(宮井1989)でナイフ形石器1点・削器2点・槍先型尖頭器3点、同じく塚島遺跡(増田1992)で削器1点が見つまっているだけである。これらの石器は、ほとんどが後世の遺構の覆土中などに混じって出土したもので、出土層位が明らかなものはない。

縄文時代の遺跡は、女堀川上流域の丘陵部に比べてかなり少ない。草創期・早期・前期では、現在のところ遺構が検出された遺跡はなく、残丘上や台地上の遺跡から土器片や石器がごく少量出土しているだけであり、当地域では小規模な遺跡が点在するかなり希薄な状況であったことが推測される。このような状況は中期前半段階も変わりないが、中期中葉以降になると遺構の検出例が急増し、当地域の状況は大きく様変わりする様相が窺える。まず、勝坂式終末段階になると本庄台地上の将監塚遺跡・古井戸遺跡・児玉町新宮遺跡(本報告)の3遺跡に、それぞれ数軒の住居からなる小規模な集落が形成され、大久保山遺跡Ⅱ地区B(荒川1984)でも該期の土壌群が検出されている。このうち本庄台地上の至近距離にある3遺跡は、それぞれ時期による住居数の多寡はあるものの、その後も継続的に集落が営まれ、加曾利EⅠ式新段階～加曾利EⅡ式古段階に大規模化が進み、3遺跡とも環状集落を構成するようになる。これらの大規模環状集落は、いずれも加曾利EⅡ式後半～加曾利EⅢ式前半にかけて集落のピークを迎え、加曾利EⅢ式のうちに解体し、衰退を始めるようである。この3つの大規模環状集落の衰退と呼応するように、3遺跡周囲の本庄台地縁辺部に児玉町平塚遺跡・神田遺跡・中下田遺跡(鈴木1991)、低地内の自然堤防や微高地上に本庄市西富田前田遺跡(増田1989)や児玉町石橋遺跡、大久保山残丘下の台地上に飯玉東遺跡(増田1979)など、いずれも加曾利EⅢ式以降の小規模と推測される集落が形成されることは注目されよう。後期になると、荒川や神流川及び群馬県の鮎川などの大規模河川の流域に集落の分布密度が高くなるのと対照的に、当地域の遺跡は再び希薄な状況となる。当地域では、児玉町南街道遺跡で称名寺式土器を伴う土壌が1基検出されているくらいで、土器片を少量出土する遺跡がほとんどである。このような状



第2図 周辺の主要遺跡

1. 南共和遺跡 2. 新宮遺跡 3. 真下境東遺跡 4. 辻ノ内遺跡 5. 金佐奈遺跡 6. 上真下東遺跡 7. 坊田遺跡
 8. 中下田遺跡 9. 神田遺跡 10. 平塚遺跡 11. 古井戸南遺跡 12. 内手遺跡 13. 古井戸遺跡 14. 将監塚遺跡 15.
 将監塚東遺跡 16. 立野南遺跡 17. 八幡太神南遺跡 18. 熊野太神南遺跡 19. 往来北遺跡 20. 今井遺跡群 21. 北廓
 遺跡 22. 堀向遺跡 23. 藤塚遺跡 24. 柿島遺跡 25. 左口遺跡 26. 久城前遺跡 27. 諏訪遺跡 28. 社具路遺跡
 29. 南大通り線内遺跡 30. 西富田前田遺跡 31. 観音塚遺跡 32. 下田遺跡 33. 山根遺跡 34. 後張遺跡 35. 川越田
 遺跡 36. 梅沢遺跡 37. 東牧西分遺跡 38. 根田遺跡 39. 飯玉東遺跡 40. 四方田遺跡 41. 雷電下遺跡 42. 塚本山
 遺跡 43. 鷺山南遺跡 44. 浅見境北遺跡 45. 東田遺跡 46. 宮ヶ谷戸遺跡 47. 向田遺跡 48. 日延遺跡 49. 城の内
 遺跡 50. 新屋敷遺跡 51. 共和小学校校庭遺跡 52. 蛭川坊田遺跡 53. 辻堂・南街道遺跡 54. 石橋遺跡 55. 樋越遺
 跡 56. 高縄田遺跡 57. 宮田遺跡 58. 刺山遺跡 59. 生野山遺跡 60. 阿知越遺跡 61. 御林下遺跡 62. 大久保山遺
 跡 63. 樋之口遺跡

A. 生野山古墳群 B. 塚本山古墳群 C. 東富田古墳群 D. 鷺山古墳 E. 金鑽神社古墳 F. 生野山将軍塚古墳
 G. 生野山鏡子塚古墳 H. 生野山16号墳 I. 熊谷後1号墳
 (I). 見玉条里 (II). 十条条里

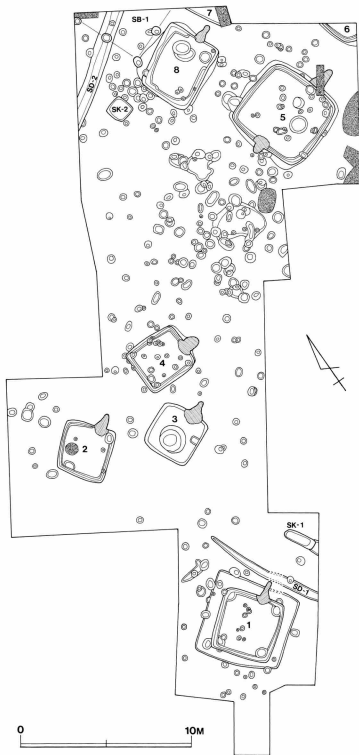
況は晩期においても同様であるが、さらに遺跡数は少なくなる。

弥生時代の遺跡は、前期～中期では大久保山遺跡の浅見山Ⅰ地区(本市1986)で中期の再葬墓群が検出されている他は、児玉町根田遺跡(恋河内1990)や同じく雷電下遺跡(恋河内1990)で土器片が少量出土しているだけである。後期になると、残丘上や残丘下の台地上を主体に、児玉町生野山遺跡(埼玉県1982)・飯玉東遺跡・本市山根遺跡(増田1990)・大久保山遺跡(荒川1986)・美里町塚本山遺跡(小久保1977)などの集落が形成される。これらの遺跡は、比較的短期間で小規模な集落と考えられるものが多く、その立地指向から残丘内や残丘周辺の小規模な開析谷を利用した谷田の水稲耕作や集落周辺の畑作を生産の基盤としていたことが推測されている(恋河内1992)。

古墳時代の遺跡は、弥生時代の遺跡の様相とは異なり、前期から後期にかけて非常に多くの遺跡が形成される。これらは西側の本庄台地縁辺部や東側の残丘列周辺はもちろんのこと、低地内の自然堤防上にも多くの集落が継続的に形成されるのが特徴であり、当地域のほぼ全域に分布が拡大し、当地域における沖積低地の本格的な開発がこの時代に始まったことが窺え、それを裏付けるように低地内でもこの時代の水路跡がいくつかの遺跡で検出されている。また、当地域東側を画する残丘上には、県内で最古と言われる4世紀中頃の前方後方墳である児玉町鷲山古墳(増田1986)、県北部で最大級の円墳である5世紀中頃の児玉町金鑽神社古墳(増田1986)・生野山將軍塚古墳(柳田1964)・本市公卿塚古墳(増田1986、太田1991)、6世紀の前方後円墳である生野山銚子塚古墳(山崎1975)と生野山16号墳(菅谷1984)と言った墳丘規模がいずれも60m級の首長墓が集中して造営されており、当地域が女堀川流域社会の中心地域であったことが解る。その後これらの残丘上は、生野山古墳群(菅谷・駒宮1973)や塚本山古墳群(小久保1977)といったそれぞれ総数100基以上の大群集墳が形成されるが、本市七色塚遺跡(増田1987)や四方田遺跡(増田1989)の該期集落が存在した低地内の自然堤防上にも東富田古墳群(本市1986)など一部に古墳群が形成されている。

これらの古墳時代の集落は、7世紀中葉頃を境にして、低地内の自然堤防上に立地する集落のほとんどが廃絶し、沖積低地を取り囲むように低地西側の本庄台地上や東側の残丘下周辺に移動する現象が見られる。特に本庄台地上では、児玉町辻内遺跡(鈴木1991)や本市西富田遺跡群などのように、古墳時代後期から継続する様相が窺える集落もいくつかあるが、本市今井遺跡群(赤熊・富田1985)や上里町八幡太神南遺跡(赤熊・富田1985)及び古井戸・将監塚遺跡(井上1986・赤熊1988)のように、古墳時代には集落が形成されていなかった地域にも新たに集落が出現することは注目され、8世紀には本市市南大通り線内遺跡(増田1987・1989・1991)から児玉町真下境東遺跡(鈴木1989)にかけて台地縁辺部を帯状に分布する大規模な居住域を形成するようになる。このような集落居住域の再編成とも言える現象は、沖積低地内における条里形地割りの施工や本庄台地上の居住域の西側に沿って台地上を縦断する「真下大溝」(鈴木1989)の掘削など、当地域に見られる7世紀後半～8世紀前半の郡規模の再開発と密接に連動した計画的編成であることが推測され、国家主導による律令的組織の編成が、地方の末端においても実質的に推進されていた可能性も窺える。

これらの本庄台地上に形成された大集落は、概ね9世紀前半頃まで継続的に営まれるが、9世紀後半になると衰退し、10世紀以降では児玉町後張遺跡(立石1982・1983)や蛭川坊田遺跡のように、再び低地内の自然堤防上にも比較的小規模な集落が形成されるようになる。



第3図 南共和遺跡全測図

第三章 南共和遺跡(A地点)の発掘調査

第1節 遺跡の概要

本遺跡は、『埼玉県遺跡地図』記載の児玉町No29遺跡に該当する周知の埋藏文化財包蔵地であり、女堀川中流域の西側に広がる標高80mの平坦な本庄台地上に位置する。本遺跡周辺の本庄台地縁辺部では、様々な開発に伴う事前の発掘調査や試掘調査が数多く実施されているが、その成果によると今回調査した地点の西側では将監塚・古井戸遺跡(井上1986、赤熊1988)につながる古代の大溝以外に遺構が検出されることがなく、今回の調査地点は遺跡のほぼ西端にあたると考えられる。今回の調査地点でも、事前の試掘調査により開発予定地内の遺構分布を明確にしたところ、予定地内の西側半分には第2号溝跡の延長部分以外に遺構は確認されていない。

調査区内で検出された遺構は、竪穴式住居跡8軒・掘立柱建物跡1棟・土壇2基・溝跡2条・ピット多数で、遺構の遺存状態は比較的良好である。これらは古代と中世の時期にわたるものであるが、本遺跡の主体をなすのは古代の集落跡である。

竪穴式住居跡は、概ね8世紀前半から9世紀前半頃にわたる時期のもので、調査区南西側の第1号住居跡、調査区中央部の第2～4号住居跡、調査区北東側の第5～8号住居跡の3箇所にまとまって分布している。この8軒の住居跡は、住居相互で重複するものはないが、比較的近接しているものが多く、出土土器からも時期差が認められる。住居の主軸方向は、当地方の古代集落で一般的に認められる傾向と同じように、いずれも北東～真東の向きにとっており、カマドも住居の北東壁に付設されるいわゆる「東カマド」であるが、このうち第5号住居跡は後に東から西にカマドが作り替えられている。住居の形態は、時期的に古い第1・3・5号住居跡が比較的整った方形を呈し、住居の掘り込みが深いのに対して、時期的に新しい第2・4・8号住居跡は長方形もしくは長方形ぎみの平面形を呈し、住居の掘り込みもやや浅くなっている。床面はいずれもロームブロックを多量に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼床式で、第5号住居跡と第8号住居跡では床下土壇が検出されている。主柱穴をもつものは少なく、第5号住居跡で検出された以外は、第1号住居跡と第4号住居跡で主柱を配したものと考えられる円形の浅い掘り込みが住居の各コーナー部に見られるだけである。貯蔵穴をもつものも少なく、第2号住居跡と第8号住居跡に見られるだけである。カマドは、いずれも燃焼部が住居の壁を掘り込んで構築されているもので、燃焼部と煙道部が素掘りで袖を住居壁面に直接貼り付けているもの(第2・4・5・8号住居跡)と、カマド掘り方に袖から煙道部まで粘土を貼り巡らせて作っているもの(第1・3号住居跡)の二形態がある。このうち後者の第1号住居跡では、甕を倒立させて袖の補強に利用している。

掘立柱建物跡は全容が不明であるが、建物の向きが竪穴式住居跡と同じ方向であり、柱穴覆土の観察からも竪穴式住居跡の時期に伴うものであろう。この他第2号土壇も古代の所産と考えられる。

中世の遺構は、第1号土壇と第2号溝跡だけであるが、出土遺物がないためこれらの明確な時期は不明である。

出土遺物は、竪穴式住居跡より土師器・須恵器・石製品(紡錘車・砥石)・鉄製品(刀子・鎌・釘)が出土しているが、ほとんどの住居跡は覆土中からの出土が顕著である。この中で第8号住居跡は、カマド内や床面上より完形に近い遺物が比較的多く出土しており、良好な一括資料と言えるものである。

第2節 検出された遺構と遺物

1. 竪穴式住居跡

第1号住居跡（第4図、図版2）

調査区の南西端に位置する。住居竪穴部の外側に一回り大きい方形の浅い掘り込みを有する。規模は、外側の浅い方形の掘り込みが南西～北東方向5.00m、北西～南東方向5.07m、内側の竪穴部が南西～北東方向3.78m、北西～南東方向3.68mを測る。主軸方位は北東方向を向き、 $N-52^{\circ}-E$ をとる。床面は比較的堅緻で、平坦に作られている。壁溝は全周し、各コーナー部には主柱を配した所と思われる浅い円形の落ち込みが見られる。カマド(第5図)は、住居北東壁中央のやや東寄りの位置にあり、壁に対してほぼ直角の向きに掘り込んで構築されている。規模は、全長144cm・幅85cmを測る。焚口部の両脇の袖にあたる部分には堯が補強に使われ、天井部と燃焼部から煙道部の壁面には淡灰色粘土が張られている。

出土遺物(第22図)は、覆土中を主体にして比較的多量の土器片が出土している。Na1～3の堯はカマド袖の補強に使われたもので、Na1とNa3は入れ子状に重なっている。Na4はカマド内、Na6とNa8は住居東側コーナー部の円形の掘り込み内より出土している。この他はすべて覆土中からの出土である。

第2号住居跡（第6図、図版3）

調査区中央部の西側に位置し、本住居跡の東側には第3号住居跡と第4号住居跡が近接している。平面形は方形を呈し、規模は南西～北東方向3.22m、北西～南東方向3.03mを測る。主軸方位は北東方向を向き、 $N-50^{\circ}-E$ をとる。床面は比較的堅緻で、やや凹凸が見られる。壁溝は全周し、カマド右側の住居東側コーナー部には貯蔵穴状の不整円形を呈する掘り込みがある。カマド(第7図)は、住居北東壁の東寄りの位置にあり、壁に対してやや斜めの向きに掘り込んで構築されている。規模は、全長132cm・幅95cmを測る。袖は右側だけ残存しており、淡灰色粘土を直接壁から貼り付けて作っている。燃焼部は不整円形を呈し、床面よりも一段低くなっている。煙道部はやや斜めに立ち上がり、壁面は比較的よく焼けている。

出土遺物(第23図)は、土器片が比較的少量出土しただけである。Na1の須恵器高台付椀は住居中央部の覆土中より、Na4の土師器杯は住居中央部の床面上より出土し、Na2の堯とNa3の土師器杯はカマド内から出土している。

第3号住居跡（第8図、図版4）

調査区中央部に位置し、住居の北側には第4号住居跡が、西側には第2号住居跡が近接している。平面形は方形を呈し、規模は南西～北東方向3.06m、北西～南東方向2.96mを測る。主軸方位は北東方向を向き、 $N-65^{\circ}-E$ をとる。床面はやや軟弱で、平坦に作られている。壁溝はないが、住居南東壁下の中央付近に長方形の浅い掘り込みをもつ。住居中央部に大きな土壌があるが、これは住居の覆土が埋没する過程で掘削されたものであり、本住居跡に伴うものではない。カマド(第9図)

は、住居北東壁中央のやや東寄りの位置にあり、壁に対してほぼ直角の向きに掘り込んで構築されている。規模は、全長150cm・幅110cmを測る。袖及び燃焼部と煙道部の壁面は、黄白色粘土によって作られており、カマド内面は非常に良く焼けて赤色化している。

出土遺物(第24図)は、土器片が少量出土しただけである。本住居跡に伴うものは、カマド内から出土したNo2とNo3の土師器杯だけである。No1の甕は、本住居跡の埋没過程に掘削された大形の土壇内から出土している。

第4号住居跡(第10図、図版5)

調査区中央部に位置し、住居の西側には第2号住居跡が、南側には第3号住居跡が近接している。平面形は長方形を呈し、規模は東西方向3.24m、南北方向2.98mを測る。主軸方位は東西方向を向き、ほぼN-90°-Eをとる。床面は比較的堅緻で、平坦に作られている。壁はやや斜めに立ち上がるが、住居東壁の上部は崩落して緩やかになっている。壁溝は各壁下に見られるが、カマド右側の壁下には存在せず途切れている。カマド(第11図)は、住居東壁のほぼ中央に位置し、壁に対してやや斜めの向きに掘り込んで構築されている。規模は、全長125cm・幅100cmを測る。袖は、両袖とも淡褐色粘土を壁に貼り付けて作っている。燃焼部は床面より一段低くなっており、煙道部は燃焼部よりそのまま斜めに立ち上がる。

出土遺物(第25・29図)は、土器と刀子の破片がある。No1・2の甕とNo3の皿及びNo4の杯は、カマド内よりまとまって出土したもので、No5の杯とNo6の刀子は覆土中から出土している。

第5号住居跡(第12図、図版6)

調査区の北東側に位置する。本住居跡の東側には第6号住居跡が、北側には第8号住居跡が近接している。平面形は方形を呈し、規模は南西～北東方向4.75m、北西～南東方向5.04mを測る。主軸方位は南西方向を向き、N-105°-Wをとる。床面は比較的堅緻で、ほぼ平坦に作られている。住居中央部の床下には直径1m位の円形を呈する土壇があり、いずれも覆土中に焼土が顕著に見られる。床下土壇の上面は丁寧に貼床されている。主柱穴は住居の対角線上に4箇所配されている。壁はやや斜めに立ち上がり、各壁の上部は崩落により緩やかになっている。壁溝は各壁下に見られるが、旧東カマド右側の壁下には存在せず途切れている。カマド(第13・14図)は、住居の北東壁(東カマド)と南西壁(西カマド)の2箇所が存在するが、東カマドから西カマドに作り替えられたものである。住居廃絶に伴う西カマドは、住居南西壁のほぼ中央の位置にあり、壁に対してやや斜めの向きに掘り込んで構築されている。規模は、全長104cm・幅95cmを測る。袖は、両袖とも暗灰褐色粘土を壁から貼り付けて作っている。燃焼部は床面より一段低くなっており、内面は良く焼けて赤色化している。旧東カマドは、住居北東壁中央のやや東寄りに位置し、壁に対してほぼ直角の向きに掘り込んで構築されている。燃焼部は中央に攪乱を受けており、煙道部は燃焼部より一段高くほぼ水平にのびている。

出土遺物(第26・29図)は、覆土中より比較的少量の土器片が出土し、土器以外では覆土中より石製紡錘車(No15)・刀子(No16)・釘?(No17)がそれぞれ1点ずつ出土している。

第6号住居跡（第15図、図版7）

調査区の東端に位置し、西側には第5号住居跡が近接している。調査区内で確認されたのは住居の南側コーナー部付近だけであり、本住居跡の大部分は調査区外であるため、住居の全容は不明である。床面は比較的堅緻で、平坦に作られている。壁はやや斜めに立ち上がり、上半部は崩落により緩やかになっている。壁溝は、調査できた壁下のすべてに見られる。

出土遺物は、覆土中より国分期の土器片が数片出土しただけである。

第7号住居跡（第16図、図版7）

調査区の北東端に位置し、西側には第8号住居跡が近接している。調査区内で確認されたのは住居の南西壁の南側コーナー部付近だけであり、本住居跡の大部分は調査区外であるため、住居の全容は不明である。また住居覆土の大部分は、植木の抜根による攪乱を受けている。床面は比較的堅緻で、平坦に作られている。壁はやや斜めに立ち上がり、壁溝は調査区内の確認した壁下には見られない。

出土遺物は、覆土中より真間期後半の土器片が少量出土しただけである。

第8号住居跡（第17図、図版8・9）

調査区の北東側に位置し、北側には第1号掘立柱建物跡、東側には第7号住居跡、南側には第5号住居跡が近接している。平面形は長方形を呈し、規模は南西～北東方向4.21m、北西～南東方向2.89mを測る。主軸方位は北東方向を向き、 $N-61^{\circ}-E$ をとる。床面は比較的堅緻で、ほぼ平坦に作られているが、細かな凹凸を有する。壁はやや斜めに立ち上がり、上半部は崩落により緩やかになっている。壁溝は、住居の各壁下に見られるが、北東壁下のカマド付近から南東壁下の一部にかけては存在せず途切れている。住居内からは土壌が3箇所検出されているが、カマド前の北寄りに位置する重複した2つの土壌はいわゆる床下土壌で、上面には貼床が認められる。カマド右側の住居東側コーナー部付近に位置するものは、その位置や形態から貯蔵穴と考えられる。カマド（第18図）は、住居北東壁中央のやや東寄りに位置し、壁に対してほぼ直角の向きに掘り込んで構築されている。袖はなく、燃焼部は掘り込みをもたず床面と同一の高さである。煙道部は燃焼部より一段高く、やや斜めに立ち上がっている。カマド内からは完形に近い土器が多く出土し、No1とNo3の甕が横に並べて据えられており、No1の甕にはNo5の小形甕が重ねられ、その前方にはNo6の甎が転げ落ちたような状態で出土している。

出土遺物（第27・28・29図）は、カマド内やカマド周辺及び住居西側の床面直上より、完形に近い多くの土器や石製品と鉄製品が出土しており、良好な一括資料である。土師器は、甕（No1・No3）・小形甕（No5）・台付甕（No4）・広口壺（No2）・甎（No6）・坏（No7～17）がある。須恵器は、坏（No18～26）と高台付壺（No27）があるが、坏はすべて南比企窯の製品である。石製品は、凝灰岩質の砥石（No28）が1個体住居西側の床直上より出土している。鉄製品は、鎌（No29）と刀子（No30・31）があり、鎌は住居東側コーナー部の壁面に貼り付いた状態で出土し、刀子はNo30が住居北側コーナー部付近の床面近くより、No31が住居南西側の床面直上より出土している。

2. 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第19図）

調査区の北端に位置し、南側には第8号住居跡が、南東側には第7号住居跡が近接している。調査区内では一部の柱穴しか検出されなかったため、本建物跡の全容は不明である。第2号溝跡及び第8号住居跡と一部重複している。切り合い関係は第2号溝跡よりも古く、第8号住居跡との前後関係は明らかにできなかった。

建物の主軸方向は、北東方向か北西方向のどちらかわからないが、その向きは竪穴式住居跡とほぼ同じ方向である。柱通りは比較的良く、柱心間は調査区内では梁行・桁行とも約2mを測る。柱穴は、いずれも直径50cm位の不整形円形を呈し、深さは40cm～70cmある。覆土は、黒褐色土でローム粒子と炭化粒子を微量含んでいる。出土遺物は、柱穴の覆土中より土師器の小破片がごく少量出土しただけである。

本建物跡の時期は、第2号溝跡に切られていることや柱穴覆土と出土土器の状態から古代のものと考えられ、おそらく調査区内で検出された竪穴式住居跡のある時期に伴うものであろう。

3. 土 壙

第1号土壙（第20図）

調査区の南東側に位置する。西側には第1号溝跡と第1号住居跡が近接している。平面形はコーナー部の丸いや細長い長方形を呈し、規模は長軸181cm・短軸60cmを測る。長軸方向は、北西～南東方向に向き、 $N-31^{\circ}-W$ をとる。壁はやや斜めに立ち上がり、底面はほぼ平坦であるが長軸方向の壁際がやや高くなっている。出土遺物は、土器片が数片出土しただけである。

時期は、覆土中にB軽石を微量含むことから、中世以降のものと考えられる。

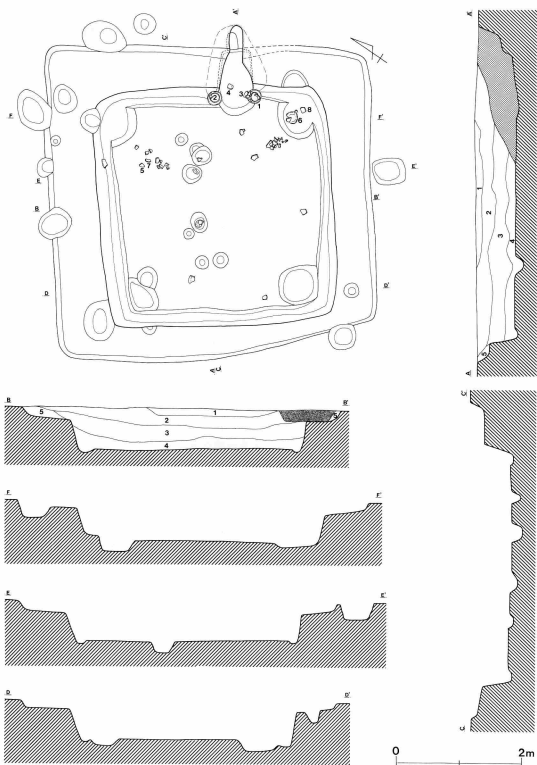
第2号土壙（第20図）

調査区の北側に位置する。東側には第8号住居跡と第1号掘立柱建物跡が近接している。平面形は方形を呈し、規模は東西方向126cm・南北方向128cmを測る。壁は斜めに立ち上がり、底面は平坦である。出土遺物は、土器片が少量出土しただけである。

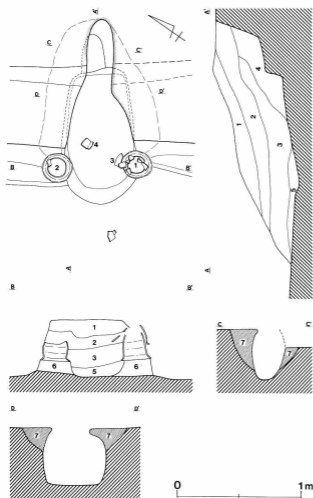
時期は、覆土の状態や出土土器より古代のものと考えられる。

4. 溝 跡

溝跡は、調査区内より2条検出されているが、南側の第1号溝跡はA軽石を多量に含む近世後半以降のものである。北側の第2号溝跡(第21図)は、覆土中にB軽石を含むことから中世以降のものと考えられる。形態は断面が「U」の字状を呈し、直線的に掘られているようである。覆土の観察では、頻繁に水が流れていたような形跡は認められず、区画のための空堀であった可能性が高いと思われる。出土遺物は、土師器の破片が少量出土しただけであり、本溝跡に伴うと考えられる遺物は、まったく出土していない。



第4図 第1号住居跡



第5図 第1号住居跡カマド

第1号住居跡カマド土層説明

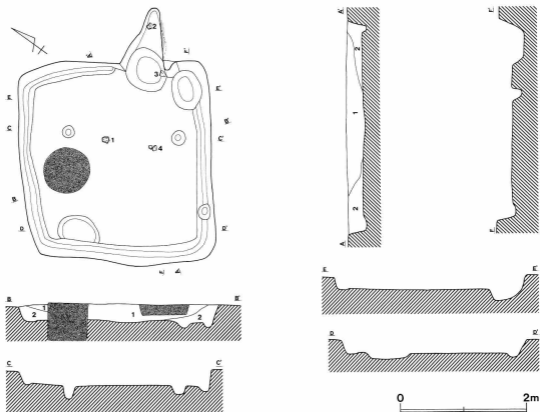
- 第1層：暗黄褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：黒褐色土層（淡灰色粘土粒子・焼土粒子を均一に、焼土ブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：淡灰色土層（淡灰色粘土粒子・焼土粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
 第6層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
 第7層：淡灰色土層（淡灰色粘土ブロックを多量含む・粘性はなく、しまりを有する。）

第1号住居跡土層説明

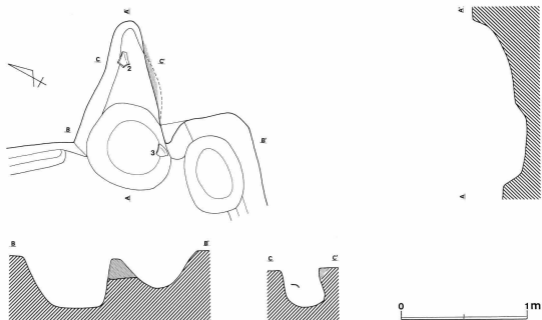
- 第1層：黒褐色土層（白色粒子・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を多量に、焼土ブロック・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
 第5層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2号住居跡土層説明

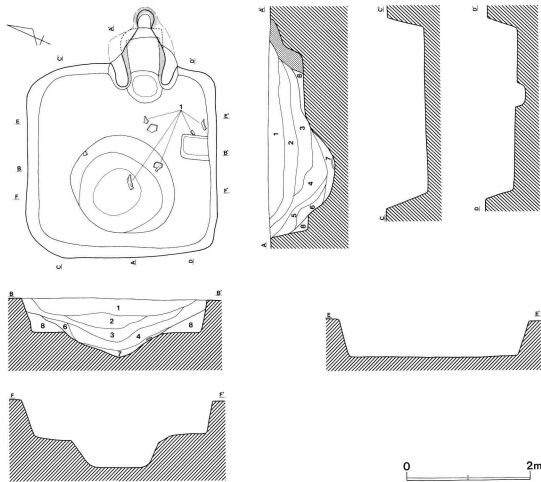
- 第1層：暗茶褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）
 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）



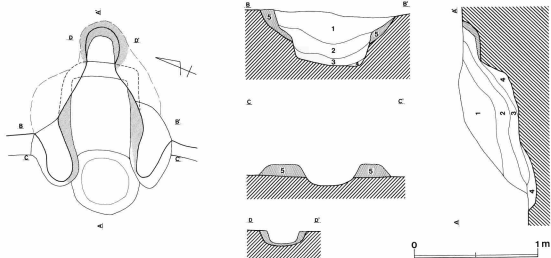
第6図 第2号住居跡



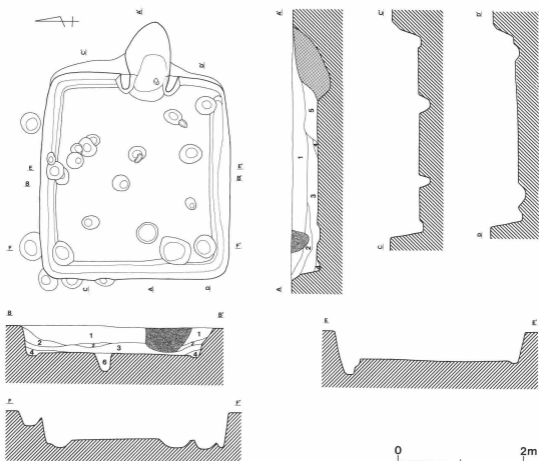
第7図 第2号住居跡カマド



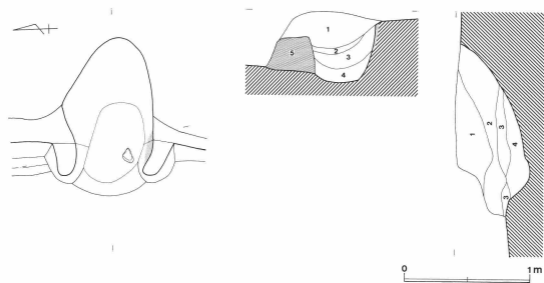
第8図 第3号住居跡



第9図 第3号住居跡カマド



第10図 第4号住居跡



第11図 第4号住居跡カマド

第3号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量に、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第7層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
- 第8層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第3号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗赤褐色土層（焼土粒子を多量に含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：黒褐色土層（炭化粒子を多量に、焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗黄白色土層（暗黄白色粘土を主体に、ロームブロックを均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗黄褐色土層（焼土粒子を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第6層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第4号住居跡カマド土層説明

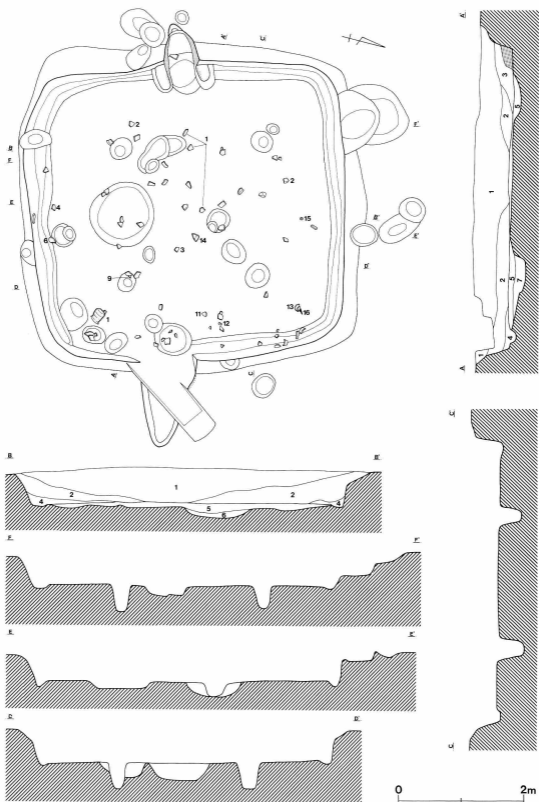
- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：淡褐色土層（淡褐色粘土粒子を多量に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗赤褐色土層（焼土粒子を多量に含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：淡褐色土層（淡褐色粘土ブロックを多量に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第5号住居跡土層説明

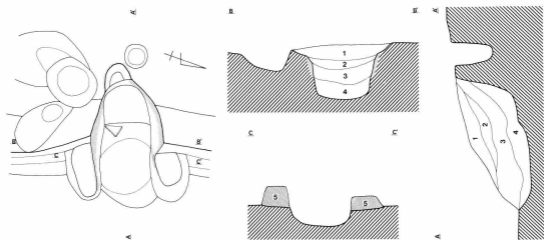
- 第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（灰褐色粘土ブロックを均一に、ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）
- 第6層：暗褐色土層（ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5号住居跡西カマド土層説明

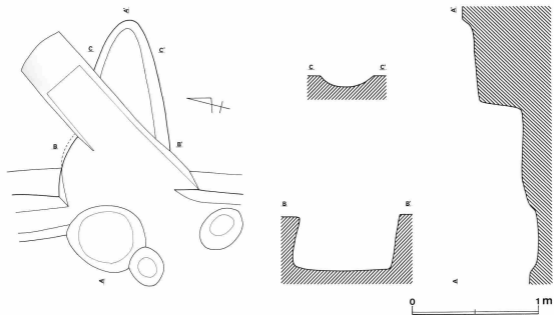
- 第1層：暗褐色土層（暗灰褐色粘土粒子を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗灰褐色土層（粘土ブロック・焼土ブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：黒褐色土層（焼土粒子・焼土ブロックを多量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗灰褐色土層（暗灰褐色粘土を主体とする。粘性に富み、しまりを有する。）



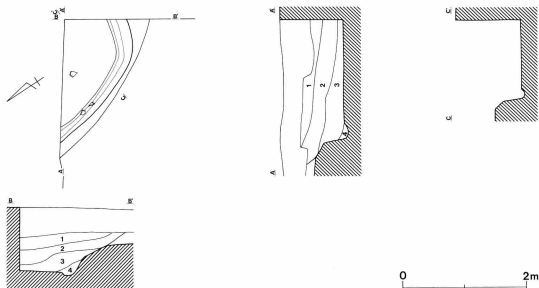
第12图 第5号住居跡



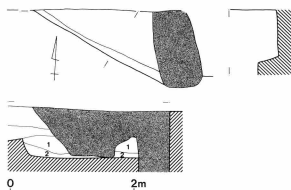
第13図 第5号住居跡西カマド



第14図 第5号住居跡東カマド



第15図 第6号住居跡



第16図 第7号住居跡

第6号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

第7号住居跡土層説明

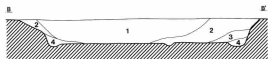
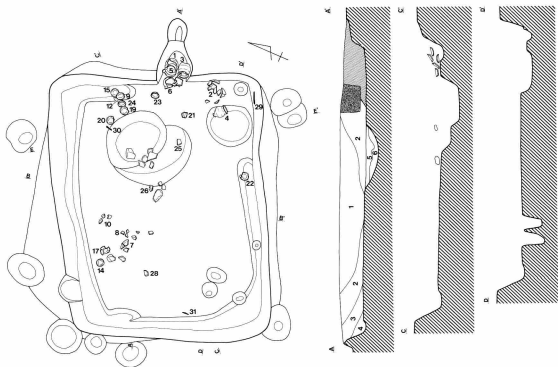
- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第8号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第6層：暗黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

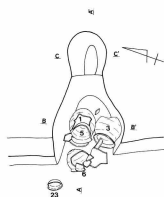
第2号溝跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（B軽石・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：黒褐色土層（B軽石を多量に含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

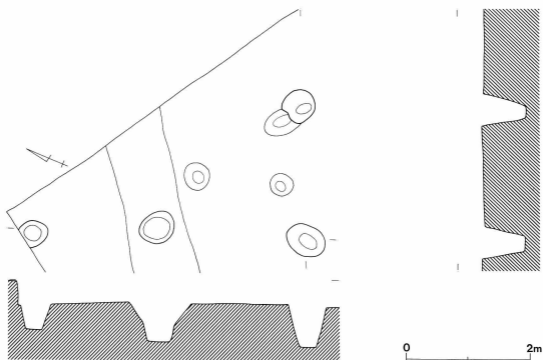


0 2m

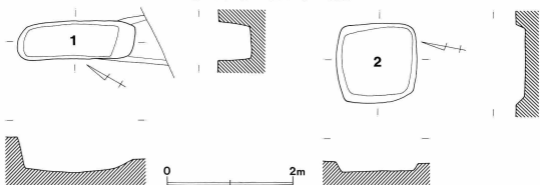
第17図 第8号住居跡



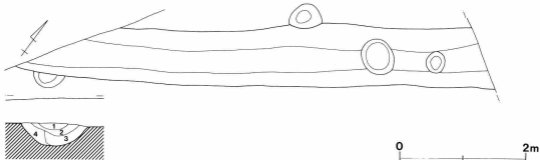
第18図 第8号住居跡カマド



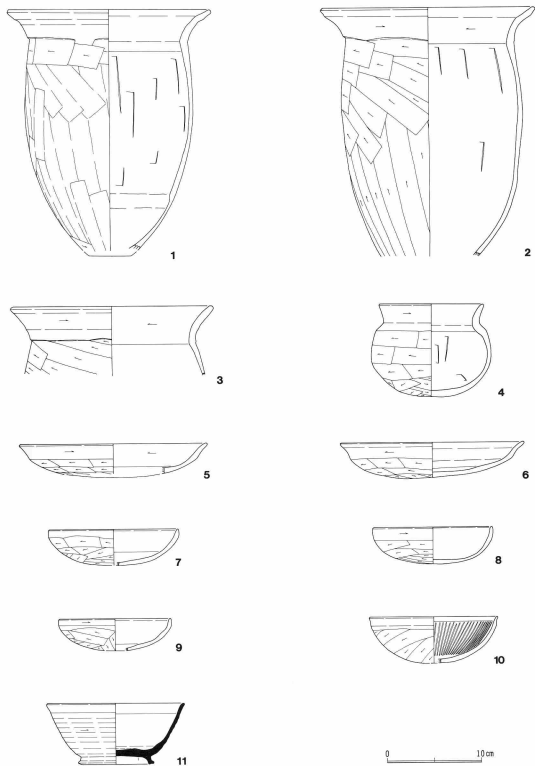
第19图 第1号掘立柱建物跡



第20图 土 塚



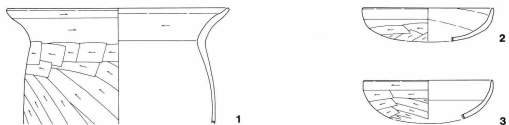
第21图 第2号溝跡



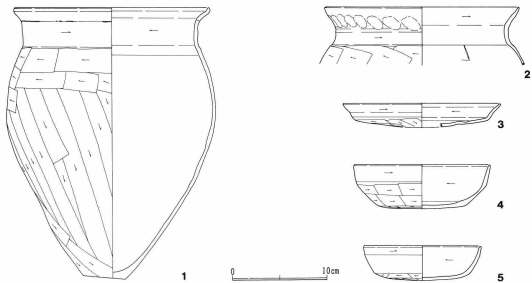
第22图 第1号住居跡出土土器



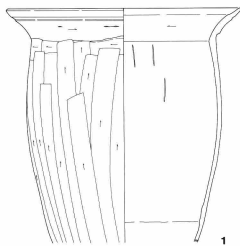
第23图 第2号住居跡出土土器



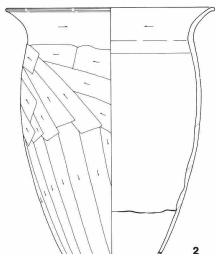
第24图 第3号住居跡出土土器



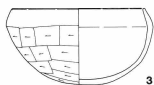
第25图 第4号住居跡出土土器



1



2



3



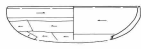
4



5



6



7



8



9



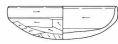
10



11



12



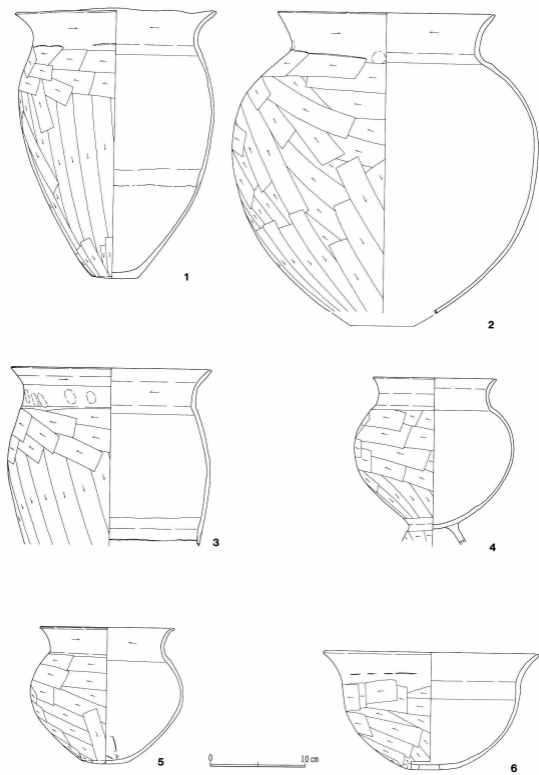
13



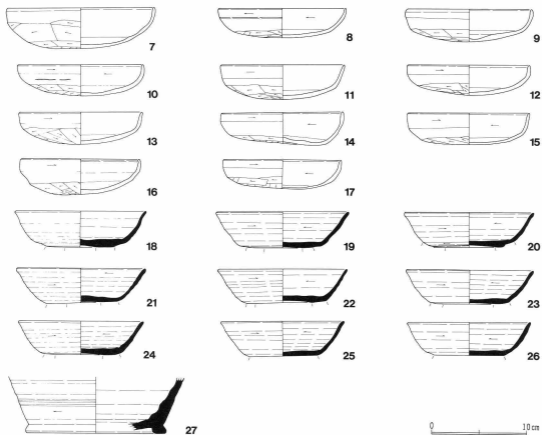
14



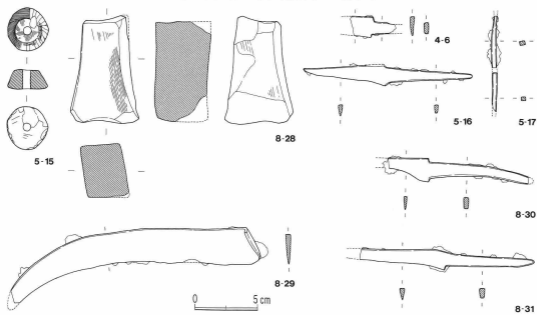
第26图 第5号住居跡出土土器



第27图 第8号住居跡出土土器(1)



第28图 第8号住居跡出土土器(2)



第29图 住居跡出土石器・鉄製品

第1号住居跡出土土器観察表

No.	器種	法量	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口縁部径 21.5cm 残存高 25.4cm	粘土粗積み上げ成形。口縁部は緩やかに外反し、口唇部内外面付近に凹線状の窪みを有する。口縁部と胴部の境にケズリによる段を有する。胴部はあまり張らず砲弾型を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半横及び斜方向のケズリ、下半縦方向の不明瞭なケズリ。内面上半匏ナデ、下半ナデ。	赤色粒・黒色粒 内外—橙褐色	底部欠失。 器表面は風化して荒れている。
2	甕	口縁部径 22.5cm 残存高 26.2cm	粘土粗積み上げ成形。口縁部は緩やかに外反する。口唇部内外面は窪み、やや上向く。口縁部と胴部の境にケズリによる段を有する。胴部はあまり張らず、砲弾型を呈する。	口縁部内外面左回りのヨコナデ。胴部外面上半横及び斜方向のケズリ、下半縦方向のケズリ。内面匏ナデ。	白色粒 外—淡褐色 内—暗褐色	約4/5。 外面に黒斑あり。
3	甕	口縁部径 21.4cm	粘土粗積み上げ成形。口縁部は緩やかに外反する。口縁部と胴部の境にケズリによる段を有する。	口縁部内外面左回りのヨコナデ。胴部外面斜方向のケズリ、内面ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—暗茶褐色	口縁部のみ。 内外面に煤の付着あり。
4	小形短頸壺	口縁部径 (11.0cm) 器高 9.8cm	粘土粗積み上げ成形。口縁部は短く緩やかに開く。胴部はやや張り、底部は丸底を呈する。	口縁部内外面左回りのヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面匏ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—淡褐色	約1/2。
5	皿	口縁部径 (19.8cm)	口縁部は緩やかに外反する。体部は浅く、丸底を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—暗茶褐色	口縁部1/4破片。
6	皿	口径19.4 器高3.8	口縁部は緩やかに外反する。体部は浅く、丸底を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒・黒色粒 赤色粒 内外—淡橙褐色	約3/4。
7	坏	口径(13.7) 器高(3.8)	体部は内湾しながら開く。口唇部はやや厚く、上方に向く。底部は丸底を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒・赤色粒 内外—淡茶褐色	口縁部1/4破片。
8	坏	口径(12.6) 器高(3.9)	体部は内湾しながら開き、口唇部はそのまま上方を開く。底部は丸底を呈する。	口縁部外面左回りのヨコナデ。体部外面ケズリ。内面は不明。	黒色粒・白色粒 内外—橙褐色	約1/3。 内面斑点状剥落顕著。
9	坏	口径(11.8) 器高(3.4)	口縁部は内湾しながら開き、口唇部は短く直立する。底部は丸底を呈する。	口縁部内外面左回りのヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	赤色粒・白色粒 内外—橙褐色	口縁部1/2破片。
10	坏	口縁部径 (13.6cm) 器高 4.9cm	体部はやや深く、内湾しながら開く。口縁部外面には凹線状の窪みを有し、口唇部は薄く外側に向く。底部は丸底を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面はナデの後、放射状暗文を施す。	白色粒・黒色粒 内外—茶褐色	口縁部1/3破片。
11	須恵器高台付埴	口径(14.4) 器高6.5 高台径(8.0)	体部は内湾きみに開き、口唇部はやや外反する。高台部はやや外傾して貼り付けられ、底面に凹線を有する。	体部は内外面とも回転ナデ。底部は外面回転糸切りの後、高台部回転ナデ。	小石・白色粒 黒色粒 内外—灰褐色	約1/2。 ロクロ回転右回り。

第2号住居跡出土土器観察表

No.	器種	法量	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	須恵器 高台付 埴	口径(14.4) 器高 6.5 高台径7.9	体部は内湾ぎみに開き、口唇部は短く外反する。高台部はやや外傾して貼り付けられ、底面には凹線を有す。	体部は内外面とも回転ナデ。底部は外面回転糸切り後、高台部回転ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—灰褐色	約1/3。
2	甕	口縁部径 (20.6cm)	粘土紐積み上げ成形。口縁部はやや「コ」の字に近い形態を呈し、口唇部外面に窪みを有する。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒・赤色粒 内外—明茶褐色	口縁部1/4 破片。
3	坏	口径(12.7) 器高 3.8	口縁部はやや内湾ぎみに開く。体部は浅く、平底ぎみ。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	黒色粒・白色粒 内外—淡茶褐色	約1/4。
4	坏	口径 12.2 器高(3.5)	口縁部は内湾しながら開く。体部は浅く、底部は丸底。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—淡茶褐色	約3/4。体部外面 上半縦亀裂跡有。

第3号住居跡出土土器観察表

No.	器種	法量	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口縁部径 (23.4cm)	粘土紐積み上げ成形。口縁部は緩やかに外反し、口唇部内面に窪みを有する。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上位横方向・中位斜方向のケズリ。	白色粒・黒色粒 内外—淡茶褐色	口縁～胴部 上半のみ。
2	坏	口径(13.8) 器高(3.5)	体部は内湾しながら開く。器高は低く、底部は丸底。	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明茶褐色	口縁部1/4 破片。
3	坏	口径(13.6) 器高(4.1)	体部は内湾しながら開き、口唇部は薄く、上方に立つ。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	黒色粒 内外—明茶褐色	口縁部1/4 破片。

第4号住居跡出土土器観察表

No.	器種	法量	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径20.6 器高28.7 底径 4.4	粘土紐積み上げ成形。口縁部は「コ」の字状を呈し、口唇部は短く上方に立つ。胴部はあまり張らず、最大径を上位に有す。底部は平底。	口縁部内外面左回りのヨコナデ。胴部外面上半横方向のケズリ、下半縦方向のケズリ。胴部内面ナデ。底部外面ケズリ。	赤色粒・白色粒 内外—明茶褐色	ほぼ完形。 底部外面に 黒斑あり。
2	甕	口縁部径 (20.4cm)	粘土紐積み上げ成形。口縁部は「コ」の字状を呈する。上半の屈曲部は比較的長く、口唇部はやや内湾する。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面横方向のケズリ、内面匏ナデ。	赤色粒・白色粒 内外—淡橙褐色	口縁部1/3。
3	皿	口径(16.6) 器高(2.5)	口縁部は比較的短く緩やかに外反する。底部は平底。	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—淡茶褐色	口縁部1/4。
4	坏	口径(14.2) 器高(4.7)	体部は内湾ぎみに開き、口縁部は直線的に上方に向く。底部は平底を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部及び底部外面ケズリ。底部内面ナデ。	赤色粒・黒色粒 内外—暗茶褐色	約1/3。
5	坏	口径(12.4)	体部から口縁部は内湾ぎみに開く。底部は平底を呈す。	口縁部内外面ヨコナデ。底部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—暗褐色	約1/3。

第5号住居跡出土土器観察表

No.	器種	法量	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口縁部径 24.6cm 残存高 24.7cm	粘土紐積み上げ成形。口縁部は緩やかに外反する。口唇部は内外面付近に凹線状の窪みを有し、やや内反り状になる。口縁部と胴部の境にケズリによる段を有する。胴部はあまり張らない。	口縁部内外面左回りのヨコナデ。胴部外面上位横方向のケズリの後、全面縦方向のケズリ。内面上半部ナデ、下半ナデ。	赤色粒・黒色粒 内外-暗褐色	約3/4。
2	甕	口縁部径 22.0cm 残存高 26.0cm	粘土紐積み上げ成形。口縁部は緩やかに外反し、口唇部は短く横方向に向く。胴部はあまり張らない。	口縁部内外面左回りのヨコナデ。胴部外面上半横及び斜方向のケズリ、下半縦方向のケズリ。内面ナデ。	白色粒・黒色粒 内外-淡茶褐色	約1/3。
3	鉢	口径14.0 器高 8.0	体部は深く、内湾しながら開く。口縁部は直線的に内屈する。底部は丸底を呈す。	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ。内面は器表面が荒れていて不明瞭。	白色粒・黒色粒 赤色粒 内外-暗茶褐色	約2/3。
4	皿	口径16.9 器高 3.8	体部は浅く、内湾しながら開く。口縁部は緩やかに外反する。底部は丸底を呈す。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒 内外-淡茶褐色	約3/4。
5	坏	口縁部径 (14.6cm)	体部は内湾しながら開き、口縁部は体部より方向を変え上方へ向く。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	黒色粒・白色粒 内外-橙褐色	約1/2。
6	坏	口径14.2 器高 4.5	体部は内湾しながら開き、口縁部は体部より方向を変え上方へ向く。底部丸底。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒・黒色粒 内外-茶褐色	ほぼ完形。 外面に黒斑あり。
7	坏	口縁部径 (14.0cm)	体部は内湾しながら開き、口縁部は短く直立する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒・黒色粒 内外-明茶褐色	口縁部1/3 破片。
8	坏	口径(13.8) 器高(4.3)	体部は内湾しながら開き、口縁部は体部より方向を変えやや外反ぎみに直立する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒 内外-明茶褐色	約1/3。
9	坏	口径(13.6) 器高(3.8)	体部は内湾しながら開き、口縁部は上方に向く。	口縁部外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	黒色粒・白色粒 内外-淡黄褐色	約1/3。
10	坏	口径13.1 器高 3.6	体部は内湾ぎみにやや屈曲しながら開き、口縁部は短く立つ。底部は丸底ぎみ。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒・黒色粒 内外-淡茶褐色	約1/2。
11	坏	口径12.7 器高 3.9	体部は内湾しながら開き、口縁部はそのまま上方に向く。底部は丸底を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	黒色粒・白色粒 内外-暗茶褐色	約2/3。
12	坏	口縁部径 (12.6cm)	体部は内湾しながら開き、口縁部は上方に向いて立つ。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ。	白色粒 外-茶褐色 内-暗茶褐色	口縁部1/2 外面に黒斑あり。
13	坏	口径11.5 器高 3.5	体部は内湾しながら開き、口縁部は直立する。底部は丸底を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ。内面ナデ。	白色粒 外-淡茶褐色 内-暗茶褐色	ほぼ完形。 外面に黒斑あり。
14	須恵器 高台付 坏	口径(13.2) 器高 5.1 高台径9.5	体部は底部より直線的に外傾する。高台は外傾して貼り付けられている。	体部内外面とも回転ナデ。底部外面回転ヘラケズリの後、ナデを加える。	白色粒・黒色粒 内外-淡灰色	約1/2。

第8号住居跡出土土器観察表

No.	器種	法量	形態・成形手の特徴	調整手の特徴	胎土・色調	備考
1	甕	口径21.0 器高28.5 底径4.8	粘土紐積み上げ成形。口縁部は緩やかに外反する。胴部はあまり張らず、底部は小さな平底を呈する。	口縁部内外面左回りのヨコナデ。胴部外面上半横方向ケズリ、下半縦方向ケズリ。底部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒・赤色粒 内外—明茶褐色	ほぼ完成。 外面に煤の付着あり。
2	広口壺	口縁部径 22.8cm 残存高 31.6cm	粘土紐積み上げ成形。口縁部は緩やかに外反する。胴部は強く張り、最大径を中位に有する。	口縁部内外面左回りのヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒 内外—淡茶褐色	約2/3。 外面に煤の付着あり。
3	甕	口縁部径 21.0cm	粘土紐積み上げ成形。口縁部は「コ」の字状を呈し、屈曲部は比較的長い。胴部はあまり張らない。	口縁部内外面左回りのヨコナデ。胴部外面上半横方向ケズリ、下半縦方向のケズリ。内面ナデ。	白色粒・赤色粒 内外—橙褐色	口縁部～胴上半部のみ。 頸部外面指頭圧痕あり。
4	台付甕	口縁部径 13.0cm 残存高 17.5cm	粘土紐積み上げ成形。台部貼り付け接合。口縁部は一度立ち、ゆやかに外反する。胴部は張り、最大径を中位に有する。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面上半横方向のケズリ、下半縦方向のケズリ。内面ナデ。台部外面ケズリ、内面ナデ。	白色粒 内外—淡褐色	口縁部～台部上半のみ。 内外面に煤の付着あり。
5	小形甕	口径14.1 器高14.4 底径5.0	粘土紐積み上げ成形。口縁部は緩やかに外反し、口唇部は短く横に向く。胴部は張り、最大径を中位に有す。	口縁部内外面左回りのヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。	白色粒・黒色粒 内外—明茶褐色	ほぼ完成。 底部外面に黒斑あり。
6	甗	口径22.6 器高12.4 底径6.3 穿孔径2.2	粘土紐積み上げ成形。口縁部は緩やかに外反する。胴部は張らず、底部はやや丸みをもつ。	口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。	白色粒・黒色粒 内外—橙褐色	ほぼ完成。 底部穿孔は焼成前。
7	坏	口径15.6 器高4.3	体部は内湾しながら開き、口縁部は内湾ぎみに立つ。器高は低く、丸底を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ケズリ、内面ナデ。	黒色粒 内外—橙褐色	完成。
8	坏	口径13.2 器高3.1	体部は内湾しながら開き、口縁部はそのまま上方を向く。器高は低く、丸底を呈す。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ。内面ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明茶褐色	約1/2。
9	坏	口径13.0 器高3.4	体部は内湾しながら開き、口縁部はそのまま上方を向く。器高は低く、丸底を呈す。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ。内面ナデ。	白色粒 内外—淡橙褐色	完成。
10	坏	口径12.9 器高3.3	体部は内湾しながら開き、口縁部はやや立つ。器高は低く、丸底を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ。内面ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—明茶褐色	約3/4。体部外面上半縦亀裂顕著。
11	坏	口径12.8 器高3.7	体部は内湾しながら開き、口縁部はやや直線的に外傾する。底部は丸底を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ。内面ナデ。	黒色粒 内外—明茶褐色	約3/4。
12	坏	口径12.8 器高3.2	体部は内湾しながら開き、口縁部は上方に向かって立つ。器高は低く、丸底を呈す。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ。内面ナデ。	白色粒 内外—淡橙褐色	完成。
13	坏	口径12.8 器高3.5	体部は内湾しながら開き、口縁部はやや外傾する。器高は低く、丸底を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ。内面ナデ。	白色粒・黒色粒 内外—茶褐色	約3/4。 外面に黒斑あり。

No.	器種	法量	形態・成形手法の特徴	調整手法の特徴	胎土・色調	備考
14	坏	口径12.8 器高 3.5	体部は内湾しながら開き、口縁部はそのまま上方に向く。底部はやや平底さみ。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ。内面ナデ。	白色粒 内外—淡橙褐色	完形。
15	坏	口径12.8 器高 3.4	体部は内湾しながら開き、口縁部はやや外傾する。底部は丸底を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ。内面ナデ。	白色粒 外—淡橙褐色 内—淡茶褐色	完形。
16	坏	口径12.2 器高 3.8	体部は内湾しながら開き、上半はやや窪む。口唇部は内側に開く。底部は丸底。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ。内面ナデ。	黑色粒 内外—明茶褐色	約3/4。 器形はやや歪んでいる。
17	坏	口径12.4 器高 3.1	体部は内湾しながら開き、口縁部はそのまま上方に向く。底部は丸底を呈する。	口縁部内外面ヨコナデ。体部外面上半ナデ、下半ケズリ。内面ナデ。	黑色粒 内外—淡茶褐色	ほぼ完形。
18	須恵器 坏	口径(13.8) 器高 3.8 底径 7.1	ロクロ成形。体部は内湾さみに開き、口縁部はやや外反する。底部は平底を呈す。	内外面とも回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。	白色針状物質 内外—淡灰褐色	約1/3。 ロクロ回転右回り。
19	須恵器 坏	口径13.9 器高 3.8 底径 8.5	ロクロ成形。体部はやや直線的に開く。底部は平底を呈する。	内外面とも回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。	白色針状物質 内外—淡灰色	ほぼ完形。 ロクロ回転右回り。
20	須恵器 坏	口径13.6 器高 3.2 底径 7.4	ロクロ成形。体部はやや内湾さみに開き、口唇部は外側に開く。底部は平底。	内外面とも回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。	白色針状物質 内外—淡灰褐色	ほぼ完形。 ロクロ回転右回り。
21	須恵器 坏	口径13.6 器高 3.8 底径 7.4	ロクロ成形。体部はやや内湾さみに開き、口唇部は肥厚する。底部は平底を呈す。	内外面とも回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。	白色針状物質 黑色粒 内外—淡灰色	ほぼ完形。 ロクロ回転右回り。
22	須恵器 坏	口径13.6 器高 3.6 底径 8.2	ロクロ成形。体部はやや内湾さみに開く。底部は平底を呈する。	内外面とも回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。	白色針状物質 外—暗灰色 内—暗灰褐色	ほぼ完形。 ロクロ回転右回り。
23	須恵器 坏	口径13.4 器高 3.6 底径 7.7	ロクロ成形。体部はやや内湾さみに開き、口唇部は肥厚する。底部は平底を呈す。	内外面とも回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。	白色針状物質 外—淡灰褐色 内—淡灰色	ほぼ完形。 ロクロ回転右回り。
24	須恵器 坏	口径13.2 器高 3.6 底径 7.8	ロクロ成形。体部はやや内湾さみに開く。底部は平底を呈する。	内外面とも回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。	白色針状物質 黑色粒 内外—暗灰色	ほぼ完形。 ロクロ回転右回り。
25	須恵器 坏	口径13.0 器高 3.7 底径 7.1	ロクロ成形。体部はやや内湾さみに開き、口唇部は外側に開く。底部は平底。	内外面とも回転ナデ。底部外面回転ヘラケズリ。	白色針状物質 内外—暗灰褐色	ほぼ完形。 内外面に格子状の黒斑あり。
26	須恵器 坏	口径13.0 器高 3.5 底径 7.3	ロクロ成形。体部はやや内湾さみに開く。底部は平底を呈する。	内外面とも回転ナデ。底部外面回転糸切りの後、外周回転ヘラケズリ。	白色針状物質 黑色粒・白色粒 内外—淡灰色	ほぼ完形。 ロクロ回転右回り。
27	須恵器 高台付差	高台径 (14.8cm)	高台部貼り付け成形。高台部はやや外傾している。	胴部外回転ヘラケズリの後、回転ナデ。内面回転ナデ。	白色粒・黑色粒 内外—暗灰褐色	高台部1/5。

第IV章 新宮遺跡(D地点)の発掘調査

第1節 遺跡の概要

本遺跡は、「埼玉県遺跡地図」記載の児玉町No-030遺跡に該当する周知の埋蔵文化財包蔵地である。遺跡は、女掘川中流域の標高80mを測る平坦な本庄台地上の東側縁辺部に立地し、前章の南共和遺跡A地点の南側約400mにあたる工業団地外周道路のコーナー部付近を中心に位置している。

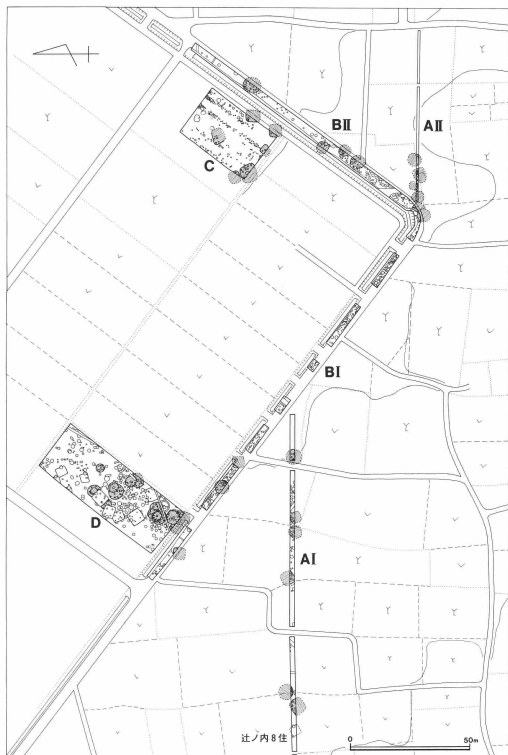
本遺跡は、ほ場整備(A地点)・町道改良(B地点)・民間工場建設(C・D地点)に伴って、すでに4地点の小規模で部分的な発掘調査が実施されており(第30図)、縄文時代中期後半と古墳時代中・後期～奈良時代の集落跡を主体とする遺跡であることが、ある程度明らかになっている。特に縄文時代中期後半の集落跡は、本遺跡の北東側約600mに位置する古井戸遺跡(宮井1989)や900mに位置する将監塚遺跡(石塚1986)に劣らない大規模な環状集落と推測されるもので、同時期に近接してこれらの大規模環状集落が3つ併存している当地域の集落の在り方が大変注目されている。

これまでに実施したA～D地点の発掘調査で検出された主な遺構は、住居跡49軒、円形周溝遺構1基、土塋約300基である。本遺跡におけるこれらの遺構の遺存状態は、周辺部の遺跡と同様に比較的良好的なものが多い。

縄文時代の遺構は、4地点で住居跡40軒と土塋250基以上が検出されており、そのほとんどが中期の勝坂式終末～加曾利EⅢ式に属するものである。これらの遺構は、AⅠ地点の調査区西端近くで検出された辻ノ内遺跡第8号住居跡(鈴木1991)より以西と、AⅡ地点の調査区東側では全く確認されておらず、またBⅠ地点の調査区中央部から東側の長い範囲で住居跡が検出されていないことから、AⅠ・BⅡ・C・D地点の各調査区に囲まれた内側の直径約100mの範囲を広場とし、外径200m～250mの範囲内に住居跡が累積的に環状分布する大規模集落跡と推測される。この環状集落の具体的な様相については、今後の整理と未調査部分の発掘調査を待たなければならないが、現段階までの調査によれば、勝坂式終末段階にAⅠ地点の調査区東側からD地点の範囲に、比較的小規模と思われる集落が出現し、加曾利EⅠ式以降継続的に集落が展開し、遅くとも加曾利EⅡ式後半段階には大規模な環状集落を構成してピークを迎え、そして加曾利EⅢ式段階のうちには集落が衰退し廃絶に向かうようである。本遺跡のこのような集落の推移は、将監塚遺跡や古井戸遺跡と概ね同様であり、近接する3つの大規模環状集落の密接に関連した様相が窺われ、これらの集落の具体的な動態が当地域における中期後半の社会的変化を体现していることが予想されよう。

古墳時代～奈良時代の遺構は、住居跡9軒・円形周溝遺構1基・土塋2基があり、すべてD地点で検出されている。古墳時代の遺構は、本遺跡の北東側に隣接する塚島遺跡や西側の辻ノ内遺跡及び南側の上真下東遺跡に関連する集落群の一部と考えられるもので、集落内の特別な施設と推測される円形周溝遺構が本遺跡で検出されていることは注目される。奈良時代の遺構も、本遺跡の北側に隣接する南共和遺跡から西側の辻ノ内遺跡に連なる集落群の一部と考えられるものである。

今回報告するD地点は、本遺跡の北西端付近に位置している。調査区内より検出された遺構は、縄文時代中期後半の住居跡14軒・土塋160基、古墳時代の住居跡5基(中期1・後期4)・円形周溝遺構1基、奈良時代の住居跡4基と時期不明の土塋2基である。縄文時代の遺構は、調査区の全域に分布しているが、住居跡は調査区中央部から南側に集中しており、他地点の様相から見て、本地



第30図 新宮遺跡A～D地点全体図



第31図 新宮遺跡D地点全測図

点の住居群は環状集落の西端付近にあたるものと推測される。土壌は住居跡の周辺に密集する様相が認められ、住居跡の見られない調査区の北東側や西端部では比較的まばらに分布している。古墳時代の住居跡は、調査区中央部に弧状に並んでおり、その南側に近接して円形周溝遺構が位置している。これらはすべてが同時に存在していたものではなく、住居の軸方向やカマドの位置も様々であるが、住居の南側にカマドが付設されているものはない。奈良時代の住居跡は、調査区北側に4軒がまとめて位置している。これらの住居跡もすべてが同時に存在していたものではないが、古墳時代後期の住居跡群と違って、住居の軸方向を揃えて、カマドもすべて東側に付設されるといった特徴が見られる。

第2節 古墳・奈良時代の遺構と遺物の概要

1. 竪穴式住居跡（第32～35図、第37～41図）

D地点では、調査区内より古墳時代の住居跡5軒と奈良時代の住居跡4軒が検出されている。これらの住居跡は一般的に掘り込みが深く、概して遺構の遺存状態は良好であるが、古墳時代中期の遺構として1軒だけ検出された第7号住居跡のように掘り込みが浅く、住居の床面がハードローム層上の茶褐色土中に構築されているものもある。

古墳時代の住居跡は、中期1軒（第7号住居跡）と後期4軒（第5・6・8・9号住居跡）であり、これらは調査区中央部に密集しているが、特に後期の住居跡は、近接して弧状に並んでいる。中期の第7号住居跡（第41図）は、456cm×400cmの北西方向に長軸をもつ長方形を呈し、住居の対角線上に比較的浅い4本主柱穴をもつ。住居内に貯蔵穴やカマドの痕跡は見られず、おそらく住居北西側の主柱穴間の壁寄りの位置（攪乱内）に炉を有していたものと推測される。出土遺物は、南側コーナー部の床面上より横転した状態で台付甕（第44図）が出土しているが、この他に和泉式特有の口縁部が直線的に短く開く坏の破片も見られる。本住居跡の時期は、カマドを持たないものの、出土土器より和泉式後半に属する可能性が考えられる。

後期の住居跡は、いずれも確認面からの深さが50cm程度あり、遺存状態は極めて良好である。これらの住居跡は、4～5m位の比較的整った方形を呈し、住居主軸方向の壁中央部にカマドをもつ。カマドは、燃烧部が壁を掘り込まない形態のもので、ロームブロックを主体とする暗黄褐色土を用いて構築しているものが多いが、第6号住居跡のカマドは他の住居跡と異り、唯一淡灰褐色粘土を用いている。また、第9号住居跡では左袖の壁と接する部分に、縄文時代中期後半の深鉢土器の胴部（第45図4）を正位に据えて、袖の補強に使用している。主柱穴は、円形の比較的浅い4本主柱穴であるが、規模や深さは様々である。貯蔵穴は、第6号住居跡と第8号住居跡に見られるが、いずれも規模が小さく浅いものである。壁溝は、第6号住居跡と第9号住居跡に見られるが、第6号住居跡は全周せず住居の北東側コーナー部で途切れている。

出土遺物は、カマド内やその周辺の床面上より土器が出土している。土師器は、甕・壺・大形鉢・鉢・坏・埴などが出土しているが、第8号住居跡と第9号住居跡では該期の住居跡に一般的な供膳器である「模倣坏」が極端に少なく、かわりに器内が厚く雑な作りの坏や埴が多く見られる。また、第8号住居跡では、住居出土の土器とあまり時間差の認められないこれらの雑な作りの坏や埴が、大形鉢とともにまとまって住居の南東側の覆土中に投げ込まれており注目される。須恵器は、第6号住居跡で短頸壺の破片が1点出土しているだけである（第43図2）。これらの土器は、すべて鬼高Ⅱ式に属するものであるが、第6号住居跡は第5号住居跡や第8号住居跡に比べて、若干新しい様相が窺える。この他では、第9号住居跡で棒状の土製品と白玉が1点ずつ出土している（第46図）。

奈良時代の住居跡は、調査区北側で4軒が近接して検出されているが、第2号住居跡と第3号住居跡は遺構の大半が調査区外に位置するため、その全容は不明である。重複関係は、第1号住居跡と第2号住居跡に認められ、第2号住居跡が第1号住居跡を切っている。これらはいずれも4m位の規模で、住居の主軸を北東方向にとり、カマドは住居北東壁に付設されているが、壁の中央部よ

り東側コーナー部寄りの位置に、壁を掘り込んで構築される特徴をもつ。住居内の施設はあまり見られないが、第1号住居跡では壁溝が全周し、第4号住居跡ではカマドの右側に比較的浅い貯蔵穴風の掘り込みが見られる。

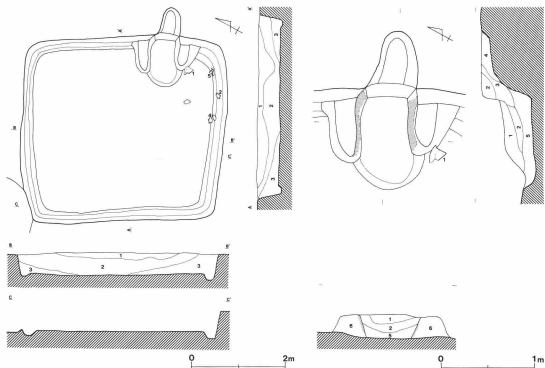
出土遺物は、各住居跡とも比較的少なく、土師器と第4号住居跡から出土した砥石(第46図)がある。土師器は、甕・広口壺・皿・坏がある。甕は、第2号住居跡から出土しており、口縁部上半にヨコナデによる特徴的な段をもち、胴部上半斜方向・胴部下半縦方向のヘラケズリが施されるものである。広口壺は、第4号住居跡から出土しており、器高41cmを測るほぼ完形の大形品で、口縁部の外反が弱く胴部が強く張る形態のものである。皿は、第1号住居跡と第4号住居跡から出土している。これらは口縁部径が19cm～17cmを測るものであるが、比較的体部の浅いものが多い。また、第4号住居跡では口縁部径が15cm代のやや小ぶりで器肉が薄く偏平なものも見られる。坏は、各住居跡から出土しており、口縁部が短く屈曲し体部が丸底を呈する北武蔵型坏が主体であるが、第1号住居跡と第2号住居跡の坏に比べて第3号住居跡と第4号住居跡の坏は、器形が若干偏平化し、体部ヘラケズリが口縁部直下まで及んでいないなど新しい特徴が認められる。また、第1号住居跡と第4号住居跡では、分量の異なる坏も見られる。これらの土師器は、各器種の特徴から4軒とも概ね8世紀前半に収まるものと考えられるが、このうちの第1号住居跡と第2号住居跡が8世紀第1四半期、第3号住居跡と第4号住居跡が8世紀第2四半期に位置付けられよう。これら4軒の住居跡は、その近接した位置関係や重複関係及び出土土器から見て、すべてが同時に存在していたものではなく、おそらく第1号住居跡→第2号住居跡→第4号住居跡→第3号住居跡の順に、調査区内では変遷していったと推測される。

2. 円形周溝遺構 (第42図)

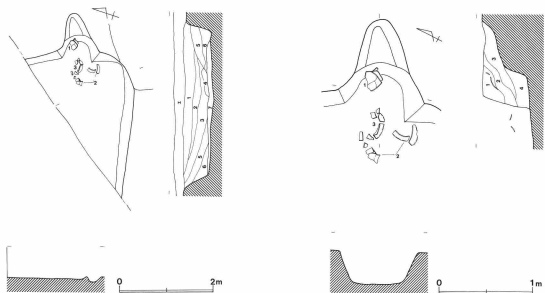
第9号住居跡の南側に近接して1基検出されている。平面形は、4.80m×4.74mの円形を呈し、周溝は、40cm～50cm幅の比較的均整のとれた形態で、全周している。深さは10cm程度あり、底面は広い平坦な面をなしている。覆土は、住居跡と類似した黒褐色土の単一層である。周溝に囲まれた内側や外側には、本遺構と関係するようなピットはまったく存在しない。出土遺物は、覆土中より土器片がごく少量出土しただけである。本遺構の時期は、覆土の状態より古墳時代後期のものと考えられる。

古墳～奈良時代住居跡一覧表

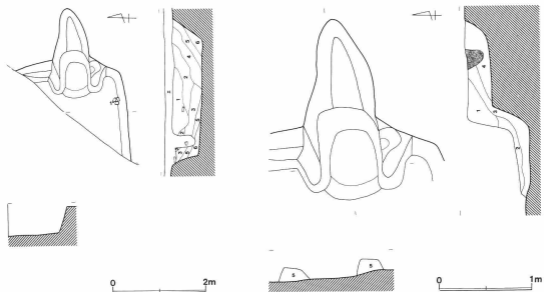
住居番号	形態	規	横	高さ	主軸方位	カマド(規)	横	主柱穴	貯蔵穴	時期
1住	長方形	426cm×388cm	46cm	N-60°-E	北東壁(167cm×145cm)	×	×	真間		
2住	不明	不明	52cm	N-77°-E	北東壁(108cm×91cm)	不明	不明	真間		
3住	不明	不明	64cm	N-85°-E	東壁(192cm×121cm)	不明	不明	真間		
4住	不整形	392cm×336cm	24cm	N-72°-E	北東壁(132cm×95cm)	×	○	真間		
5住	方形	530cm×504cm	56cm	N-49°-E	北東壁(95cm×87cm)	4本主柱	×	鬼高		
6住	方形	488cm×496cm	44cm	N-75°-W	北西壁(174cm×105cm)	4本主柱	○	鬼高		
7住	長方形	456cm×400cm	12cm	N-23°-W	なし	4本主柱	×	和泉		
8住	方形	556cm×592cm	58cm	N-35°-W	北西壁(128cm×102cm)	4本主柱	○	鬼高		
9住	方形	574cm×566cm	58cm	N-68°-E	北東壁(110cm×?)	4本主柱	不明	鬼高		



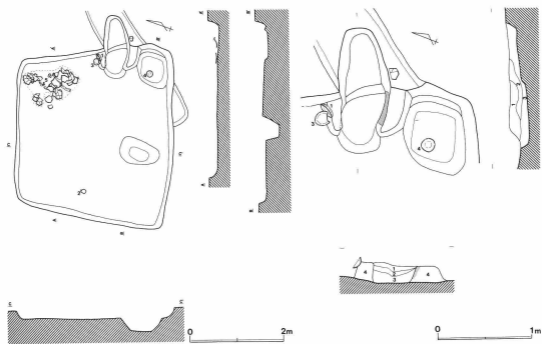
第32图 第1号住居跡



第33图 第2号住居跡



第34图 第3号住居跡



第35图 第4号住居跡

第1号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に、小石を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を多量に、小石を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黒褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第1号住居跡カマド土層説明

- 第1層：淡黄褐色土層（ローム粒子を主体に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗赤褐色土層（焼土ブロックを多量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（焼土粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗褐色土層（焼土粒子を均一に、炭化粒子・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第6層：淡黄褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを多量に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（淡灰色粘土ブロック・焼土粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第6層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第7層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第2号住居跡カマド土層説明

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗黄褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第3号住居跡土層説明

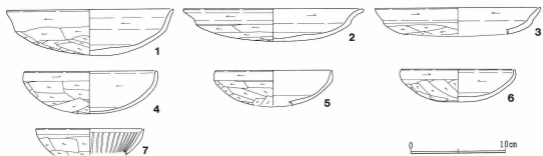
- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・小石を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黒褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第3号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗赤褐色土層（焼土粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第4号住居跡カマド土層説明

- 第1層：淡褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗赤褐色土層（焼土粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に、炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗黄褐色土層（淡褐色粘土ブロック・ロームブロックを均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）



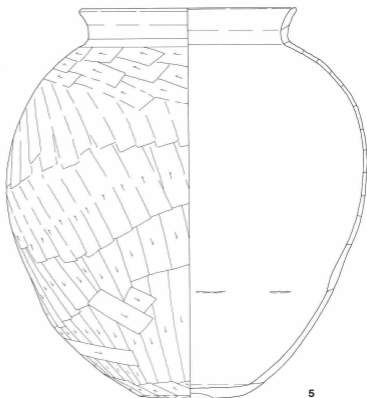
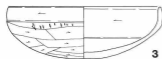
第1号住居跡



第2号住居跡

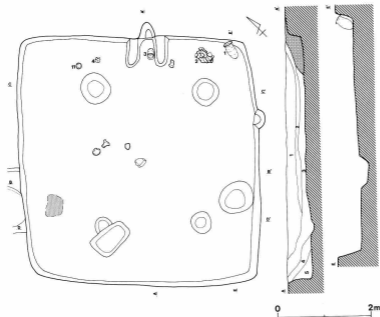


第3号住居跡



第4号住居跡

第36圖 奈良時代住居跡出土土器



第5号住居跡土層説明

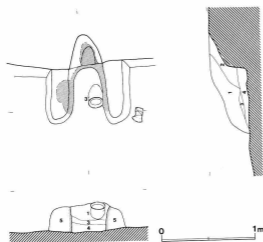
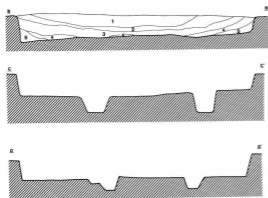
第1層：黒褐色土層（礫・小石を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、小石を微量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：黒褐色土層（小石を均一に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：暗褐色土層（小石・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：黒色土層（ローム粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性に富み、しまりはない。）



第5号住居跡カマド土層説明

第1層：暗茶褐色土層（ローム粒子・小石を均一に含む。粘性・しまりともない。）

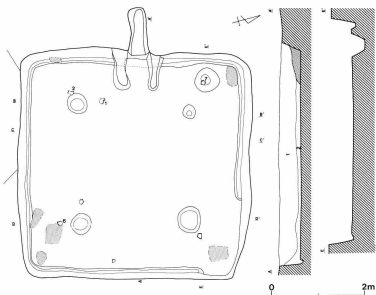
第2層：淡黄褐色土層（ローム粒子を多量に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第3層：暗赤褐色土層（焼土粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

第4層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：暗黄褐色土層（ローム粒子を主体に、小石を均一に含む。粘性はなく、しまりを有する。）

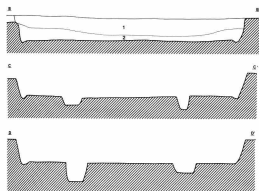
第37図 第5号住居跡



第6号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層（小石を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第2層：黒褐色土層（ローム粒子を均一に、小石・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）



第6号住居跡カマド土層説明

第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

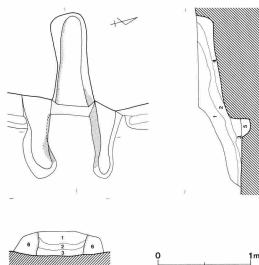
第2層：暗赤褐色土層（焼土ブロック・焼土粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第3層：黒褐色土層（焼土粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

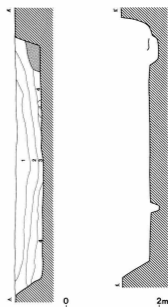
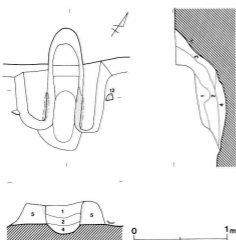
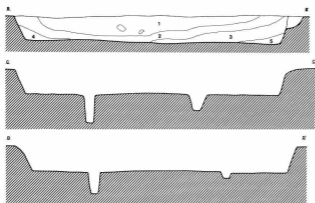
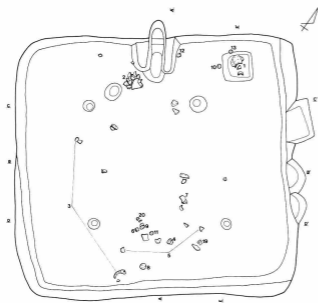
第4層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第5層：黒色土層（ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第6層：淡灰褐色土層（淡灰褐色粘土を主体とする。粘性はなく、しまりを有する。）



第38図 第6号住居跡



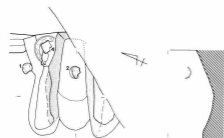
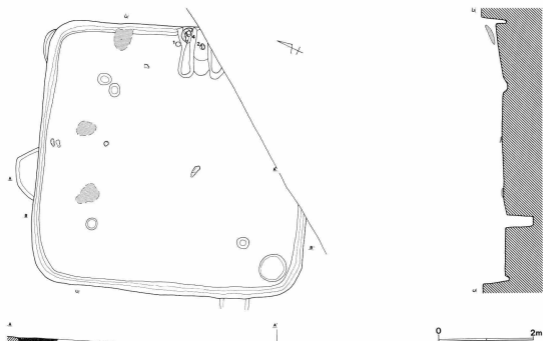
第8号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・小石を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・小石を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、小石を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗黄褐色土層（ローム粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）

第8号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗赤褐色土層（ロームブロック・焼土ブロックを多量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：黒褐色土層（焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第39図 第8号住居跡



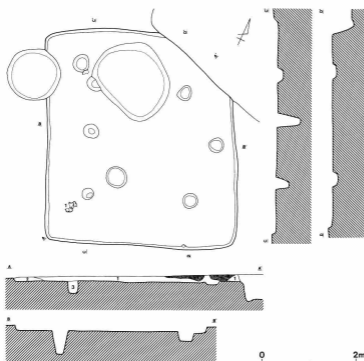
第9号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗赤褐色土層（焼土粒子を多量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性・しまりともない。）

第9号住居跡カマド土層説明

- 第1層：暗黄褐色土層（ロームブロックを多量含む。粘性はなく、しまりを有する。）

第40図 第9号住居跡



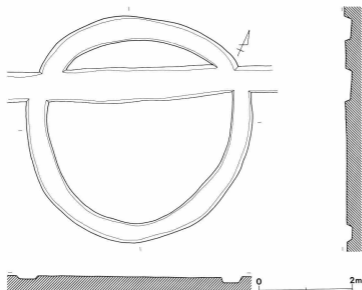
第7号住居跡土層説明

第1層：黒褐色土層（ローム粒子・
 焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

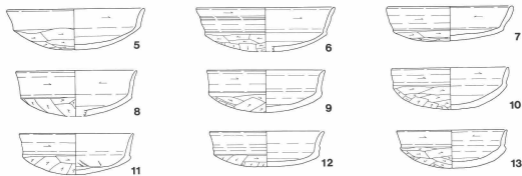
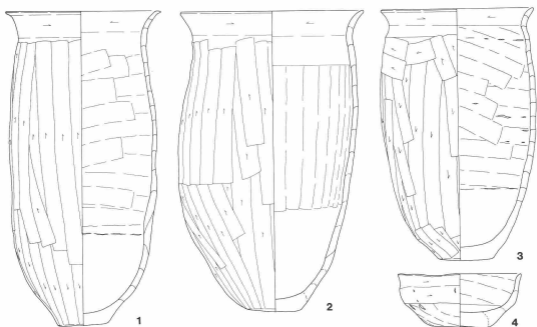
第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を
 均一に含む。粘性・しまりともない。）

第3層：黒褐色土層（ローム粒子を
 微量含む。粘性・しまりともない。）

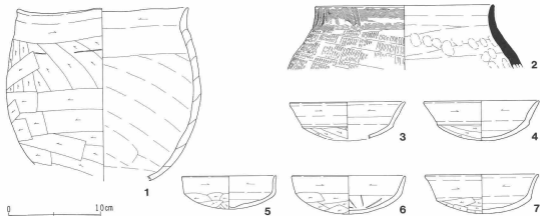
第41図 第7号住居跡



第42図 第1号円形周溝遺構

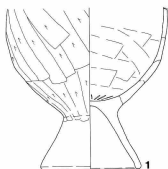


第5号住居跡

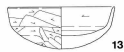
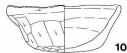
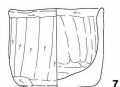
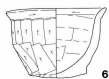
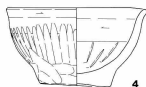
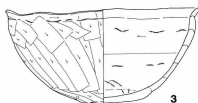
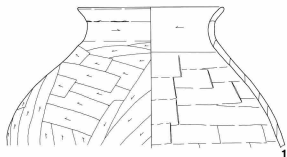
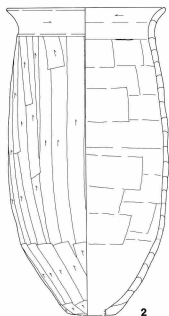


第6号住居跡

第43図 古墳時代住居跡出土土器(1)

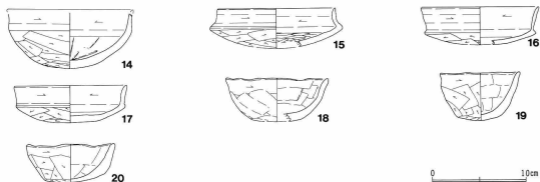


第7号住居跡

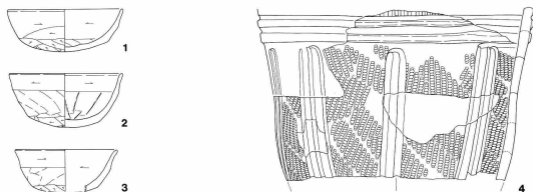


第8号住居跡(1)

第44图 古墳時代住居跡出土土器(2)

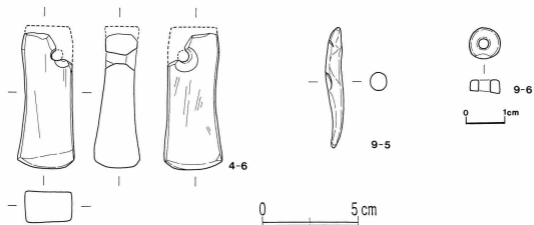


第 8 号住居跡(2)



第 9 号住居跡

第45圖 古墳時代住居跡出土土器(3)



第46圖 古墳～奈良時代住居跡出土石・土製品

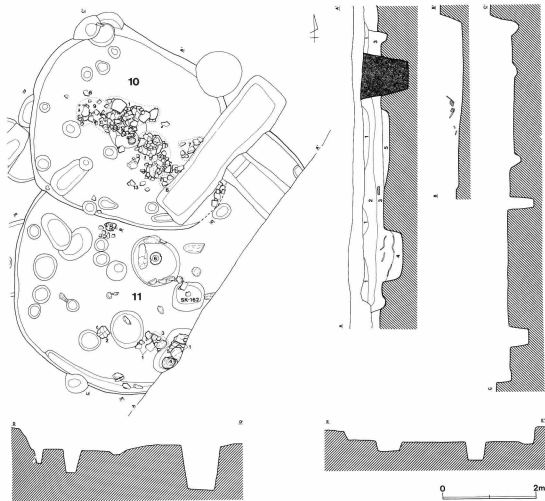
第3節 縄文時代の遺構と遺物の概要

1. 竪穴式住居跡（第47～53図）

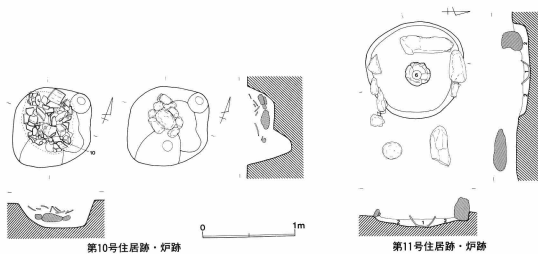
縄文時代の住居跡は、重複するものも含めて全部で14軒が検出されている。これらの時期は、中期中葉の勝坂式終末から中期後半の加曾利EⅢ式に及ぶもので、勝坂式終末段階5軒（第13・16・17・21・23号住居跡）、加曾利EⅠ式新段階2軒（第11・20号住居跡）、加曾利EⅡ式後半段階5軒（第10・12・14・15・19号住居跡）、加曾利EⅢ（曾利Ⅳ）式段階2軒（第18・22号住居跡）である。勝坂式終末段階の住居跡は、いずれも重複しているためその全容がわかるものはないが、平面形は円形か楕円形を呈すると思われる。規模は、直径4m～5mのものが主体であるが、第23号住居跡は直径6m以上あり、他の住居跡よりも一回り大きい規模を有している。主柱穴は、4～5本のものが主体であるが、比較的浅いものが多い。炉は、いずれも住居の中央より若干ずれた場所に位置しており、掘り方は底面が平坦な円形のものが多いが、素掘りの地床炉（第17・21号住居跡）と胴部下半を欠いた土器を埋設したもの（第13・16・23号住居跡）がある。加曾利EⅠ式新段階の住居跡は、楕円形（第11号住居跡）と隅丸方形（第20号住居跡）の形態を呈するが、主柱穴の配置や壁溝等は不明確である。炉は、住居の中央付近に位置し、中央部に土器の下半部を埋設した石囲炉（第11号住居跡）と石敷炉（第20号住居跡）がある。また、第11号住居跡では住居南側の壁際に土壌を伴い、その中から3個体の土器（第68図1・4・5）が出土している。加曾利EⅡ式後半段階の住居跡は、円形とやや壁の張った隅丸（長）方形（第15号住居跡）の形態を呈するものがあるが、後者は比較的小形の住居跡に多い特徴が見られる。柱穴は、主柱穴が明確なものは少なく、壁柱穴が巡るものが主体である。炉は、住居の中央部に位置するものが多く、小形の第15号住居跡は炉をもたない可能性が高い。炉の形態は、素掘りの地床炉はなく、石囲炉（第12・18・22号住居跡）と石敷炉（第10号住居跡）である。このうち第10号住居跡の石敷炉（第47図）は、中央に大きな石を置き、その周囲に小さな石を配するもので、集石土壌の底面に見られる配石と同一構造の石敷であることは注目されよう。

縄文時代住居跡一覧表

住居番号	形態	規模	深さ	炉(掘り方規模、深さ)	主柱穴	埋壁	時期	備考
10住	隅丸不整形	460cm×380cm	46cm	石敷炉(99cm×84cm,29cm)	不明確	×	加曾利EⅡ新	覆土中に多量の土器(EⅠ～Ⅲ)を伴発。
11住	楕円形	650cm×?	26cm	石囲炉(102cm×102cm,14cm)	不明確	×	加曾利EⅠ新	住居内に土器埋設土壌あり。
12住	円形	546cm×536cm	32cm	石囲炉(100cm×98cm,18cm)	壁柱	×	加曾利EⅡ新	13・14住を切る。
13住	不明	?×428cm	20cm	埋塞炉(84cm×78cm,15cm)	不明	×	勝坂末	12住に切られる。
14住	不明	不明	22cm	不明	壁柱	×	加曾利EⅡ新	12住に切られる。
15住	不整形	356cm×338cm	22cm	不明	不明確	×	加曾利EⅡ新	
16住	楕円形	530cm×450cm	54cm	埋塞炉(規模不明,14cm)	5本	×	勝坂末	SK161と重複。
17住	(円形)	440cm×?	48cm	地床炉(50cm×48cm,14cm)	不明	×	勝坂末	
18住	隅丸不整形	354cm×350cm	20cm	石囲炉(85cm×82cm,14cm)	4本	×	加曾利EⅢ	19住を切る。覆土中に多量の土器を伴発。
19住	不整形	612cm×580cm	10cm	不明	壁柱	×	加曾利EⅡ新	20住を切る。
20住	(隅丸方形)	?×(360)	10cm	石敷炉(96cm×73cm,12cm)	不明確	×	加曾利EⅠ新	21住を切る。
21住	円形	470cm×?	16cm	地床炉(?×37cm,14cm)	壁柱?	×	勝坂末	18～20住に切られる。
22住	隅丸不整形	400cm×370cm	32cm	石囲炉(108cm×75cm,10cm)	壁柱?	×	加曾利EⅢ	23住を切る。
23住	円形	646cm×644cm	32cm	埋塞炉(69cm×66cm,16cm)	4本?	×	勝坂末	SK92を切る。



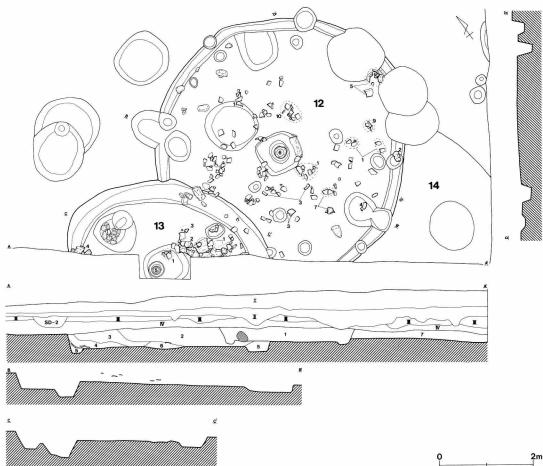
第10・11号住居跡



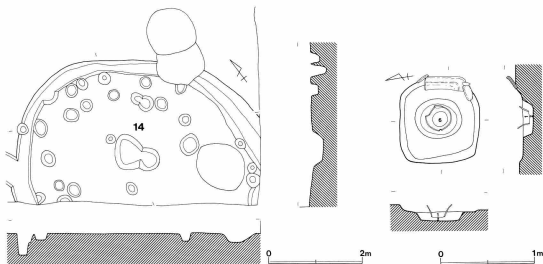
第10号住居跡・炉跡

第11号住居跡・炉跡

第47図 第10・11号住居跡



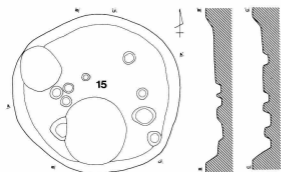
第12・13号住居跡



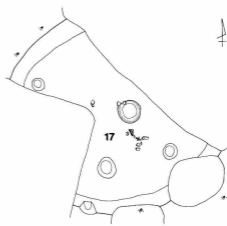
第14号住居跡

第12号住居跡・炉跡

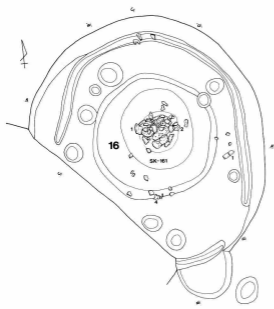
第48図 第12・13・14号住居跡



第15号住居跡



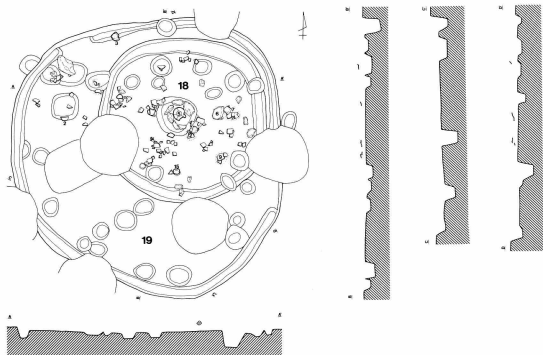
第17号住居跡



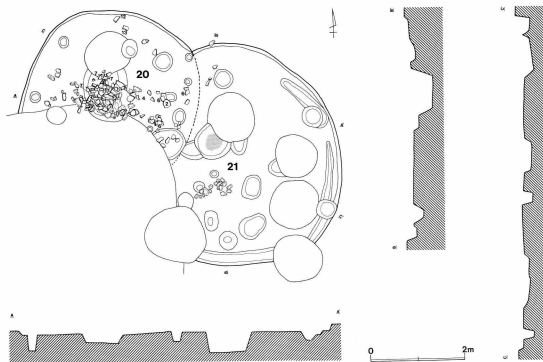
第16号住居跡



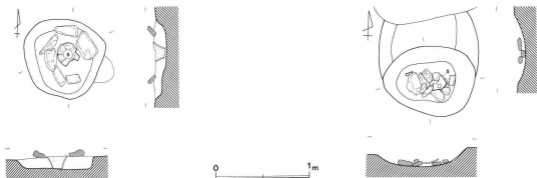
第49図 第15・16・17号住居跡



第50図 第18・19号住居跡



第51図 第20・21号住居跡



第18号住居跡炉跡

第20号住居跡炉跡

第52図 第18・20号住居跡炉跡

第11号住居跡土層説明

- 第1層：茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（小石・ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：黒褐色土層（炭化粒子を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第11号住居跡炉土層説明

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第12～14号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子・ロームブロックを微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第6層：暗褐色土層（焼土粒子を多量に、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第7層：暗褐色土層（ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第12号住居跡炉土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第22・23号住居跡土層説明

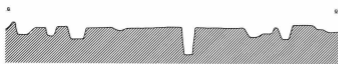
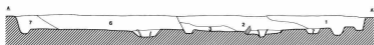
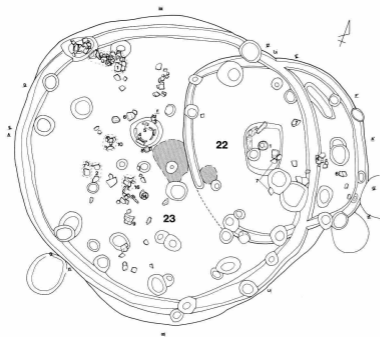
- 第1層：暗褐色土層（小石・ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：黒褐色土層（小石を均一に、焼土粒子・ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（小石を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：黒褐色土層（小石・焼土粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第5層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第6層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第7層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第22号住居跡炉土層説明

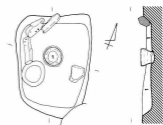
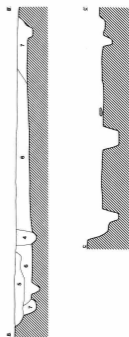
- 第1層：暗茶褐色土層（焼土粒子を均一に、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第23号住居跡炉土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）



第53图 第22·23号住居跡



第22号住居跡・炉跡



第23号住居跡・炉跡



2. 土 壙 (第54~65図)

縄文時代の土壙は、調査区内より全部で160基検出されているが、この他にも住居の覆土中に土壙が掘削されていたと推測されるものもある。形態は、平面形が円形や楕円形を呈し、底面は平坦なものが一般的であるが、第92号土壙(第61図)だけは壁がオーバーハングする袋状に類似した形態を呈しており特異である。これらの中には、集石を伴うものや完形もしくはそれに近い土器を伴うものなどもあるが、多くは少量の土器片が出土するだけのものであり、その性格が推測できるものは少ない。これらの多くは、出土土器が少ないため時期比定が困難であるが、概ね縄文時代の住居跡と同じ勝坂式終末から加曾利EⅢ式の時期に該当すると考えてよいであろう。

集石土壙は、全部で19基検出されている(第54・55図)。これらは、覆土上半に大量の礫を伴うもの(I類-第97・98号土壙)、底面に配石をもつもの(Ⅱ類-第2・29・39・58・89・161号土壙)、覆土中に比較的まとまった礫を伴うもの(Ⅲ類-第13・71・72・78・85・99・119・129・137・139・142号土壙)があり、I・Ⅱ類はその覆土中の礫や底面の配石に焼石や煤の付着したものが顕著に見られる。完形に近い土器を伴う土壙は、土器の出土状態の差異によって埋設・埋納・廃棄などが考えられ、その性格は様々ではない。この中で特に第34号土壙(第58図)は、完形の大形深鉢土器(第92図)を正位に埋設したもので、覆土下半には炭化粒を主体とする灰が充満していることから、土器を埋設して一時的に火を使用した後、土器の上半部を破壊して埋めもどすと言った一連の行為が推測されるものである。

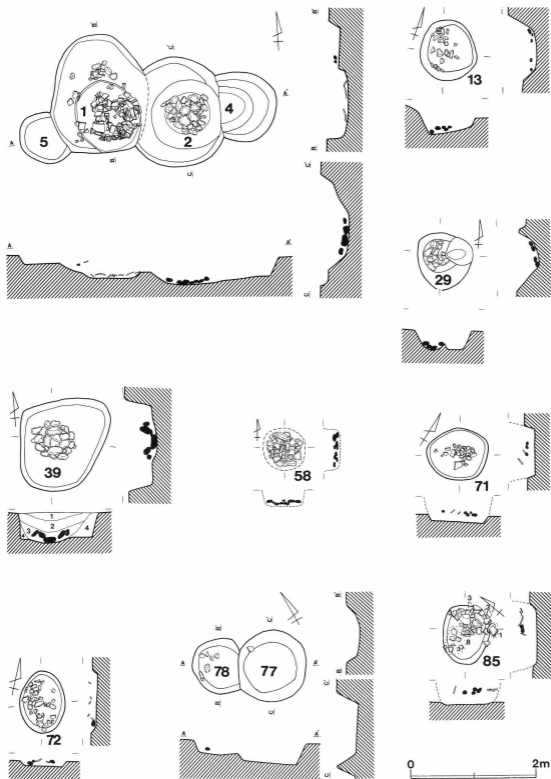
土壙一覧表

土壙番号	挿 図	形 態	規 模	深 さ	時 期	出 土 遺 物	備 考
1	第54図	円 形	114cm×97cm	36cm	加曾利EⅠ	大形深鉢他	
2	第54図	円 形	(110)×107cm	44cm	加曾利EⅡ	土器片少量	集石土壙。
3	第55図	不整円形	148cm× ?	17cm	加曾利EⅡ		S K 98に切られる。
4	第54図	(円 形)	? × 70cm	36cm	時期不明		S K 2に切られる。
5	第54図	(円 形)	? × 80cm	14cm	時期不明		
6	第56図	楕 円 形	117cm×89cm	18cm	加曾利EⅡ	土器片少量	S K 75・76を切る。
7	第56図	円 形	94cm×90cm	15cm	勝 坂 末	土器片少量	
8	第56図	円 形	122cm×113cm	35cm	勝 坂 末	土器片少量	
9	第56図	円 形	117cm×113cm	28cm	時期不明		18・19住を切る。
10	第56図	円 形	112cm×107cm	56cm	加曾利EⅡ	土器片少量	7住に切られる。
11	第56図	不整方形	102cm×86cm	17cm	古墳時代前期以降		5住を切る。
12	第56図	不 整 形	(105)×104cm	30cm	加曾利EⅡ	土器片少量	5住に切られる。
13	第54図	円 形	94cm×86cm	45cm	加曾利EⅡ		集石土壙。
14	第56図	円 形	106cm×105cm	15cm	勝 坂 末	大形深鉢	
15	第56図	円 形	131cm×122cm	11cm	加曾利EⅡ	土器片少量	
16	第56図	円 形	130cm×117cm	8 cm	加曾利EⅡ	土器片少量	
17	第56図	円 形	124cm×117cm	48cm	勝 坂 末	土器片・打製石斧	
18	第56図	円 形	102cm×100cm	22cm	加曾利EⅡ	土器片少量	
19	第56図	円 形	86cm×83cm	35cm	加 曾 利 E	土器片少量	
20	第56図	円 形	97cm×97cm	23cm	勝 坂 末	土器片少量	
21	第57図	不整円形	115cm×110cm	40cm	加曾利EⅡ	土器片少量	
22	第57図	不整円形	81cm×72cm	12cm	加曾利EⅡ	土器片少量	
23	第57図	円 形	103cm×94cm	40cm	加曾利EⅠ	大形深鉢・打製石斧・石皿・磨石	14住に切られる。S K 25の土器片と接合。
24		不 明	? × ?	25cm	勝 坂 末	土器片少量	

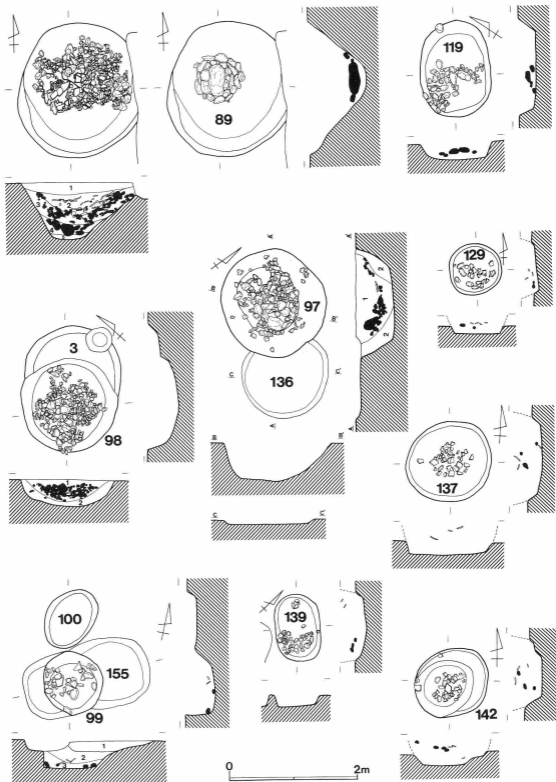
土壌番号	挿図	形態	規模	深さ	時期	出土遺物	備考
25	第57図	不整形円形	113cm×(100)	32cm	勝坂末	土器片少量・石皿	14住に切られる。
26	第57図	円形	107cm×101cm	47cm	加曾利EⅡ	土器片・小形磨製石斧	12住に切られる。
27	第57図	不整形円形	123cm×115cm	42cm	勝坂末	土器片少量	12住に切られる。
28	第57図	円形	112cm×103cm	43cm	時期不明		12住を切る。
29	第54図	円形	90cm×85cm	33cm	時期不明	磨石	集石土壌。13住を切る。
30	第57図	不整形円形	116cm×110cm	67cm	加曾利EⅠ	土器片・横刃型石器・凹石	19住に切られる。
31	第57図	(円形)	134cm×(130)	39cm	加曾利EⅡ	土器片少量	S K32・66を切る。
32	第57図	不整形円形	126cm×108cm	88cm	加曾利EⅠ	土器片・打製石斧	S K31に切られる。
33	第57図	不整形	153cm×?	71cm	加曾利EⅡ	土器片・打製石斧	
34	第58図	不整形	(170)×153cm	101cm	加曾利EⅠ	大形深鉢	S K35に切られる。
35	第58図	円形	120cm×(117)	45cm	加曾利EⅠ	土器片少量	S K34を切る。
36	第57図	(円形)	(140)×139cm	82cm	勝坂末	土器片少量	
37	第58図	楕円形	152cm×130cm	70cm	加曾利EⅡ	浅鉢等	
38	第58図	円形	133cm×125cm	53cm	勝坂末	深鉢	
39	第54図	不整形	142cm×128cm	48cm	勝坂末	土器片・石皿	集石土壌。
40	第58図	不整形	110cm×(100)	53cm	勝坂末	土器片少量	
41	第57図	不整形円形	95cm×85cm	30cm	加曾利EⅡ	土器片少量	
42	第58図	(円形)	118cm×(110)	28cm	勝坂末	土器片少量	S K43を切る。
43	第58図	円形	115cm×107cm	47cm	勝坂末	土器片少量	S K42に切られる。
44	第58図	円形	142cm×123cm	57cm	時期不明		15住を切る。
45	第59図	不整形円形	? × 117cm	40cm	勝坂末	土器片少量	16住に切られる。
46	第58図	不整形円形	237cm×215cm	44cm	加曾利EⅡ	土器片・磨製石斧	S K47・138を切る。
47	第58図	長楕円形	252cm×110cm	60cm	加曾利EⅠ~Ⅱ	土器片・横刃石器	S K46に切られる。
48	第59図	不整形円形	83cm×75cm	21cm	加曾利EⅡ	土器片少量	S K142を切る。
49	第59図	不整形円形	87cm×77cm	12cm	加曾利EⅡ	土器片少量	S K138・139を切る。
50	第59図	不整形円形	117cm×98cm	23cm	加曾利EⅡ	土器片少量	S K130を切る。
51	第59図	不整形円形	124cm×(110)	50cm	勝坂末	土器片少量	S K52を切る。
52	第59図	不整形円形	99cm×83cm	48cm	時期不明		S K51に切られる。
53	第59図	不整形	135cm×100cm	58cm	加曾利EⅡ	土器片少量	17住を切る。
54	第59図	長方形	154cm×113cm	24cm	古代		17住を切る。
55	第60図	不整形円形	160cm×?	20cm	時期不明		S K74を切る。
56	第59図	不整形円形	103cm×88cm	15cm	加曾利EⅡ	土器片少量	20住を切る。
57	第59図	円形	120cm×120cm	24cm	加曾利EⅡ	大形深鉢・凹石・礫器	19住を切る。
58	第54図	不明	? × ?	?	勝坂末	土器片・石皿・磨石・凹石	集石土壌。
59	第59図	不整形円形	107cm×(85)	20cm	加曾利EⅡ	土器片少量	S K60を切る。
60	第59図	不整形円形	106cm×92cm	45cm	時期不明		S K59に切られる。
61	第59図	不整形円形	111cm×91cm	45cm	加曾利EⅡ	土器片少量	21住を切る。
62	第59図	不整形円形	106cm×95cm	9cm	加曾利EⅡ	土器片・打製石斧	
63	第60図	不整形	? × ?	10cm	加曾利EⅡ	土器片少量	
64	第60図	円形	128cm×120cm	43cm	加曾利EⅠ	横刃型石器・凹石	18・19住に切られる。
65	第60図	楕円形	(130)×110cm	13cm	加曾利EⅡ	土器片少量・凹石	S K64を切る。
66	第60図	不整形円形	85cm×82cm	17cm	加曾利EⅠ	土器片少量	S K31に切られる。
67	第60図	不整形円形	129cm×112cm	41cm	加曾利EⅡ	土器片少量	19住を切る。
68	第60図	不整形円形	153cm×118cm	49cm	加曾利EⅠ	土器片少量	
69	第60図	楕円形	111cm×96cm	17cm	勝坂末	深鉢・磨石	
70	第60図	円形	108cm×103cm	43cm	加曾利EⅡ	土器片少量	

土壌番号	挿図	形態	規模	深さ	時期	出土遺物	備考
71	第54図	不整形円形	95cm×82cm	17cm	曾利 I	土器片	集石土壌。
72	第54図	楕円形	97cm×73cm	10cm	勝坂末	土器片少量	集石土壌。
73	第60図	円形	102cm×98cm	41cm	加曾利 E II	土器片・横刃型石器	
74	第60図	円形	157cm×132cm	56cm	勝坂末	深鉢等	S K55に切られる。
75	第60図	不整形	160cm×130cm	35cm	加曾利 E II	土器片少量	S K6に切られる。
76	第60図	不整形	89cm×76cm	34cm	時期不明	土器片少量・磨石・凹石	S K4・6に切られる。
77	第54図	円形	112cm×104cm	35cm	加曾利 E II	土器片少量	S K78を切る。
78	第54図	不整形円形	82cm×(80)	22cm	勝坂末	土器片少量	集石土壌。S K77に切られる。
79	第60図	円形	122cm×114cm	30cm	時期不明	土器片少量・石鏝	
80	第61図	楕円形	118cm×93cm	17cm	加曾利 E I	土器片・凹石	
81	第61図	不整形	136cm×118cm	19cm	加曾利 E II	土器片少量	18・19住に切られる。
82	第61図	円形	110cm×102cm	23cm	加曾利 E II	土器片少量	21住を切る。
83	第61図	不整形円形	95cm×88cm	52cm	勝坂末	土器片少量	21住を切る。
84	第61図	円形	105cm×98cm	43cm	加曾利 E I	土器片少量・棒状石器	21住を切る。
85	第54図	楕円形	92cm×72cm	12cm	加曾利 E I	土器片少量	集石土壌。
86	第61図	不明	102cm×?	38cm	時期不明		8住に切られる。
87	第61図	不明	?×73cm	16cm	勝坂末	土器片少量	8住に切られる。
88	第61図	楕円形	147cm×124cm	28cm	加曾利 E II	土器片少量	
89	第55図	円形	210cm×(200)	90cm	勝坂末	大形深鉢等	集石土壌。
90	第61図	不整形	170cm×114cm	26cm	加曾利 E II	土器片・打製石斧	
91	第61図	不整形円形	80cm×79cm	22cm	加曾利 E I	土器片少量	
92	第61図	不整形円形	176cm×171cm	102cm	勝坂末	磨石・打製石斧・打製石鏝・凹石・凹石	23住に切られる。
93	第62図	不整形円形	98cm×90cm	33cm	加曾利 E II	土器片少量	
94	第62図	不整形円形	(90)×75cm	27cm	加曾利 E III	土器片少量	22住を切る。
95	第62図	不整形円形	93cm×75cm	37cm	加曾利 E II	土器片少量	23住を切る。
96	第62図	不整形円形	110cm×100cm	41cm	勝坂末	土器片少量	
97	第55図	円形	169cm×163cm	60cm	加曾利 E II	土器片・凹石	集石土壌。S K136に切られる。
98	第55図	円形	150cm×145cm	44cm	加曾利 E II	土器片少量	集石土壌。S K3を切る。
99	第55図	円形	100cm×92cm	46cm	曾利 II	土器片少量	集石土壌。S K155に切られる。
100	第55図	楕円形	86cm×80cm	15cm	加曾利 E II	土器片少量	
101	第62図	不整形	133cm×110cm	27cm	加曾利 E II	土器片少量	
102	第62図	不整形円形	107cm×105cm	38cm	勝坂末	土器片少量	
103	第62図	不明	(130)×125cm	21cm	加曾利 E II	土器片少量	
104	第62図	不整形円形	147cm×135cm	9cm	加曾利 E II	土器片少量	
105	第62図	不整形円形	172cm×160cm	30cm	加曾利 E II	土器片少量	
106	第62図	不整形円形	151cm×134cm	20cm	加曾利 E I	土器片少量	
107	第62図	不整形円形	145cm×142cm	35cm	時期不明		
108	第62図	不明	?×?	18cm	時期不明		
109	第62図	不明	178cm×?	36cm	加曾利 E I	土器片少量	
110	第62図	不整形円形	134cm×103cm	16cm	加曾利 E I	土器片少量	
111	第63図	円形	107cm×99cm	34cm	時期不明	横刃型石器	
112	第63図	不整形	142cm×133cm	52cm	加曾利 E II	土器片・打製石斧・礮器・棒状石器	S K113を切る。
113		不明	?×?	4cm	勝坂末	土器片少量	S K112に切られる。
114	第63図	円形	110cm×98cm	22cm	加曾利 E II	土器片少量	
115	第63図	不整形円形	104cm×99cm	31cm	時期不明		
116	第63図	不整形	167cm×125cm	37cm	加曾利 E I	土器片少量	

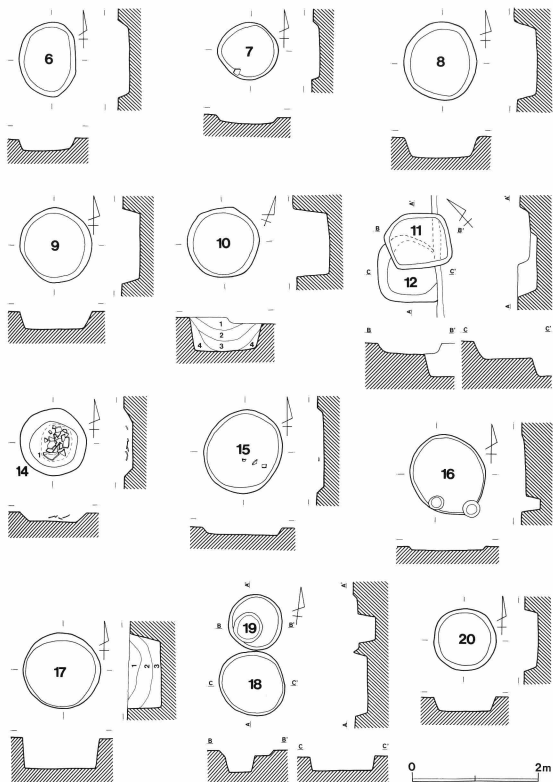
土壌番号	挿図	形態	規模	深さ	時期	出土遺物	備考
117	第63図	円形	96cm×87cm	32cm	時期不明		
118	第63図	不明	?×?	31cm	時期不明		
119	第55図	楕円形	150cm×108cm	27cm	加曾利E I	土器片少量	集石土壌。
120	第63図	不整形	200cm×160cm	22cm	時期不明		
121	第63図	不整円形	91cm×85cm	36cm	時期不明		S K122を切る。
122	第63図	不整形	132cm×120cm	32cm	加曾利E II	土器片少量	S K121に切られる。
123	第63図	円形	77cm×70cm	32cm	時期不明		
124	第63図	不整円形	185cm×168cm	36cm	加曾利E II	土器片少量	
125	第63図	不整円形	92cm×83cm	51cm	時期不明		
126	第64図	円形	110cm×(110)	45cm	時期不明		
127	第64図	円形	(150)×130cm	42cm	勝坂末	大形浅鉢・石鏃・打製石斧・準状石鏃	S K128を切る。
128	第64図	不明	?×100cm	12cm	勝坂末	土器片・横刃型石器	S K127に切られる。
129	第55図	円形	81cm×80cm	13cm	勝坂末	土器片少量	集石土壌。8住に切られる。
130	第64図	楕円形	131cm×112cm	8cm	勝坂末	土器片・打製石斧	S K50に切られる。
131	第64図	円形	110cm×106cm	53cm	加曾利E II	土器片少量	
132	第64図	不整円形	105cm×90cm	11cm	時期不明		
133	第64図	不明	?×112cm	24cm	勝坂末	土器片少量	S K134に切られる。
134	第64図	楕円形	154cm×119cm	53cm	勝坂末	土器片少量	S K133を切る。
135	第64図	円形	121cm×112cm	30cm	加曾利E II	土器片少量	
136	第55図	円形	134cm×(130)	9cm	時期不明		S K97を切る。
137	第55図	円形	132cm×125cm	23cm	勝坂末		集石土壌。
138	第64図	不整円形	112cm×(100)	26cm	加曾利E I	土器片少量	S K46・49に切られる。
139	第55図	不整形	105cm×70cm	17cm	加曾利E II	土器片少量	集石土壌。S K49に切られる。
140	第64図	円形	103cm×97cm	35cm	加曾利E I	土器片少量	S K47に切られる。
141	第64図	円形	83cm×80cm	16cm	時期不明		
142	第55図	円形	112cm×105cm	22cm	加曾利E I	土器片少量	集石土壌。S K48に切られる。
143	第64図	円形	92cm×90cm	13cm	勝坂末	土器片少量	
144	第64図	不整円形	87cm×76cm	42cm	加曾利E II	土器片少量	
145	第65図	不整形	119cm×98cm	21cm	加曾利E II	土器片少量	
146	第65図	円形	97cm×92cm	18cm	時期不明	土器片少量	
147	第65図	不整形	116cm×95cm	47cm	勝坂末	土器片少量	10住に切られる。
148	第65図	不整形	167cm×75cm	13cm	加曾利E II	深鉢	S K5に切られる。
149	第65図	不整形	108cm×(90)	18cm	勝坂末	土器片少量	S K142に切られる。
150	第65図	不整形	209cm×175cm	18cm	勝坂末	土器片少量	
151	第65図	不整形	100cm×80cm	46cm	加曾利E I	土器片少量	
152	第65図	円形	110cm×107cm	53cm	時期不明	石鏃	
153	第65図	円形	127cm×122cm	13cm	加曾利E I	土器片少量	
154	第65図	不整円形	89cm×80cm	18cm	勝坂末	土器片少量	7住・S K155に切られる。
155	第65図	不整円形	103cm×93cm	32cm	加曾利E II	土器片少量	S K154を切る。
156	第65図	不整円形	104cm×96cm	47cm	加曾利E II	土器片少量	
157	第65図	不整形	112cm×96cm	49cm	時期不明	土器片・石鏃片	7住に切られる。
158	第65図	楕円形	123cm×(88)	43cm	勝坂末	土器片少量	S K159に切られる。
159	第65図	不明	?×(105)	19cm	加曾利E II	土器片・石鏃片	S K158を切る。
160	第65図	不整形	118cm×95cm	18cm	加曾利E I	土器片少量	S K54に切られる。
161	第49図	楕円形	171cm×146cm	46cm	勝坂	土器片・石皿・凹石	集石土壌。16住に切られる。
162	第47図	不整方形	66cm×62cm	5cm	加曾利E II	土器片	11住を切る。



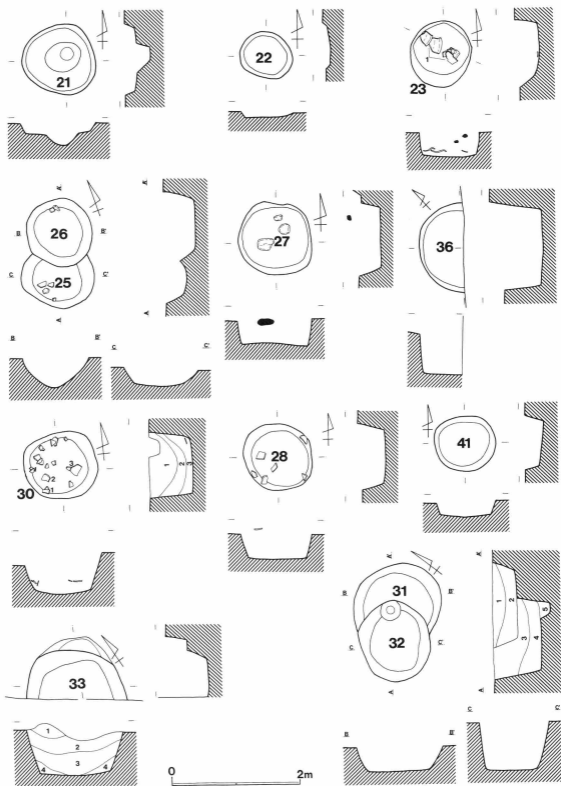
第54圖 集石土坑(1)



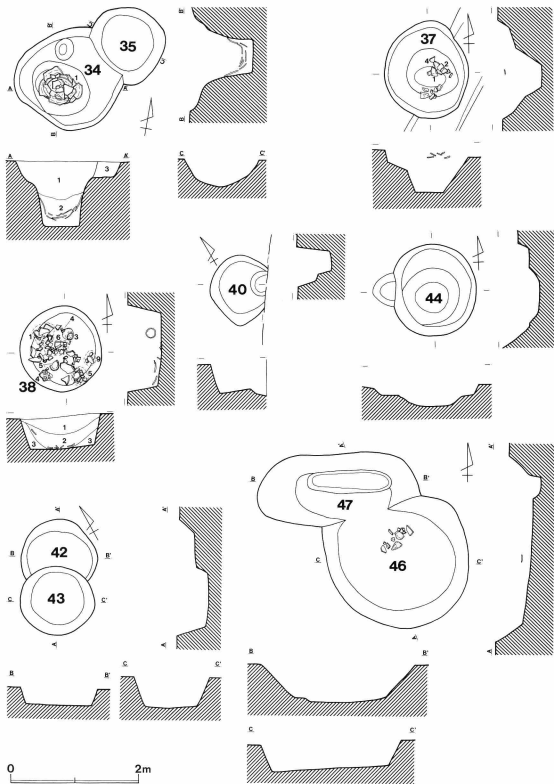
第55图 集石土坑(2)



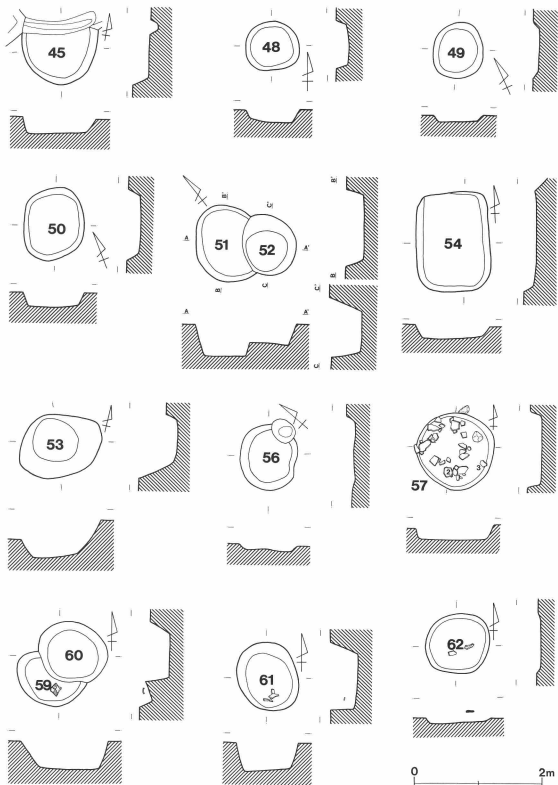
第56图 土 坑 (1)



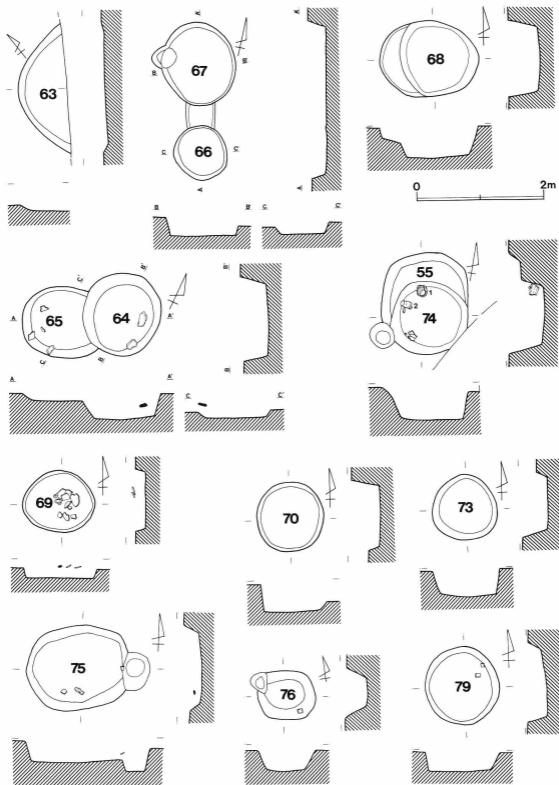
第57圖 土 坑(2)



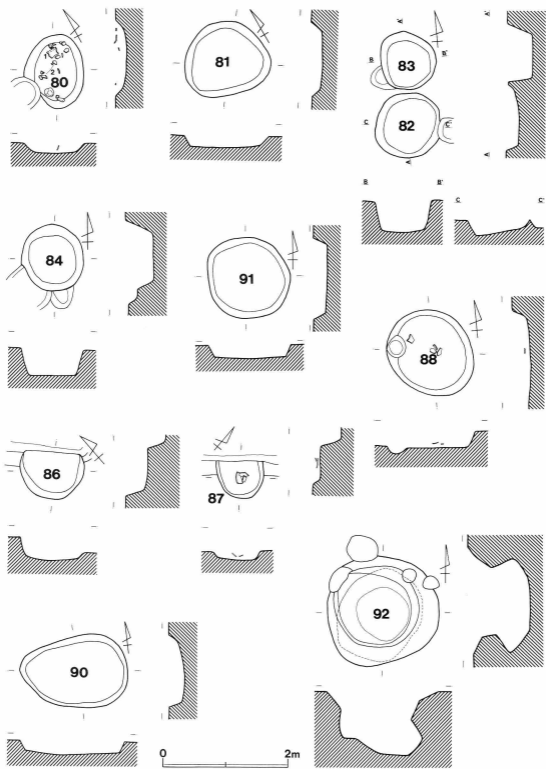
第58圖 土 壙(3)



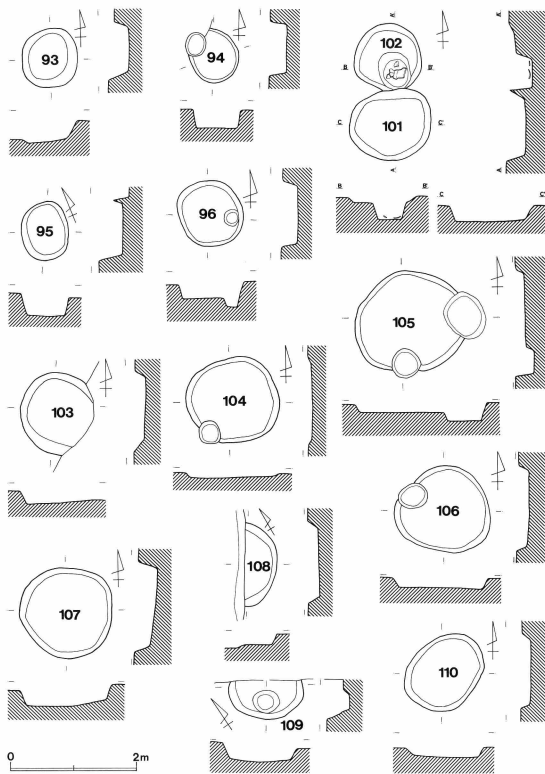
第59圖 土 壙 (4)



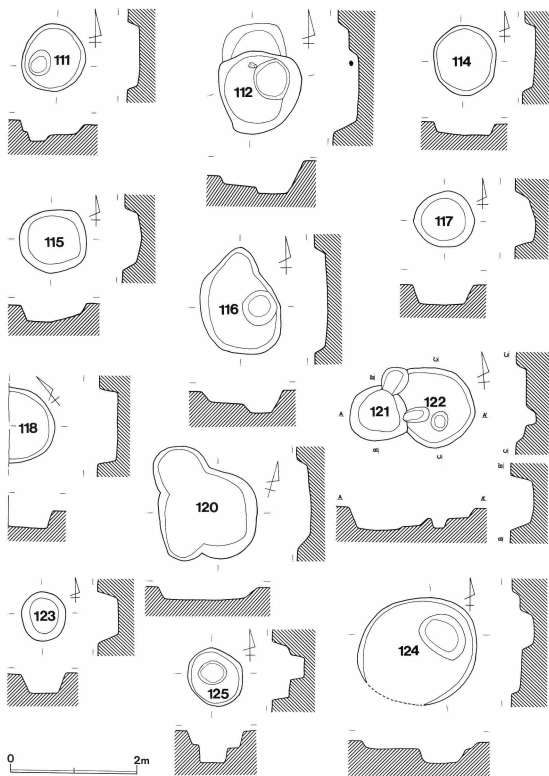
第60圖 土 壙 (5)



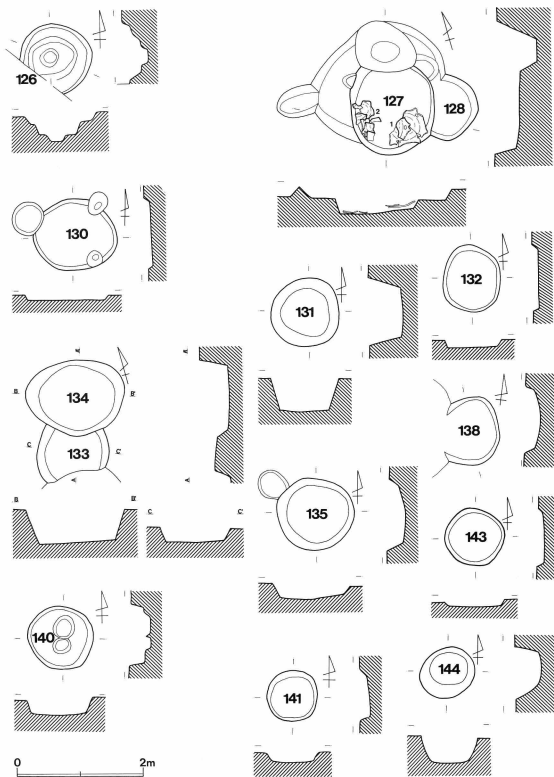
第61圖 土 壙(6)



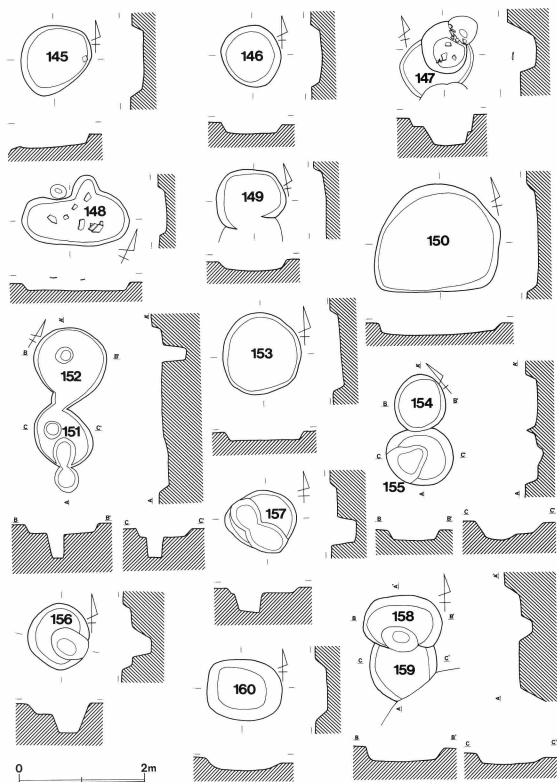
第62図 土 壙(7)



第63図 土 坑(8)



第64図 土 坑(9)



第65圖 土 壙 (10)

第10号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：黒色土層（炭化粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第17号土壌土層説明

- 第1層：黒色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：黒褐色土層（ローム粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第34・35号土壌土層説明

- 第1層：暗褐色土層（小石・ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：黒褐色土層（炭化粒子を多量に含む。）
- 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第38号土壌土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗黄褐色土層（ローム粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第39号土壌土層説明

- 第1層：暗褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：黒褐色土層（炭化粒子を均一に、焼土粒子・礫を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：黒褐色土層（炭化粒子を多量に、焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）

第89号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（土器片を多量に、ローム粒子・焼土粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗褐色土層（礫を多量に、焼土粒子・炭化粒子を均一に含む。粘性・しまりともない。）
- 第4層：黒褐色土層（炭化粒子を多量に、焼土粒子を微量含む。粘性に富み、しまりはない。）
- 第5層：暗黄褐色土層（ローム粒子・砂を均一に含む。粘性・しまりともない。）

第97号土壌土層説明

- 第1層：黒色土層（炭化粒子を多量に、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、小石を微量含む。粘性・しまりともない。）

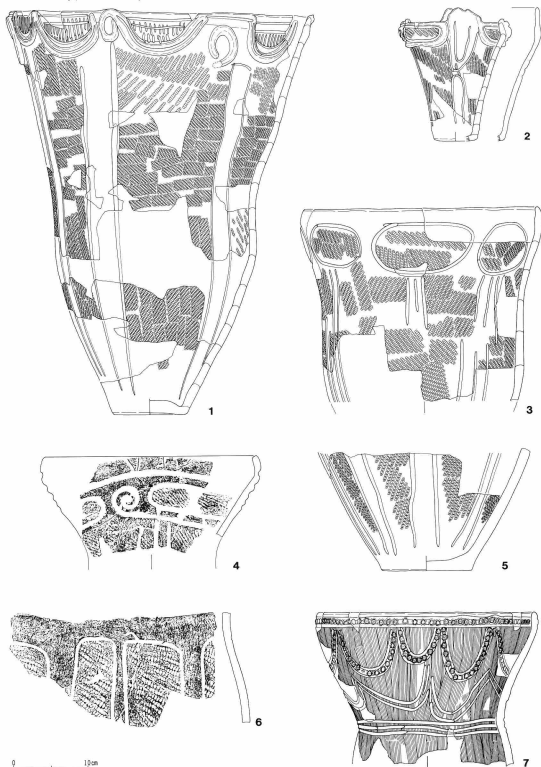
第98号土壌土層説明

- 第1層：黒色土層（礫を多量に、ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を均一に、炭化粒子・小石を微量含む。粘性・しまりともない。）

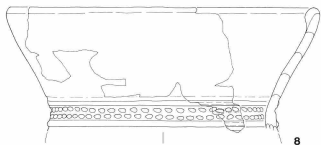
第99・155号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層（ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第2層：暗褐色土層（ローム粒子を微量含む。粘性・しまりともない。）
- 第3層：暗茶褐色土層（ローム粒子を均一に、礫を微量含む。粘性・しまりともない。）

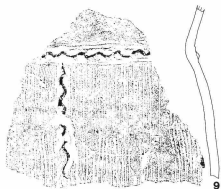
3. 土 器 (第66~103図)



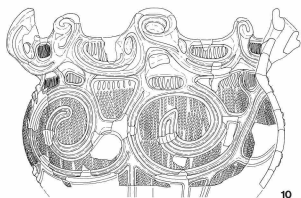
第66図 第10号住居跡出土土器(1)



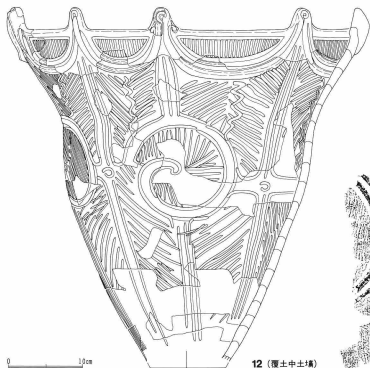
8



9

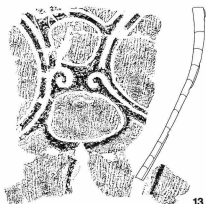
10
(炉内)

11



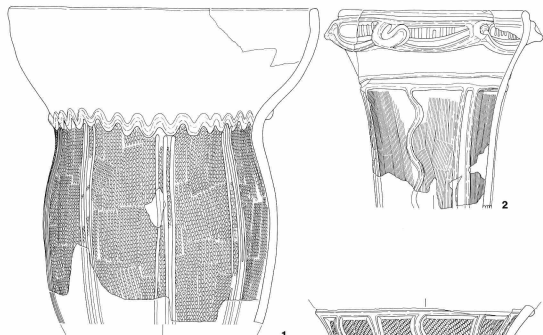
12 (覆土中土塊)

0 1.0cm

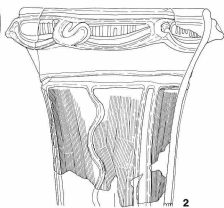


13

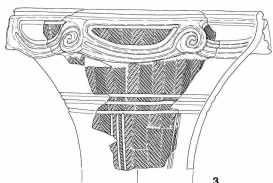
第67图 第10号住居跡出土土器(2)



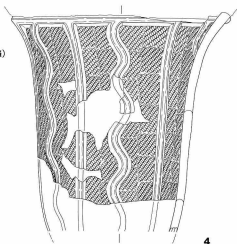
1
(住居内土境)



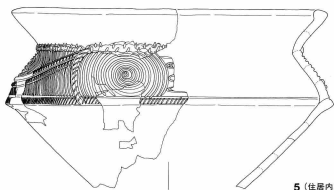
2



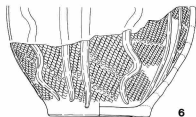
3



4
(住居内土境)



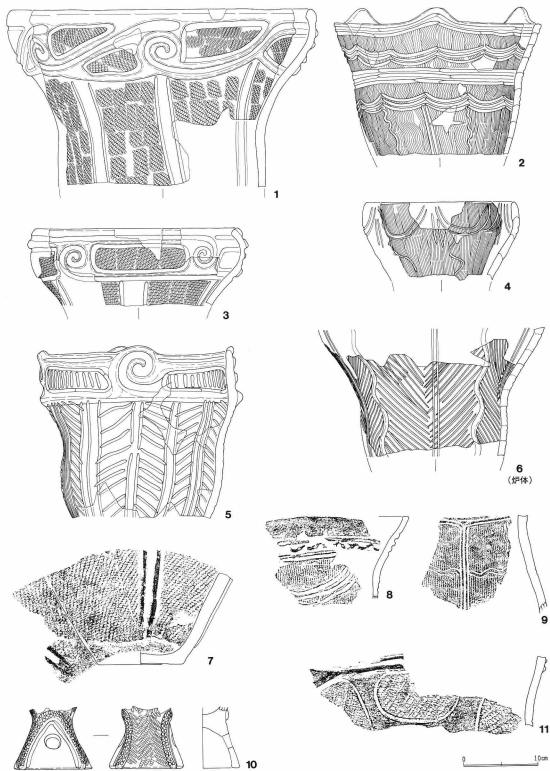
5
(住居内土境)



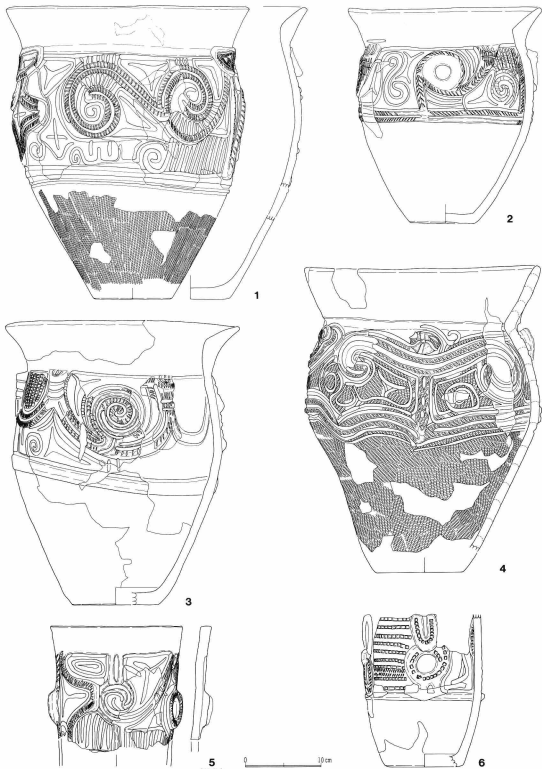
6
(炉体)

0 10cm

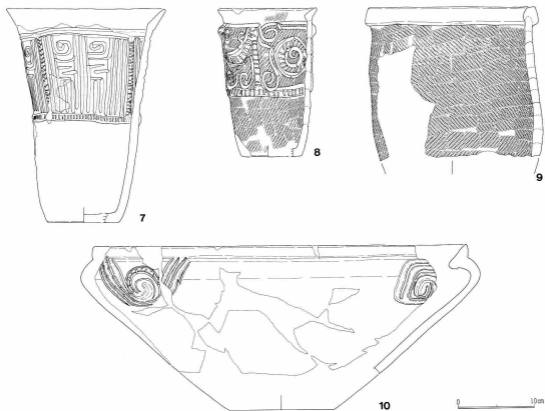
第68图 第11号住居跡出土土器



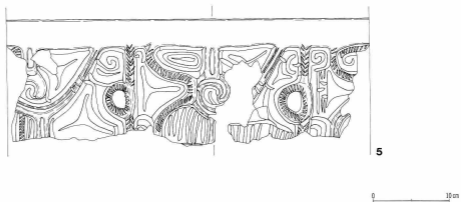
第69图 第12号住居跡出土土器



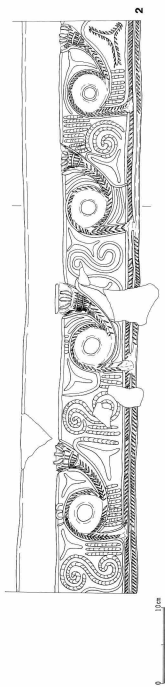
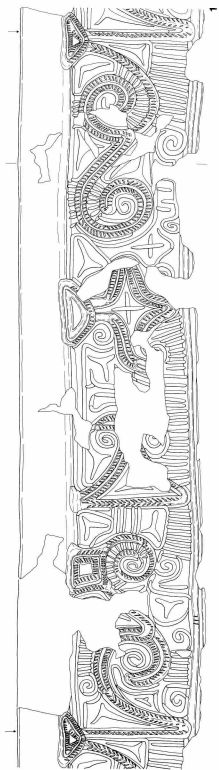
第70图 第13号住居跡出土土器(1)



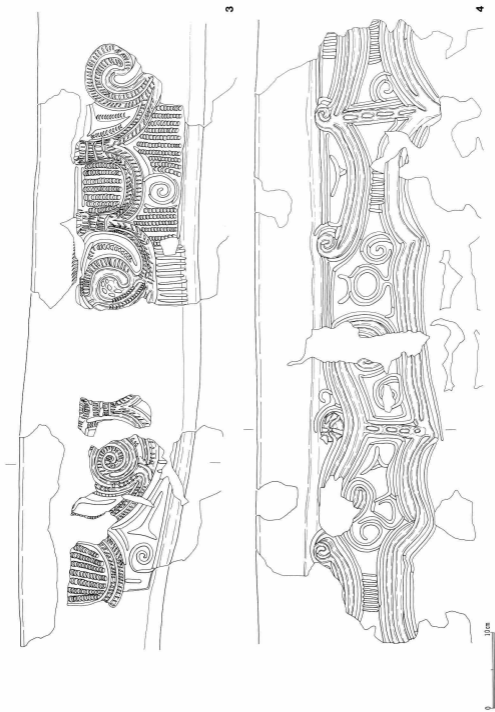
第71図 第13号住居跡出土土器(2)



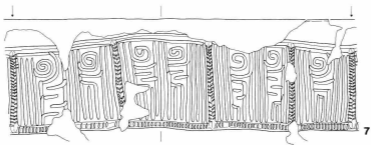
第72図 第13号住居跡出土土器文様展開図(1)



第73图 第13号住后跡出土器文様展開図(2)

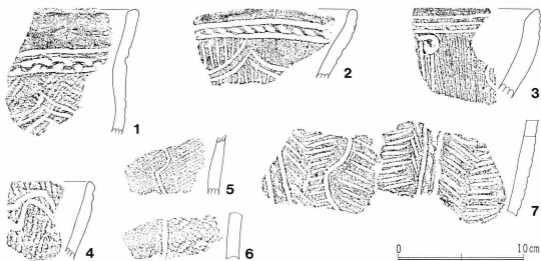


第74図 第13号住居跡出土土器文様展開図(3)

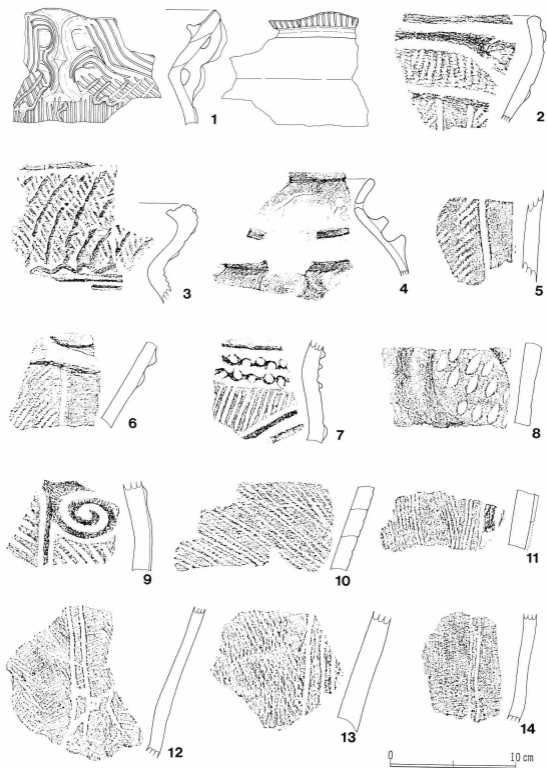


0 10cm

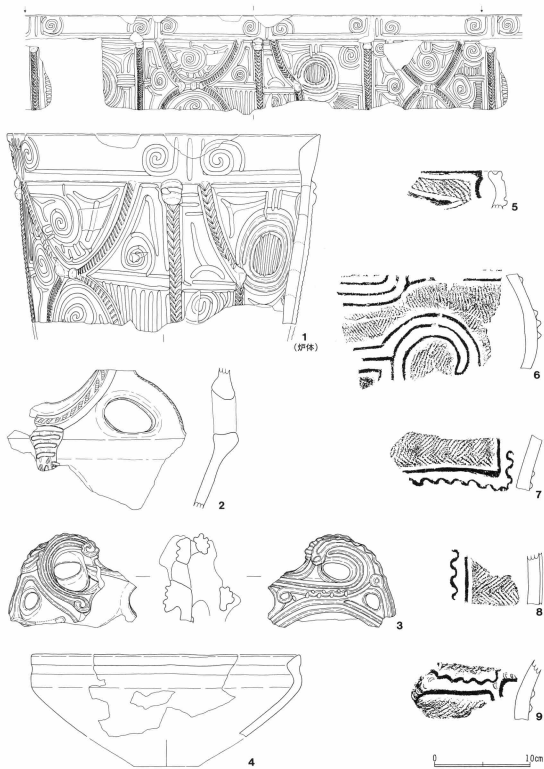
第75図 第13号住居跡出土土器文様展開図(4)



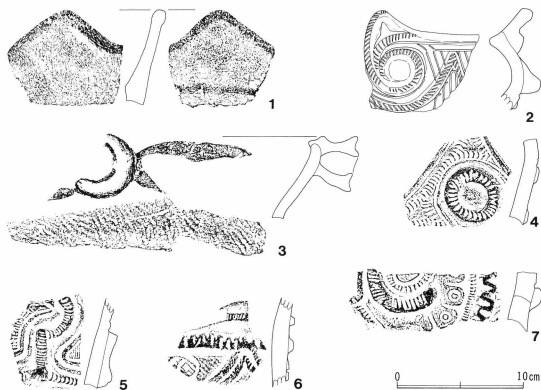
第76図 第14号住居跡出土土器



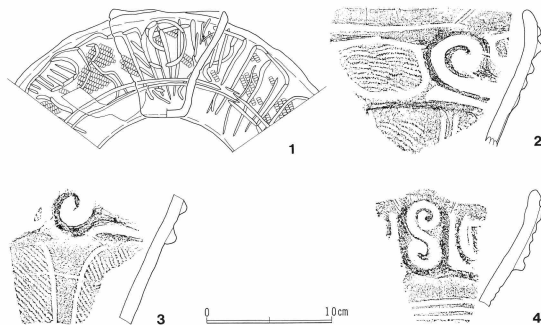
第77图 第15号住居跡出土土器



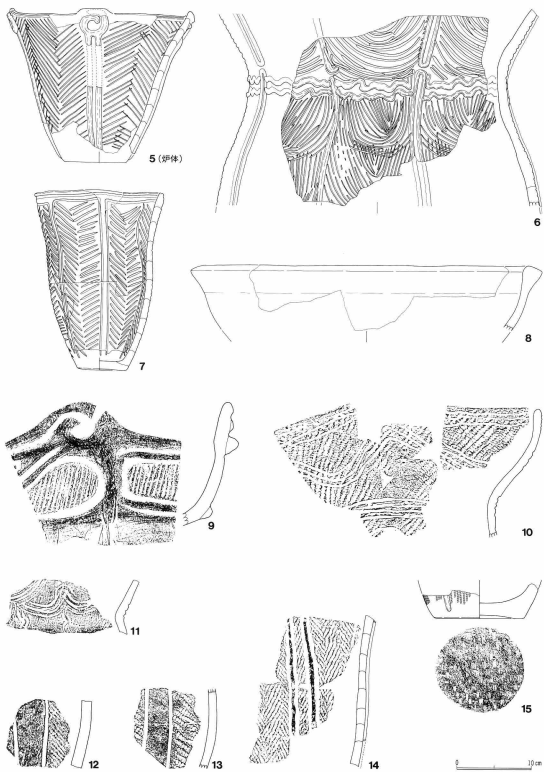
第78图 第16号住居跡出土土器



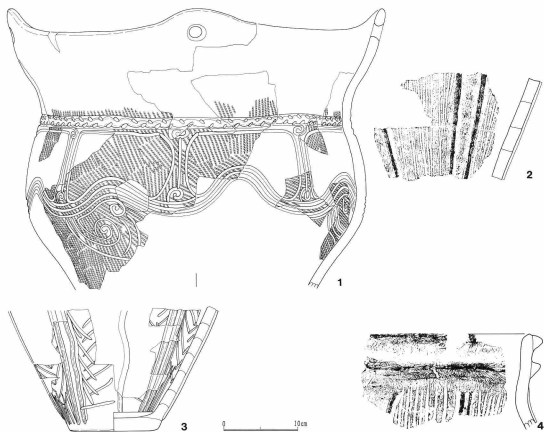
第79图 第17号住居跡出土土器



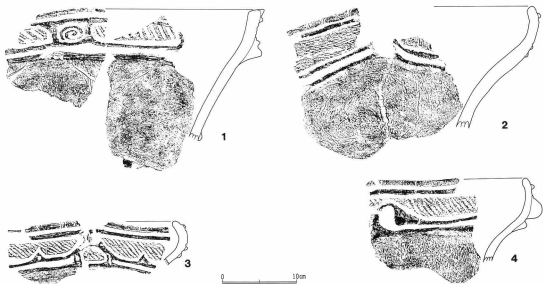
第80图 第18号住居跡出土土器(1)



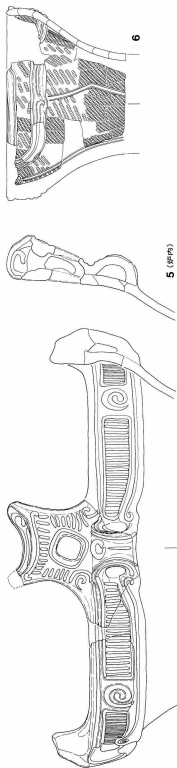
第81图 第18号住居跡出土土器(2)



第82图 第19号住居跡出土土器

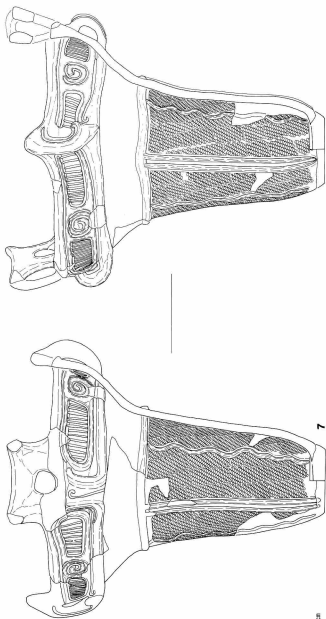


第83图 第20号住居跡出土土器(1)



5 (部分)

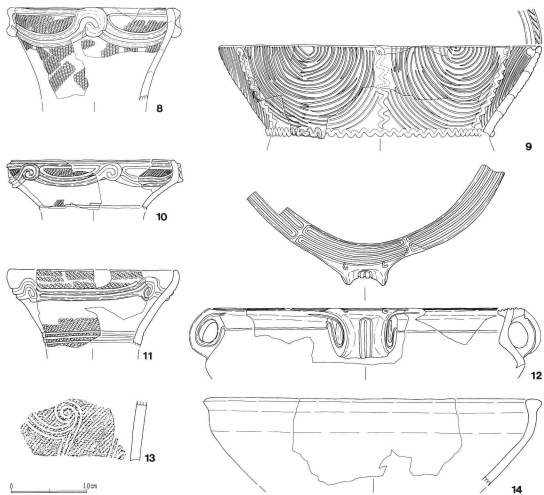
6



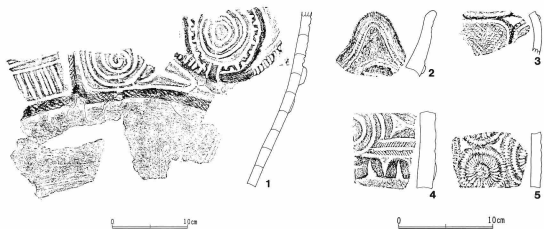
7



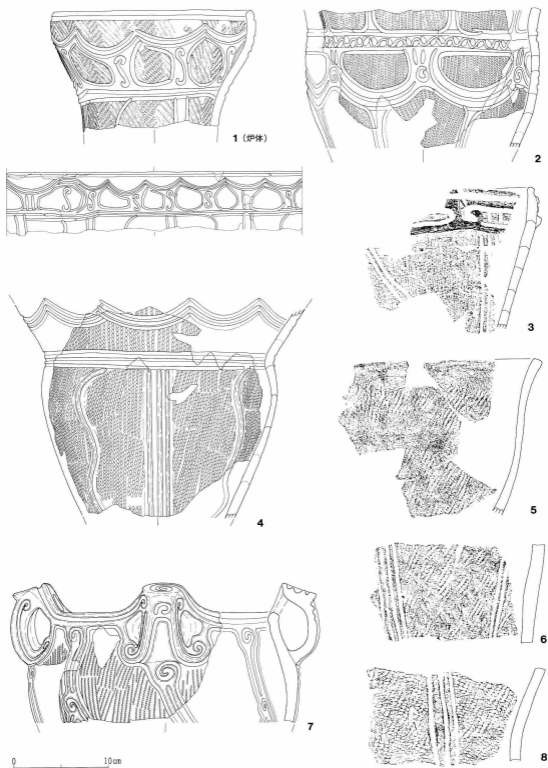
第84图 第20号住居跡出土土器(2)



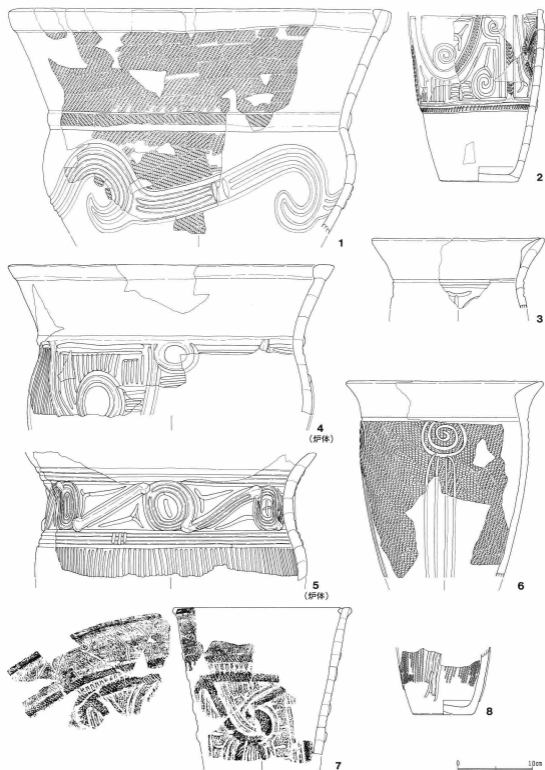
第85图 第20号住居跡出土土器(3)



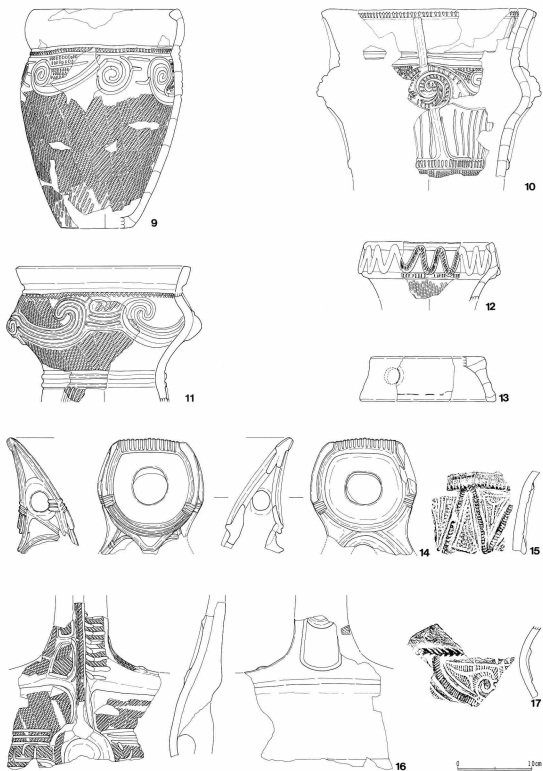
第86图 第21号住居跡出土土器



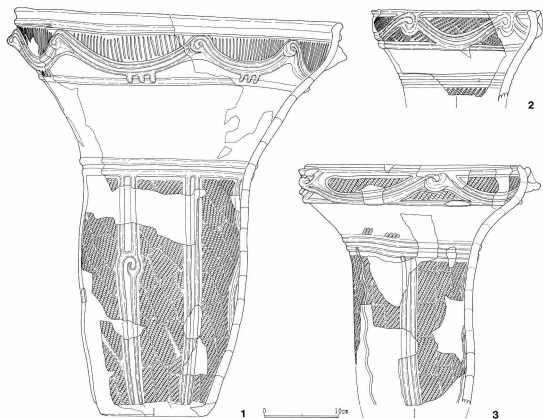
第87图 第22号住居跡出土土器



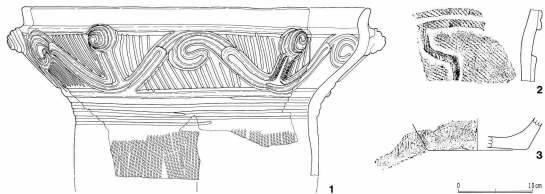
第88图 第23号住居跡出土土器(1)



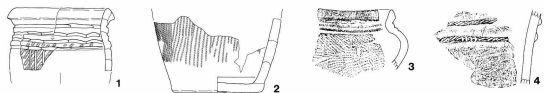
第89图 第23号住居跡出土土器(2)



SK1



SK23

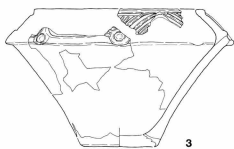
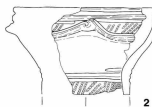


SK24

第90图 土坑出土土器(1)

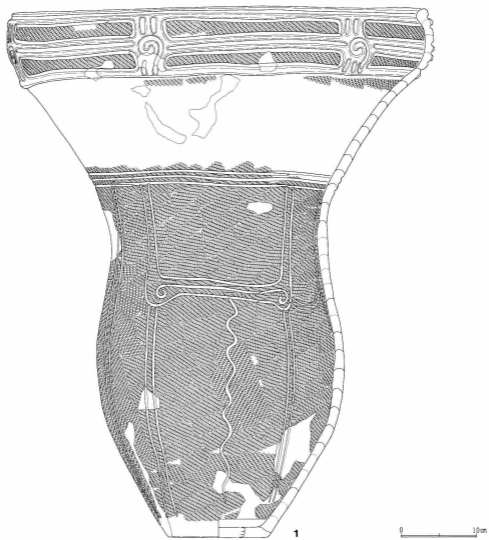


SK14

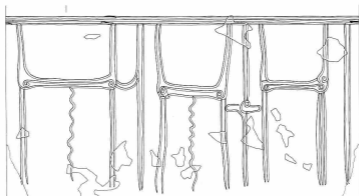


SK30

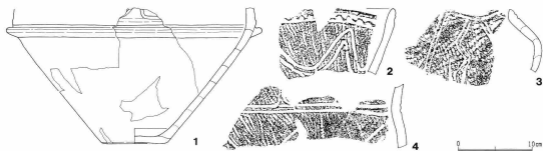
第91图 土坑出土土器(2)



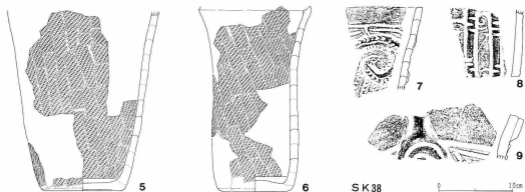
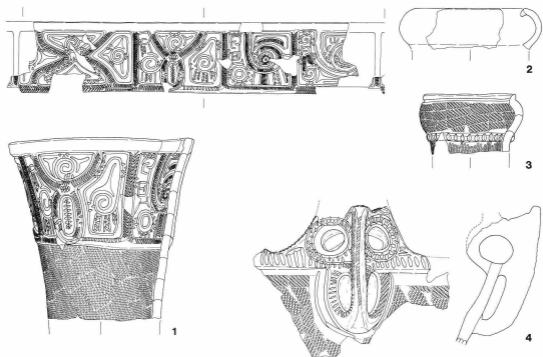
SK34



第92図 土壙出土土器(3)

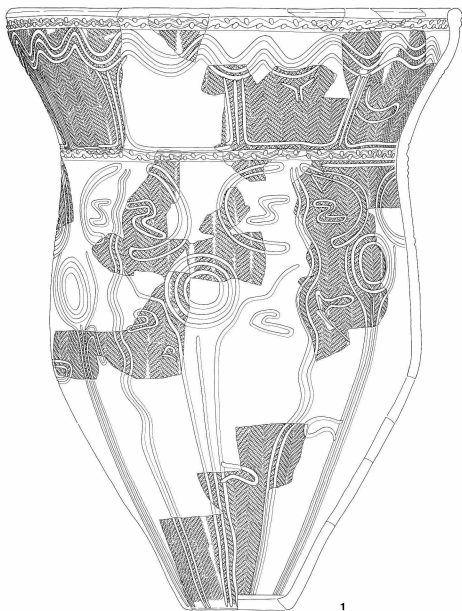


SK37



SK38

第93图 土壙出土土器(4)



2

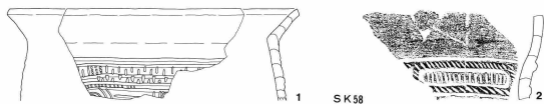


3

SK57

第94図 土城出土土器(5)

0 10cm



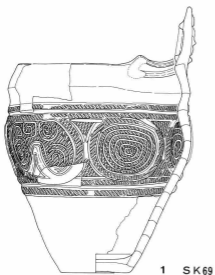
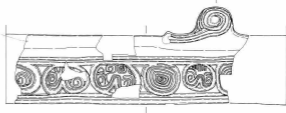
SK58



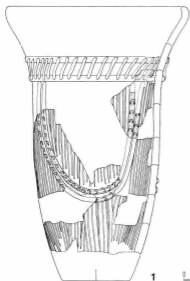
SK64



SK51



SK69



SK71

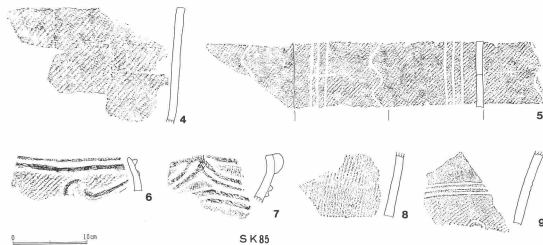
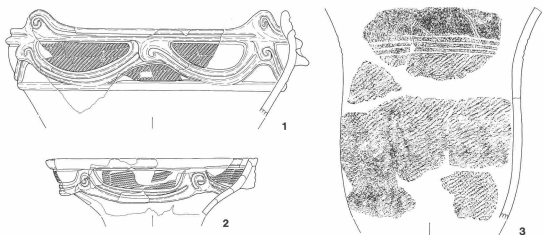
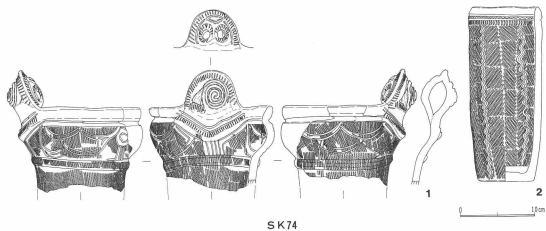


SK80

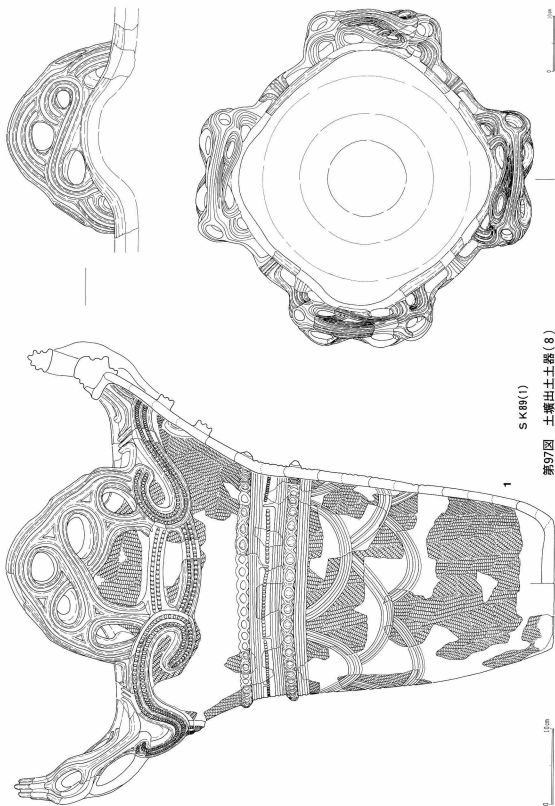
0 10cm

0 10cm

第95図 土坑出土土器(6)



第96図 土坑出土土器(7)



SK89(1)

第97图 土城出土器(8)

出土遺構	石 鏃	磨製石斧	打製石斧	横刃型石器	石 皿	磨石・凹石	凹 石	棒状石器	礫 器	合 計
第92号土壌	0	1	3	1	0	0	1	0	0	6
第97号土壌	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
第111号土壌	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
第112号土壌	0	0	1	0	0	0	0	1	1	3
第127号土壌	1	0	2	0	0	0	0	1	0	4
第128号土壌	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
第130号土壌	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
第152号土壌	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
第161号土壌	0	0	0	0	2	0	3	0	0	5
小 計	3	3	12	6	5	7	16	3	2	57
第1号住居跡	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
第6号住居跡	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
第8号住居跡	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
第9号住居跡	0	0	4	2	1	0	0	1	0	8
小 計	0	0	6	3	1	0	0	1	0	11
總 合 計	12	9	96	53	9	11	27	9	6	232

遺構出土石器一覧表

石 鏃 (写真図版31上段)

番号	出土遺構	形式	残存部	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重量/g	側溝形態	脚部	備 考
1	第18号住居跡	目蓋無き鏃	完 形	3.0	1.6	0.3	1.6	直線	短い	側縁部鋸歯状
2	第79号土壌	◇	◇	2.6	1.6	0.3	1.9	◇	◇	
3	第10号住居跡	◇	脚部欠	2.0	(1.0)	0.3	(0.8)	◇	◇	長い
4	第15号住居跡	◇	完 形	(1.9)	(1.2)	0.3	0.7	湾曲	短い	
5	第18号住居跡	◇	脚部欠	1.6	(1.3)	0.1	(0.4)	◇	◇	
6	第19号住居跡	◇	完 形	1.6	1.6	0.3	0.7	◇	◇	側縁部鋸歯状
7	◇	不 明	先端のみ	(1.1)	(1.0)	0.2	(0.1)	不明	不明	
8	第22号住居跡	◇	上半のみ	(1.7)	(1.5)	0.2	(0.5)	湾曲	◇	
9	◇	目蓋無き鏃	脚部欠	2.3	(1.5)	0.3	(0.8)	◇	◇	長い
10	第127号土壌	◇	完 形	2.0	1.3	0.3	0.6	直線	◇	
11	第152号土壌	◇	先端欠	2.1	1.5	0.3	(0.9)	湾曲	短い	
12	第13号住居跡	未製品	完 形	2.4	1.9	0.5	2.3	—	—	

打製石斧 (写真図版32~37)

番号	出土遺構	形式	残存部	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重量/g	素材	脚部	備 考
1	第10号住居跡	撥 形	刃部欠	(10.3)	5.2	1.8	151	礫	片面	礫面に一部擦痕
2	◇	不 明	◇	(6.7)	(3.9)	1.9	(70)	◇	表裏	被熱
3	◇	撥 形	◇	(8.2)	(4.6)	2.4	(122)	横長剥片	基部	
4	◇	◇	完 形	9.6	3.9	1.4	63	◇	側面	
5	◇	◇	基部欠	(6.3)	4.8	2.4	(90)	剥片	片面	
6	◇	◇	完 形	7.2	3.9	1.6	64	◇	◇	小形、刃部研磨
7	◇	◇	基部欠	(5.9)	3.5	1.6	(42)	◇	◇	刃部一部剥離
8	第11号住居跡	不 明	刃部のみ	(3.6)	4.4	2.0	(38)	◇	◇	
9	◇	短冊形	刃部欠	(10.5)	4.5	2.6	(149)	横長剥片	◇	両側縁敲打摩滅
10	◇	撥 形	完 形	10.3	4.3	2.0	99	◇	基部	刃部摩滅
11	◇	◇	完 形	10.5	5.5	1.7	105	剥片	片面	

番号	出土遺構	形式	残存部	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重量/g	素材	破面	備考
12	第11号住居跡	撥形	基部欠	(11.1)	5.3	2.4	(113)	剥片	片面	刃部擦痕
13	第12号住居跡	不明	両端欠	(6.6)	3.9	1.6	(55)	礫	表裏	
14	◇	短冊形	完形	7.6	4.3	0.8	41	横長剥片	片面	
15	◇	不明	刃部欠	(7.1)	4.5	1.9	(99)	剥片	◇	両側縁敲打摩滅
16	◇	撥形	◇	(5.6)	4.0	0.8	(28)	横長剥片	◇	
17	◇	◇	基部欠	(9.3)	4.1	1.7	(91)	礫	表裏	片側縁敲打摩滅
18	◇	◇	◇	(8.9)	5.6	1.4	(95)	剥片	片面	刃部一部剥離
19	◇	◇	刃部欠	(8.4)	4.1	2.3	(96)	◇	◇	両側縁敲打摩滅
20	◇	◇	◇	(7.6)	3.8	(1.2)	(40)	◇	◇	被熱、裏面剥落
21	◇	◇	基部欠	(7.8)	4.6	1.4	(50)	横長剥片	◇	
22	◇	◇	◇	(5.7)	5.2	1.7	(71)	礫	表裏	
23	◇	◇	◇	(5.9)	5.4	1.9	(69)	剥片	片面	
24	◇	◇	完形	9.1	4.8	1.6	71	◇	◇	
25	◇	◇	刃部欠	(11.8)	4.6	2.1	(128)	礫	表裏	
26	◇	◇	完形	11.0	4.9	2.4	140	剥片	×	両側縁敲打摩滅
27	◇	◇	◇	10.7	4.9	1.7	120	◇	片面	両側縁敲打摩滅
28	◇	分銅形	◇	8.8	6.0	1.5	85	◇	◇	
29	◇	撥形	基部欠	(5.2)	5.3	1.8	(55)	◇	◇	
30	◇	◇	◇	(5.8)	4.2	1.3	(38)	◇	◇	刃部一部剥離
31	◇	不明	刃部欠	(5.2)	3.8	2.0	(46)	◇	×	
32	◇	撥形	◇	(5.7)	3.1	1.5	(31)	◇	片面	
33	◇	◇	完形	5.6	3.8	1.5	40	横長剥片	◇	
34	◇	不明	刃部欠	(3.7)	3.8	1.8	(24)	◇	◇	
35	第14号住居跡	短冊形	基部欠	(4.5)	4.2	0.8	(23)	◇	◇	
36	◇	◇	◇	(8.4)	3.8	1.8	(81)	剥片	◇	片側縁敲打摩滅
37	第15号住居跡	◇	完形	11.2	4.1	2.0	112	?	?	風化摩滅顕著
38	第21号住居跡	撥形	◇	9.0	5.4	2.3	112	縦長剥片	基部	表面一部研磨
39	第19号住居跡	◇	基部欠	(7.8)	5.5	2.4	(104)	横長剥片	片面	被熱
40	第21号住居跡	不明	刃部欠	(6.1)	3.5	2.1	(60)	礫	表裏	
41	第15号住居跡	撥形	基部欠	(4.6)	5.0	1.4	(41)	横長剥片	片面	
42	第22号住居跡	短冊形	刃部欠	(12.8)	4.9	2.2	(203)	礫	表裏	
43	◇	撥形	完形	12.4	4.7	2.7	182	横長剥片	片面	両側縁敲打摩滅
44	◇	短冊形	◇	9.3	3.7	2.3	98	◇	◇	両側縁摩滅
45	◇	撥形	◇	9.7	4.3	1.5	71	◇	◇	
46	◇	◇	刃部欠	(4.1)	4.4	1.3	(30)	◇	◇	
47	◇	◇	基部欠	(7.1)	5.9	1.9	(105)	剥片	◇	両側縁摩滅
48	◇	◇	刃部欠	(7.3)	5.1	1.3	(70)	◇	基部	両側縁摩滅
49	◇	◇	両端欠	(3.9)	(5.5)	1.1	(62)	横長剥片	片面	被熱
50	◇	◇	完形	12.3	4.9	1.5	134	◇	◇	
51	◇	分銅形	◇	10.8	7.4	2.2	197	剥片	◇	
52	◇	撥形	両端欠	(8.6)	(6.8)	1.6	(93)	◇	◇	被熱
53	◇	◇	完形	7.2	5.3	2.3	100	◇	◇	
54	第23号住居跡	不明	基部欠	(5.9)	3.8	1.6	(49)	◇	◇	刃部
55	第92号土壌	短冊形	刃部欠	(5.7)	3.8	1.4	(50)	◇	片面	
56	第17号土壌	◇	基部欠	(7.8)	3.9	2.0	(75)	横長剥片	◇	両側縁摩滅
57	第33号土壌	短冊形	基部欠	(8.8)	5.0	2.4	(80)	剥片	片面	被熱、両側縁敲打摩滅

番号	出土遺構	形 式	残存部	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重量/g	素材	線面	備 考
58	第32号土壌	撥形	完形	12.3	5.0	1.6	136	剥片	片面	両側縁敲打摩滅
59	第62号土壌	〃	〃	12.0	5.2	2.3	131	横長剥片	基部	基部被熱、両側縁敲打摩滅
60	第90号土壌	〃	〃	9.9	4.9	1.9	121	〃	片面	
61	第92号土壌	〃	基部欠	(12.5)	4.8	2.0	(148)	剥片	〃	刃部・両側縁摩滅
62	〃	短冊形	完形	10.5	3.6	1.3	125	礫	表裏	片面縁摩滅
63	第112号土壌	〃	基部欠	(10.3)	5.5	2.9	(215)	剥片	片面	両側縁敲打摩滅
64	第127号土壌	撥形	刃部欠	(12.6)	5.2	3.2	(207)	〃	×	片面縁敲打摩滅
65	〃	短冊形	完形	11.0	3.7	2.1	116	〃	片面	両側縁敲打摩滅
66	第130号土壌	撥形	刃部欠	(11.2)	5.2	2.9	(201)	〃	〃	被熱、両側縁敲打摩滅
67	第8号住居跡	鎌形	基部欠	(12.4)	4.7	2.9	(199)	〃	〃	混入、両側縁敲打摩滅
68	第6号住居跡	分銅形	完形	12.0	6.5	2.3	213	〃	〃	混入
69	第9号住居跡	撥形	〃	13.4	5.5	1.4	123	〃	〃	混入、両側縁敲打摩滅
70	〃	〃	〃	11.3	4.6	1.5	98	礫	表裏	混入
71	〃	〃	〃	10.8	5.0	2.5	172	横長剥片	片面	混入、刃部・両側縁敲打摩滅
72	〃	短冊形	〃	7.9	4.2	2.3	122	剥片	〃	混入、刃部基部両側縁敲打摩滅
73	第18号住居跡	撥形	〃	13.5	4.3	1.8	151	〃	〃	被熱、両側縁敲打摩滅
74	〃	〃	〃	9.1	4.5	1.9	151	〃	〃	
75	〃	〃	基部欠	(10.0)	4.9	1.7	(120)	〃	〃	両側縁敲打摩滅
76	〃	〃	刃部欠	(10.3)	4.5	2.0	(105)	〃	〃	両側縁敲打摩滅
77	〃	〃	刃部のみ	(4.2)	5.0	1.8	(52)	〃	〃	側縁刃部敲打摩滅
78	〃	〃	〃	(5.9)	4.2	0.8	(30)	〃	〃	礫面側の側縁に朱が付着
79	〃	不明	基部のみ	(5.3)	4.4	1.4	(40)	〃	〃	被熱、側縁敲打摩滅
80	〃	撥形	刃部欠	(8.1)	5.2	1.9	(102)	横長剥片	〃	側縁敲打摩滅
81	〃	〃	基部欠	(9.6)	4.6	2.4	(120)	剥片	〃	被熱、両側縁敲打摩滅
82	〃	〃	〃	(9.2)	5.0	1.2	(78)	横長剥片	〃	
83	〃	短冊形	刃部欠	(9.5)	3.6	2.2	(85)	剥片	〃	両側縁敲打摩滅
84	〃	撥形	基部欠	(7.2)	4.8	2.0	(90)	〃	×	両側縁敲打摩滅
85	〃	短冊形	両端欠	(7.2)	4.3	1.9	(79)	〃	片面	両側縁敲打摩滅
86	〃	〃	上半欠	(6.7)	4.2	2.2	(68)	〃	側面	
87	〃	不明	下半欠	(5.5)	4.3	1.7	(56)	〃	片面	
88	第19号住居跡	撥形	完形	8.3	4.7	2.1	75	〃	基部	
89	〃	〃	刃部欠	(7.0)	4.9	1.7	(75)	〃	片面	
90	第23号住居跡	撥形	完形	7.7	4.7	2.2	130	〃	〃	被熱、両側縁敲打摩滅
91	〃	短冊形	刃部欠	(11.4)	4.2	1.8	(98)	〃	〃	両側縁敲打摩滅
92	〃	撥形	両端欠	(11.1)	4.7	1.0	(79)	〃	〃	両側縁敲打摩滅
93	〃	短冊形	刃部欠	(10.8)	5.3	1.8	(149)	〃	〃	両側縁敲打摩滅
94	〃	撥形	基部欠	(7.2)	5.1	1.3	(60)	〃	〃	
95	〃	〃	〃	(7.1)	5.0	1.2	(60)	〃	〃	被熱
96	〃	〃	〃	(8.3)	4.9	0.9	(61)	〃	〃	

磨製石斧（写真図版31下段）

番号	出土遺構	形 式	残存部	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重量/g	被熱	備 考
1	第11号住居跡	乳棒状	完形	18.0	5.7	3.3	594	×	刃部・基部敲打痕
2	第13号住居跡	〃	基部欠	(14.4)	6.1	4.3	(560)	×	端部敲打痕
3	第92号土壌	〃	刃部欠	(12.3)	5.3	3.2	(351)	○	基部敲打痕
4	第19号住居跡	〃	〃	(12.8)	4.9	4.2	(355)	×	

番号	出土遺構	形式	残存部	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重量/g	被熱	備考
5	第11号住居跡	乳棒状	両端欠	(8.0)	5.9	4.3	(251)	○	
6	第21号住居跡	◇	◇	(9.2)	5.4	3.7	(240)	×	
7	第46号土壌	◇	基部のみ	(5.9)	3.9	3.9	(131)	×	
8	第11号住居跡	定角式	完形	7.7	3.4	1.1	55	×	小形、調整加工の後研磨
9	第26号土壌	◇	◇	8.6	4.2	1.8	93	×	小形

横刃型石器 (写真図版38~40)

番号	出土遺構	素材	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重量/g	礫面	被熱	備考
1	第10号住居跡	横長剥片	5.3	8.9	0.8	42	×	×	
2	◇	◇	6.9	8.1	1.5	102	片面	×	
3	◇	◇	7.8	7.1	1.7	82	◇	×	
4	◇	縦長剥片	4.3	6.7	1.4	32	◇	○	
5	第11号住居跡	横長剥片	5.0	8.5	1.9	85	◇	○	炉石として再利用
6	◇	縦長剥片	5.4	6.0	1.9	60	側面	×	
7	◇	◇	4.5	7.1	1.5	41	◇	×	
8	第12号住居跡	剥片	5.5	7.2	1.5	62	◇	×	
9	◇	◇	3.8	4.8	1.8	32	片面	×	
10	第13号住居跡	横長剥片	4.1	4.3	1.2	27	◇	×	
11	第22号住居跡	縦長剥片	4.6	6.5	1.5	58	◇	×	
12	第30号土壌	横長剥片	6.8	9.1	1.7	102	◇	×	
13	第111号土壌	◇	7.1	6.9	2.1	110	◇	×	
14	第92号土壌	剥片	5.1	8.6	2.2	82	側面	×	
15	第73号土壌	◇	3.4	7.3	0.8	22	片面	×	
16	第64号土壌	◇	1.6	3.6	1.2	6.4	×	×	
17	第128号土壌	横長剥片	4.8	9.6	1.9	73	×	×	
18	第9号住居跡	縦長剥片	4.9	12.4	3.8	79	×	×	混入
19	第14号住居跡	横長剥片	6.4	8.8	1.2	71	片面	×	
20	第22号住居跡	◇	2.9	5.5	1.1	21	◇	×	
21	◇	◇	5.1	8.9	1.1	40	◇	×	刃部摩滅
22	第1号住居跡	縦長剥片	3.9	7.4	1.3	33	側面	×	混入
23	第16号住居跡	横長剥片	4.7	7.7	1.5	61	片面	×	
24	◇	縦長剥片	4.7	6.5	1.7	49	×	×	刃部摩滅
25	◇	◇	3.8	6.9	1.3	28	片面	×	側縁部に刃こぼれ状の使用痕
26	第9号住居跡	◇	5.1	6.0	1.3	42	◇	×	混入、側縁部に刃こぼれ状の使用痕
27	第12号住居跡	剥片	4.9	4.8	1.5	35	◇	×	側縁部に刃こぼれ状の使用痕
28	第18号住居跡	横長剥片	8.1	6.8	1.8	100	◇	○	礫面側から側縁調整
29	◇	剥片	5.3	8.1	1.9	90	×	×	片面の大部分を調整
30	◇	横長剥片	5.8	7.7	2.0	58	片面	×	
31	◇	◇	3.4	6.0	1.1	26	◇	×	剥片の打点側側縁を調整
32	◇	剥片	4.2	5.5	1.0	25	×	×	
33	◇	縦長剥片	5.4	6.8	1.9	42	×	×	
34	◇	剥片	3.8	4.6	0.9	20	片面	×	
35	◇	◇	4.7	5.3	1.8	40	◇	×	礫面側から側縁調整
36	◇	横長剥片	4.3	8.4	2.3	113	◇	×	厚い剥片素材を使用
37	◇	剥片	6.1	6.1	1.9	70	×	×	両面から側縁調整
38	◇	縦長剥片	6.2	7.2	2.0	83	×	×	

番号	出土遺構	素材	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重量/g	端面	被熱	備	考
39	第18号住居跡	剥片	5.7	7.8	2.1	90	側面	×		
40	◇	横長剥片	6.9	4.5	1.1	50	×	×		
41	◇	◇	4.0	5.3	2.0	36	片面	×		
42	◇	剥片	6.6	7.2	1.8	105	◇	×		
43	◇	横長剥片	4.1	4.3	1.1	20	側面	×	側縁部の一部に使用痕	
44	第19号住居跡	◇	4.5	7.9	1.1	41	片面	×	両面から側縁調整	
45	第23号住居跡	◇	3.2	5.3	1.8	20	側面	×	側縁調整は荒い鋸歯状	
46	◇	縦長剥片	5.0	6.5	0.6	23	片面	×		
47	◇	剥片	3.0	4.6	1.4	22	◇	×		
48	◇	横長剥片	6.2	8.9	1.8	76	◇	×		
49	◇	◇	4.5	7.5	1.4	39	×	×		
50	◇	縦長剥片	4.3	5.6	1.0	31	片面	×		
51	◇	横長剥片	2.6	6.2	0.6	14	◇	×		
52	◇	剥片	3.8	5.7	1.1	22	×	×		
53	◇	剥片	6.6	9.6	3.1	171	片面	×	厚い剥片素材を使用、刃部摩滅	

石 皿 (写真図版41~42)

番号	出土遺構	形態	残存率	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重量/g	窪面	凹み穴	被熱	備	考	
1	第12号住居跡	長方形	1/2	44.3	(17.4)	3.6	(4550)	表面	表1裏20	×	擦面は平坦		
2	第11号住居跡	不明	1/4	(16.2)	(12.1)	5.6	(1350)	表裏	表5裏19	○			
3	第22号住居跡	長方形	1/2	27.3	(17.6)	5.3	(4100)	表面	表17裏4	○	擦面は平坦		
4	第25号土壌	不明破片		(10.3)	(5.5)	4.1	(249)	◇	表1裏0	○			
5	第9号住居跡	◇	◇	(8.2)	(4.6)	4.0	(155)	表裏	なし	○	混入		
6	第161号土壌	不整形	完形	(31.3)		19.9	4.4	4050	表面	表0裏20	○		
7	◇	楕円形	2/3	(33.6)	(36.3)	6.3	(7550)	◇	表9裏10	○			
8	第39号土壌	不明	1/4	(15.4)	(16.8)	4.5	(1001)	◇	なし	×			
9	第23号土壌	◇	1/4	(9.9)	(23.2)	6.2	(1259)	◇	表12裏10	○	割口側面に凹み3箇所		

磨石・凹石 (写真図版43)

番号	出土遺構	残存部	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重量/g	磨面	被熱	備	考
1	第12号住居跡	完形	12.5	5.7	4.9	600	表裏	×	両側面敲打多数、表面敲打による浅い凹み	
2	第13号住居跡	◇	13.0	6.8	4.8	590	◇	×		
3	第14号住居跡	1/2欠	(6.5)	(9.2)	3.6	(240)	◇	○		
4	第21号住居跡	両端欠	(8.5)	8.2	4.2	(443)	◇	○		
5	第23号土壌	1/2欠	(10.4)	6.6	4.1	(470)	全面	○	表面に1箇所浅い凹み	
6	第69号土壌	完形	8.4	6.5	3.3	238	表裏	○	表裏面に1箇所ずつやや深い凹み	
7	第58号土壌	1/3欠	(13.5)	8.9	4.6	(860)	◇	×		
8	◇	両端欠	(5.8)	7.4	4.3	(338)	全面	○	被熱により破砕	
9	◇	裏面欠	11.2	(7.7)	3.4	(330)	◇	×	表面中央に1箇所長編い浅い凹み	
10	第29号土壌	両端欠	(7.0)	(13.6)	6.8	(910)	表面	×		
11	第76号土壌	1/2欠	(7.9)	7.1	4.0	(388)	全面	○	表面に1箇所浅い凹み	

凹 石 (写真図版44~45)

番号	出土遺構	残存部	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重量/g	凹み穴	被熱	備	考
1	第11号住居跡	完形	19.9	7.7	2.2	592	表2裏2	○		
2	◇	破損品	(23.1)	(11.3)	2.5	(1013)	表3	○		

番号	出土遺構	残存部	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重量/g	凹み穴	被熱	備 考
3	第11号住居跡	完 形	16.8	8.9	3.4	730	表1裏1	○	炉石
4	〃	破損品	(14.0)	7.4	4.9	(620)	表1	○	
5	第21号住居跡	〃	(7.3)	(8.9)	4.8	(171)	表3	×	
6	〃	〃	(9.4)	(7.3)	2.6	(242)	表2	○	
7	第22号住居跡	裏剥落	42.6	12.5	(7.5)	(5950)	表3	○	炉石
8	第30号土壌	破損品	(16.7)	(9.9)	4.0	(1134)	表1	○	
9	第57号土壌	〃	(15.5)	(12.5)	6.8	(1523)	表3裏1	○	石皿の可能性あり
10	第58号土壌	〃	(19.9)	9.1	4.4	(1012)	表7裏1	○	石質により摩滅顕著
11	〃	〃	(24.3)	(10.0)	(8.0)	(2361)	表1	○	被熱破砕
12	〃	〃	(9.3)	(8.4)	2.6	(270)	表2	○	石皿の可能性あり
13	第64号土壌	〃	(8.8)	(15.9)	5.4	(1010)	表1	○	石皿の可能性あり
14	第58号土壌	〃	(17.5)	10.7	4.3	(804)	表1	○	
15	〃	〃	(13.8)	(12.6)	3.7	(780)	表1	○	
16	第65号土壌	〃	(8.1)	(16.1)	2.9	(400)	表3	○	
17	〃	〃	(12.3)	9.9	8.0	(1279)	表3裏2	×	
18	第80号土壌	〃	(15.1)	(7.8)	2.8	(540)	表2	×	
19	第92号土壌	〃	(27.4)	(17.8)	5.2	(3950)	表4裏3	○	
20	第97号土壌	〃	(24.5)	(8.3)	(5.2)	(1358)	表10	○	
21	第161号土壌	〃	(25.3)	(9.7)	(7.7)	(2088)	表6	○	全面煤の付着あり
22	〃	〃	(22.5)	(11.1)	5.6	(1898)	表2裏1	○	煤の付着あり
23	〃	〃	(14.7)	(17.3)	5.2	(1780)	表4裏2	○	煤の付着あり
24	第18号住居跡	〃	(21.7)	(9.6)	(2.8)	(496)	表1	×	
25	〃	〃	(10.4)	(7.9)	(3.1)	(229)	表1	○	石皿の可能性あり
26	〃	〃	(6.3)	(6.8)	(2.7)	(93)	表2	×	
27	第19号住居跡	〃	(8.9)	(4.8)	(2.2)	(93)	表2	×	

礫 器 (写真図版46上段)

番号	出土遺構	残存部	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重量/g	素材	備 考
1	第112号土壌	上半欠	(3.5)	5.0	1.4	(25)	剥片	楕円形に周縁加工
2	第57号土壌	完 形	5.1	6.1	1.2	43	横長剥片	片面礫面残、全周縁調整加工、横刃墨石器に類似
3	第19号住居跡	〃	7.6	3.4	2.1	50	剥片	周縁加工
4	第23号住居跡	〃	8.6	4.3	1.9	80	横長剥片	周縁加工、片面礫面残
5	第18号住居跡	〃	7.4	5.7	2.3	104	剥片	周縁加工
6	第12号住居跡	〃	6.3	5.7	2.2	77	〃	両面とも周縁加工

棒状石器・その他 (写真図版46下段)

番号	出土遺構	残存部	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重量/g	素材	備 考
1	第11号住居跡	完 形	19.6	5.0	2.7	380	礫	上半部両面調整、両側縁敲打摩滅
2	第23号住居跡	〃	18.8	3.7	1.4	200	剥片	敲石、両側縁調整後敲打摩滅、両端部敲打痕
3	第18号住居跡	〃	14.5	3.3	1.7	170	礫	端部被熱、側縁一部敲打痕、表面研磨痕
4	第127号土壌	〃	14.2	4.3	1.9	122	剥片	敲石、被熱、側面礫面残存、端部敲打痕
5	第23号住居跡	基部のみ	(6.4)	4.1	1.6	41	礫	両側縁調整、表面研磨痕、磨製石斧の可能性あり
6	第84号土壌	両端欠	(7.9)	3.8	2.6	(112)	〃	敲石、被熱
7	第9号住居跡	〃	(9.2)	3.2	1.2	(60)	〃	混入、敲石、両側縁敲打摩滅、擦痕あり
8	第112号土壌	下半欠	(10.7)	3.7	1.3	(90)	〃	敲石、両側縁敲打摩滅
9	第23号住居跡	側端欠	(8.9)	(2.5)	1.4	(55)	剥片	側面・表面一部調整、側面・表面礫面残存、被熱

参考文献

- 赤熊浩一(1988)『将監塚・古井戸Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第71集
- 赤熊浩一・富田和夫(1985)『立野南・八幡太神南・熊野太神南・今井遺跡群・一丁田・川越田・梅沢』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第46集
- 荒川正夫(1984)『早稲田大学本庄校地埋蔵文化財発掘調査概報1』早稲田大学
- (1986)『早稲田大学本庄校地埋蔵文化財発掘調査概報2』早稲田大学
- 石塚和則(1986)『将監塚－縄文時代－』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第63集
- 井上尚明(1986)『将監塚・古井戸Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第64集
- 太田博之(1991)『本庄遺跡群発掘調査報告書Ⅴ－公卿塚古墳－』本庄市埋蔵文化財調査報告第19集
- 栗島義明(1981)『深町・城の内遺跡』深町遺跡調査会
- 恋河内昭彦(1990)『根田遺跡』児玉町文化財調査報告書第12集
- (1990)『雷電下遺跡－BC地点－(図版編)』児玉町文化財調査報告書第13集
- (1992)『児玉地方における弥生時代の概観』『児玉郡市における埋蔵文化財の成果と概要』埼玉県教育局指導部文化財保護課 児玉郡市文化財担当者会
- 小久保 徹(1977)『塚本山古墳群』埼玉県遺跡発掘調査報告書第10集
- 埼玉県(1982)『新編埼玉県史』資料編2
- 斎藤基生(1983)『打製石斧研究の現状』『信濃』第35巻第4号 信濃史学会
- 菅谷浩之(1984)『北武蔵における古式古墳の成立』児玉町史資料調査報告古代第1集
- 菅谷浩之・駒宮史朗(1973)『生野山古墳群発掘調査概要』『第6回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会 埼玉県遺跡調査会 埼玉県教育委員会
- 鈴木徳雄(1986)『橋ノ入遺跡Ⅱ』児玉町文化財調査報告書第6集
- (1991)『辻ノ内・中下田・塚島・児玉条里遺跡』児玉町文化財調査報告書第15集
- 鈴木徳雄・丸山 修(1992)『児玉郡地域の縄文時代遺跡概観』『児玉郡市における埋蔵文化財の成果と概要』埼玉県教育局指導部文化財保護課 児玉郡市文化財担当者会
- 高橋竜三郎(1980)『宍勝寺北裏遺跡』宍勝寺北裏遺跡調査会
- (1980)『大久保山Ⅰ』早稲田大学本庄校地文化財調査報告1
- 立石盛司(1982)『後張Ⅰ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第15集
- (1983)『後張Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第26集
- 谷井 彪(1993)『埼玉における縄文中期後半の地域性の一様相』『研究紀要』第15号 埼玉県立歴史資料館
- 谷井彪・細田勝・宮崎朝雄・金子直行他(1982)『縄文中期土器群の再編』『研究紀要』埼玉県埋蔵文化財調査事業団 日本考古学協会(1981)『北関東を中心とする縄文中期の諸問題』〈資料〉
- 橋本 勉(1992)『将監塚遺跡・古井戸遺跡における羽状縄文を有する加曾川E式土器』『研究紀要』第9号 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 本 庄 市(1986)『本庄市史』通史編Ⅰ
- 増田一 裕(1987)『南大通り線内遺跡発掘調査報告書Ⅰ』本庄市埋蔵文化財調査報告第9集(第1分冊)
- (1987)『東富田遺跡群発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告第10集
- (1989)『南大通り線内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』本庄市埋蔵文化財調査報告第9集(第2分冊)
- (1989)『四方田・後張遺跡群発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告第14集
- (1990)『山根遺跡発掘調査報告書』本庄市埋蔵文化財調査報告第18集
- (1991)『南大通り線内遺跡発掘調査報告書Ⅲ』本庄市埋蔵文化財調査報告第9集(第3分冊)
- (1992)『児玉地域の旧石器時代』『児玉郡市における埋蔵文化財の成果と概要』埼玉県教育局指導部文化財保護課 児玉郡市文化財担当者会
- 増田逸朗(1979)『雷電下・飯玉東』埼玉県遺跡発掘調査報告書第22集
- (1986)『埼玉県古式古墳調査報告書』埼玉県史編さん室
- 宮井英一(1989)『古井戸－縄文時代－』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第75集
- 柳田敏司(1964)『埼玉県児玉郡生野山將軍塚古墳発掘調査概報』『上代文化』第34輯
- 山崎 武(1975)『いぶき－児玉郡及び周辺地域における前方後円墳の研究－』8・9合併号 埼玉県立本庄高等学校考古部



第106図 近隣の発掘調査遺跡と奈良・平安時代の遺構

写 真 图 版

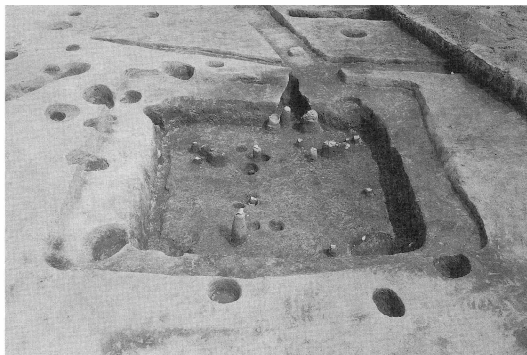




南共和遺跡調査区全景



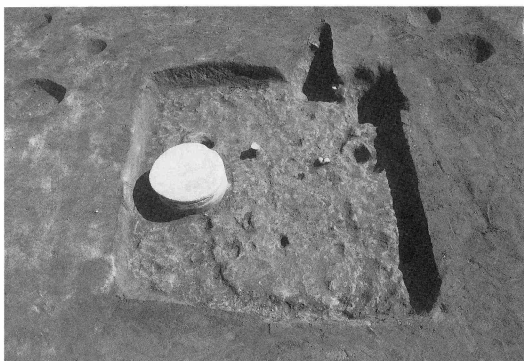
南共和遺跡調査区南側



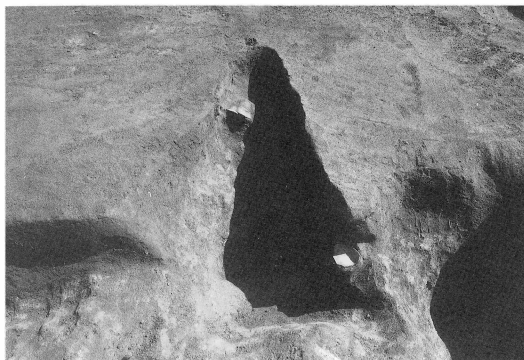
第1号住居跡



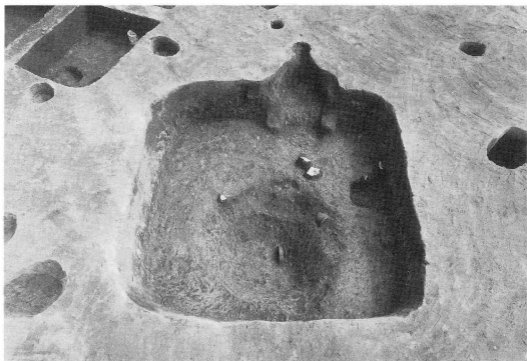
第1号住居跡カマド



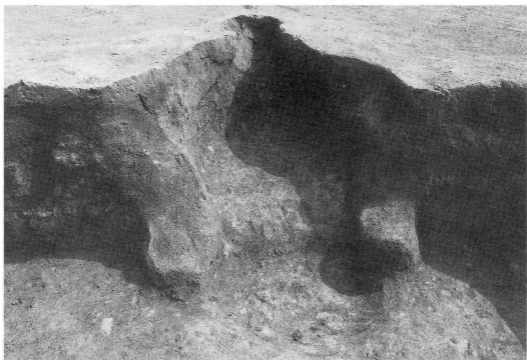
第2号住居跡



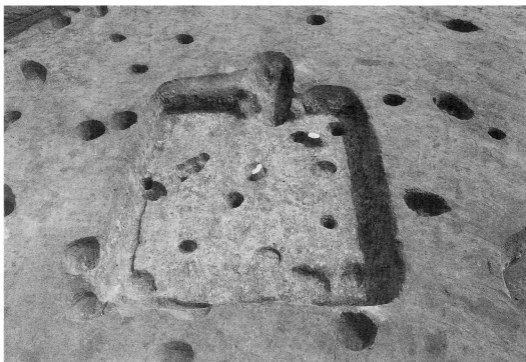
第2号住居跡カマド



第3号住居跡



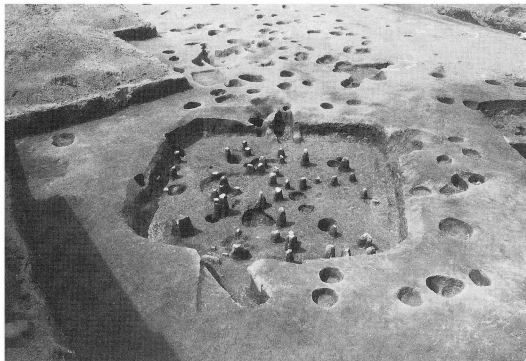
第3号住居跡カマド



第 4 号住居跡



第 4 号住居跡カマド



第 5 号住居跡



第 5 号住居跡西カマド



第5号住居跡東カマド



第6号住居跡



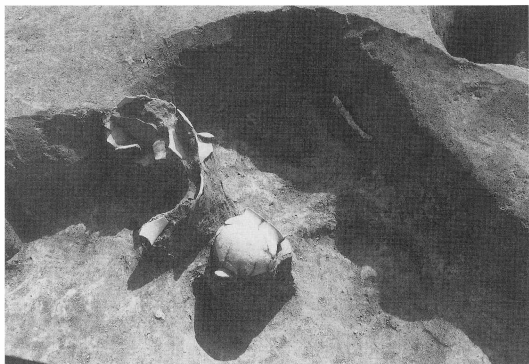
第7号住居跡



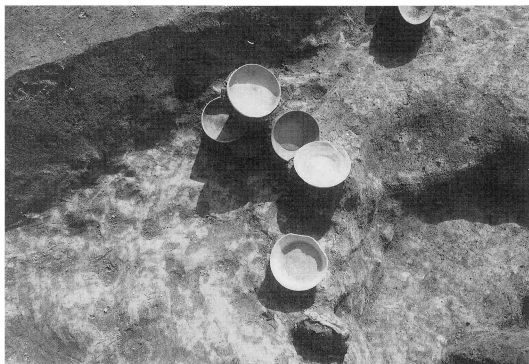
第 8 号住居跡



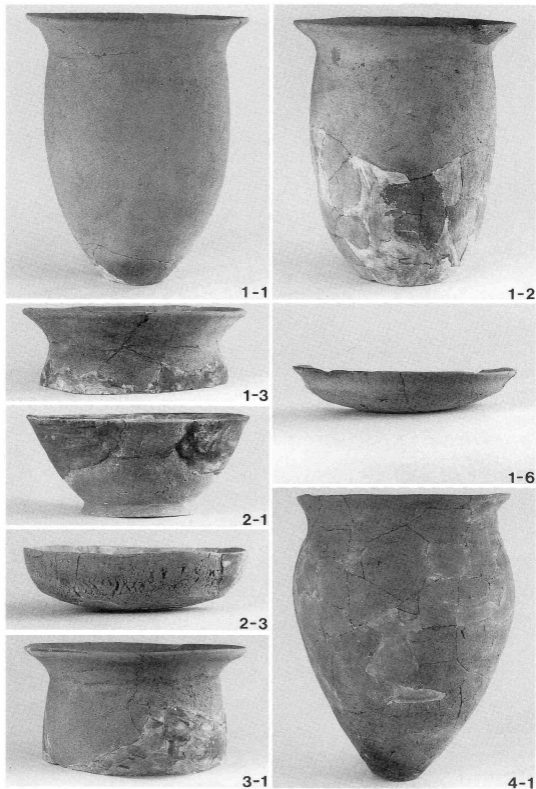
第 8 号住居跡カマド



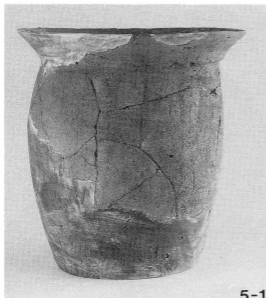
第 8 号住居跡遺物出土狀態



第 8 号住居跡遺物出土狀態



第1～4号住居跡出土土器



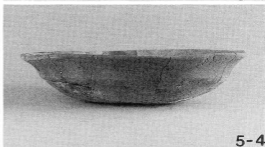
5-1



5-2



5-3



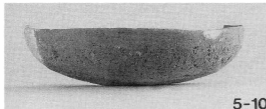
5-4



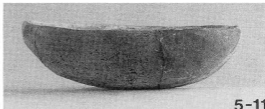
5-6



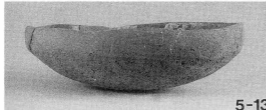
5-9



5-10



5-11

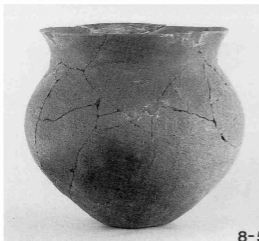
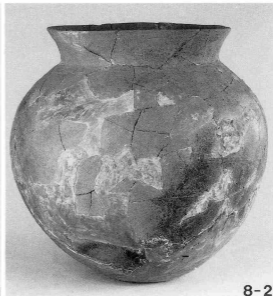
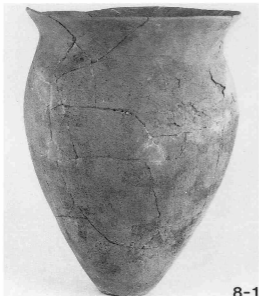


5-13

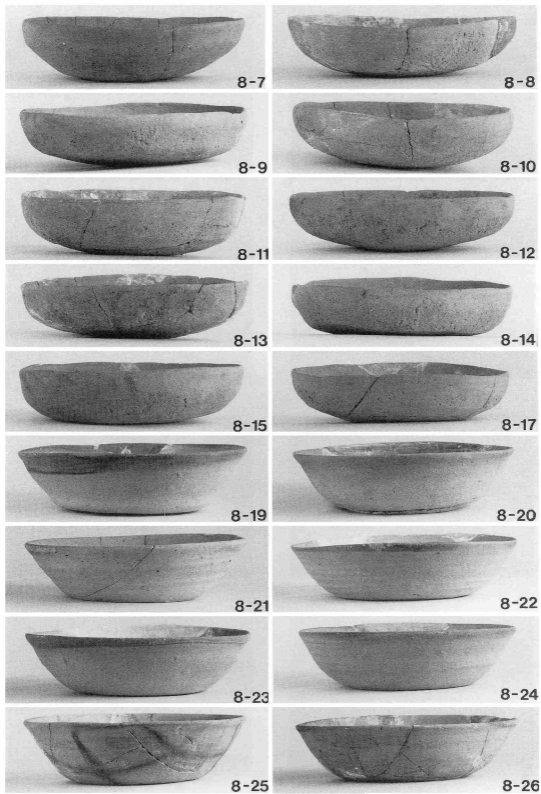


5-14

第5号住居跡出土土器



第8号住居跡出土土器(1)



第8号住居跡出土土器(2)



新宮遺跡D地点全景



D地点調査区南側



D地点調査区中央部



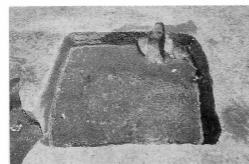
D地点調査区北側



第1～4号住居跡



発掘調査風景



第1号住居跡



第1号住居跡カマド



第2号住居跡



第2号住居跡カマド



第3号住居跡



第3号住居跡カマド



第4号住居跡



第4号住居跡カマド



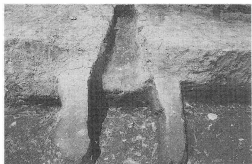
第5号住居跡



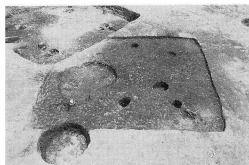
第5号住居跡カマド



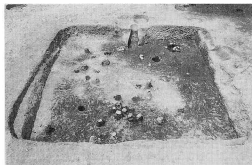
第6号住居跡



第6号住居跡カマド



第7号住居跡



第8号住居跡



第8号住居跡カマド



第8号住居跡貯蔵穴



第9号住居跡



第9号住居跡カマド



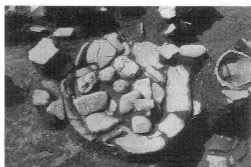
第10・11号住居跡



第10号住居跡



第10号住居跡炉



第10号住居跡遺物出土状態



第11号住居跡



第11号住居跡炉



第12号住居跡



第12号住居跡炉



第13号住居跡



第13号住居跡遺物出土状態



第14号住居跡



第15号住居跡



第16号住居跡



第16号住居跡炉体土器



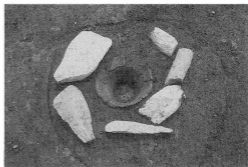
第17号住居跡



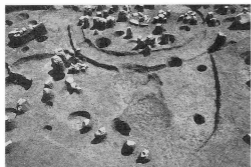
第18~21号住居跡



第18・19号住居跡



第18号住居跡炉



第20号住居跡



第20号住居跡炉



第20号住居跡遺物出土状態



第21号住居跡



第22号住居跡



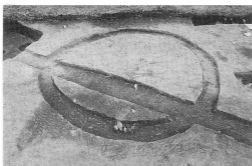
第22号住居跡炉



第23号住居跡



第23号住居跡炉



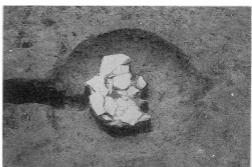
円形周溝遺構



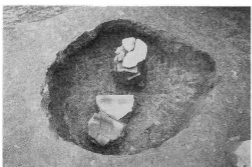
第1号土壇



第2号土壇(集石)



第14号土壇



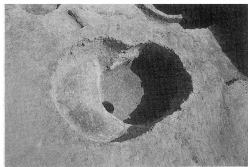
第23号土壇



第25・26・27号土壇



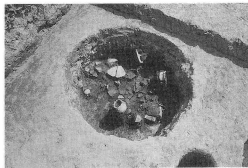
第30号土塚



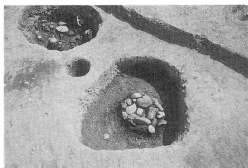
第31・32号土塚



第34号土塚



第38号土塚



第39号土塚(集石)



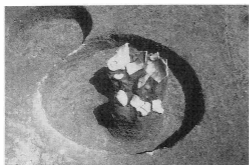
第46号土塚



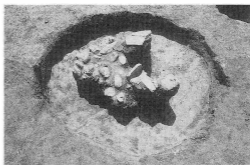
第57号土塚



第58号土塚(集石)



第69号土坑



第71号土坑(集石)



第72号土坑(集石)



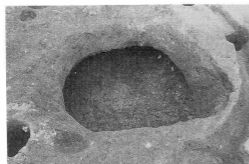
第74号土坑



第89号土坑遺物出土状態



第89号土坑(集石)



第92号土坑



第97号土坑(集石)



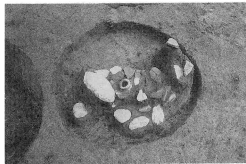
第98号土坑(集石)



第99号土坑(集石)



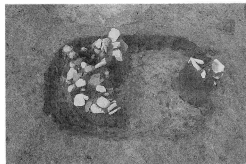
第127号土坑



第129号土坑(集石)



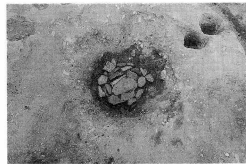
第137号土坑(集石)



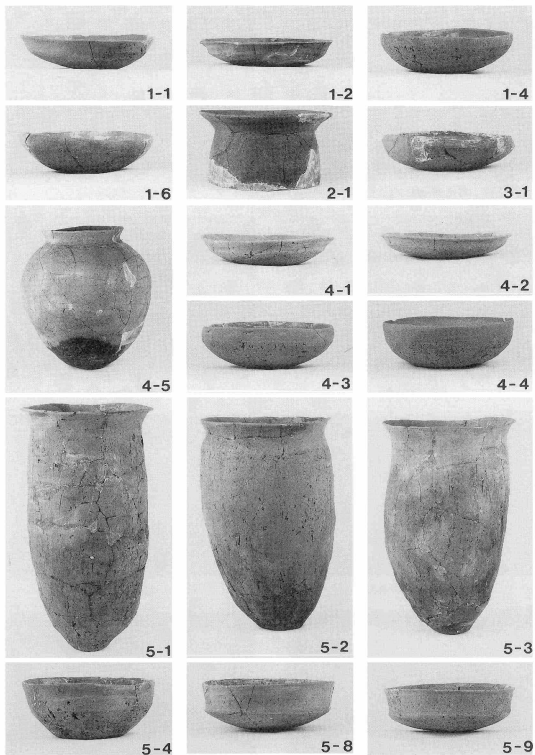
第139号土坑(集石)



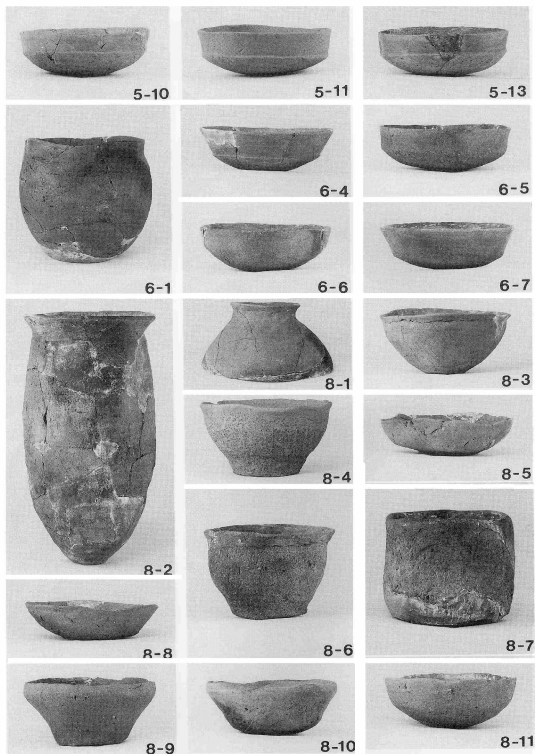
第142号土坑(集石)



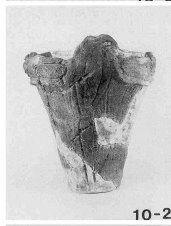
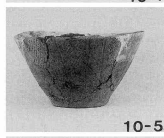
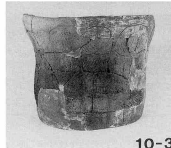
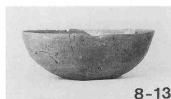
第161号土坑(集石)



新宮遺跡D地点出土土器(1)



新宮遺跡D地点出土土器(2)



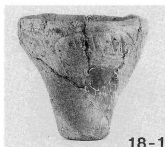
新宮遺跡D地点出土土器(3)



新宮遺跡D地点出土土器(4)



16-1



18-1



18-5



18-7



19-1



20-6



22-1



20-7



20-7



23-4



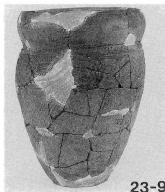
23-5



23-11



23-6



23-9



SK1-1



SK1-3



SK23



SK38-1



SK34



SK57



SK38-3



SK69



SK74-1



SK74-2



SK71



SK89



SK89



SK89



SK92



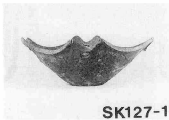
SK127-1



SK127-2



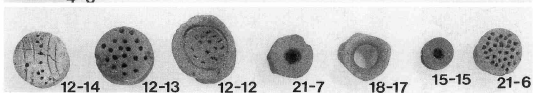
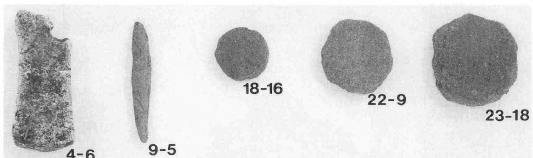
SK148

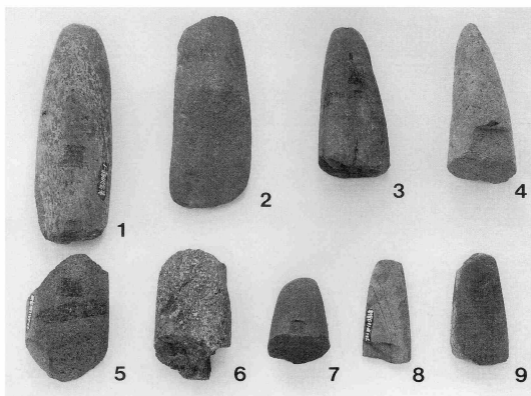
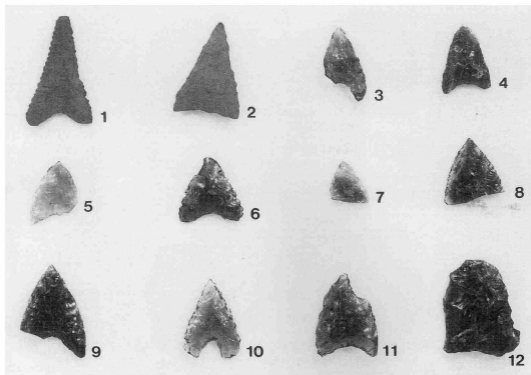


SK127-1

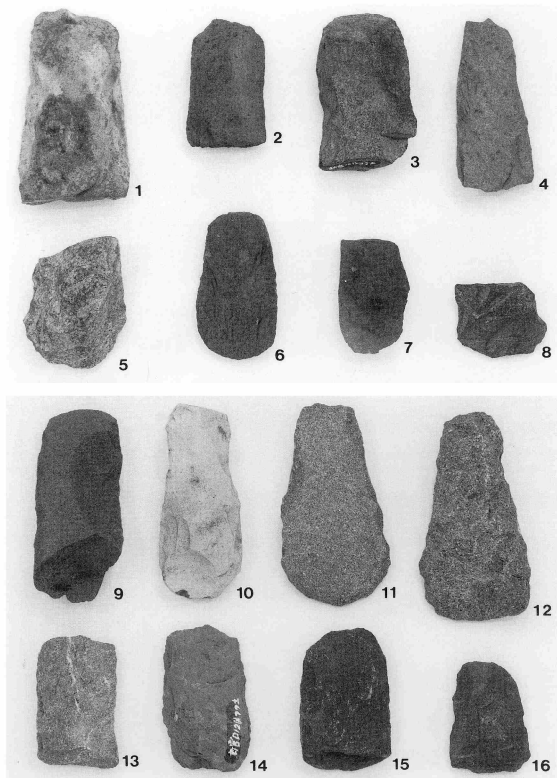


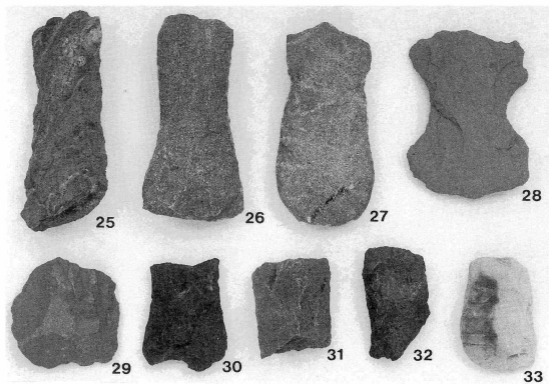
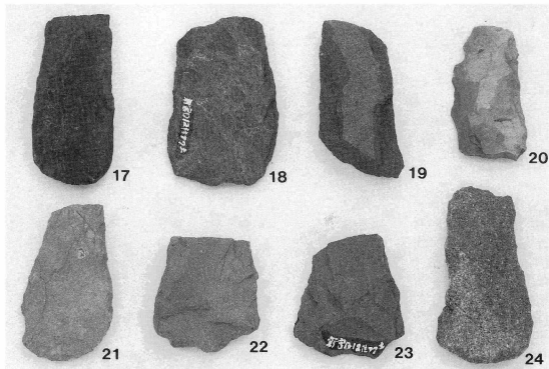
SK127-2

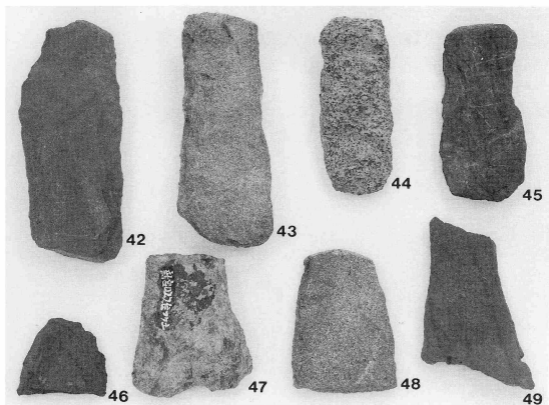
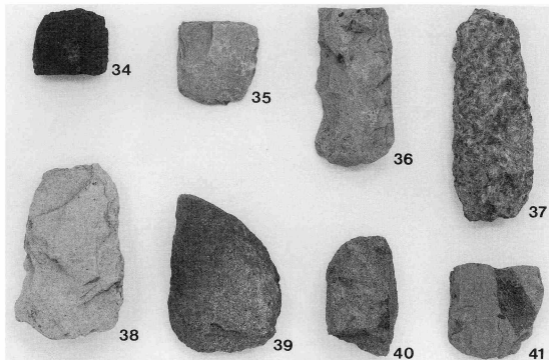


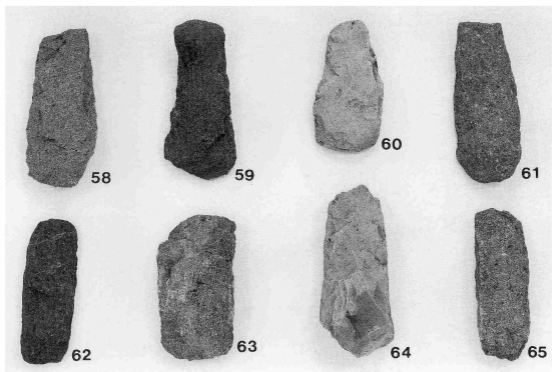
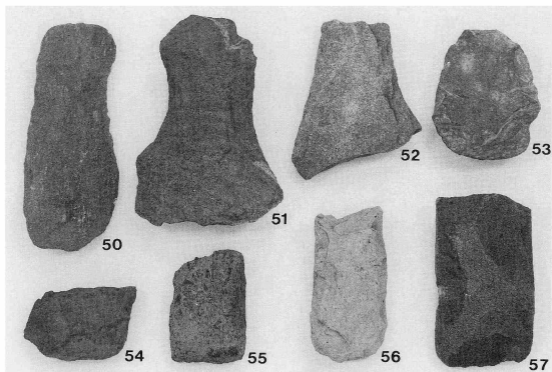


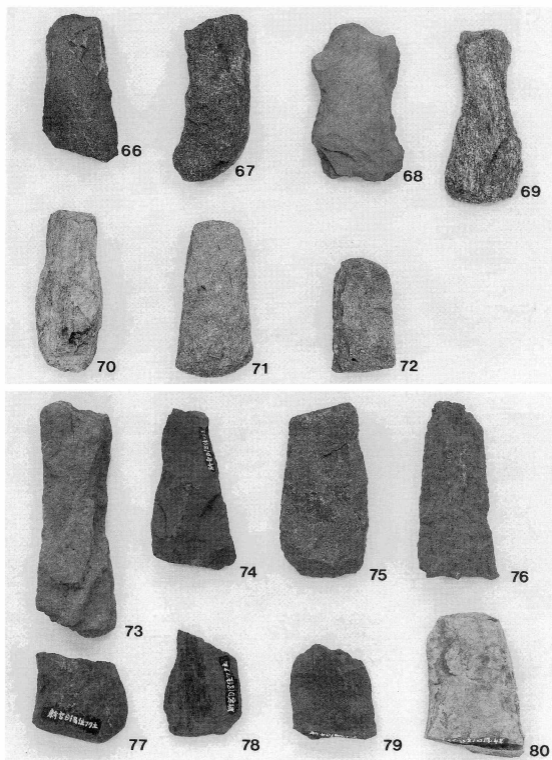
上-石 鏃、下-磨製石斧

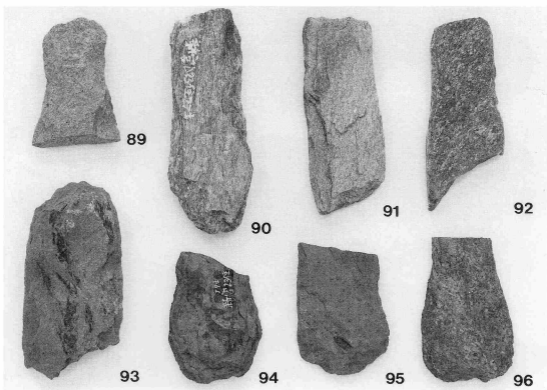
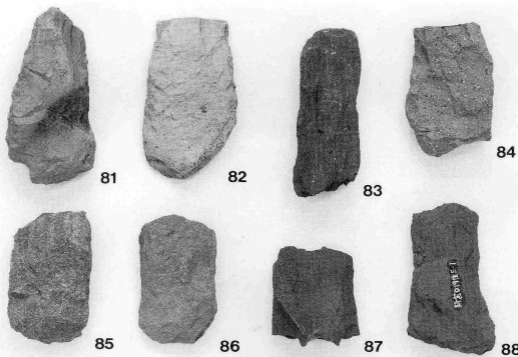


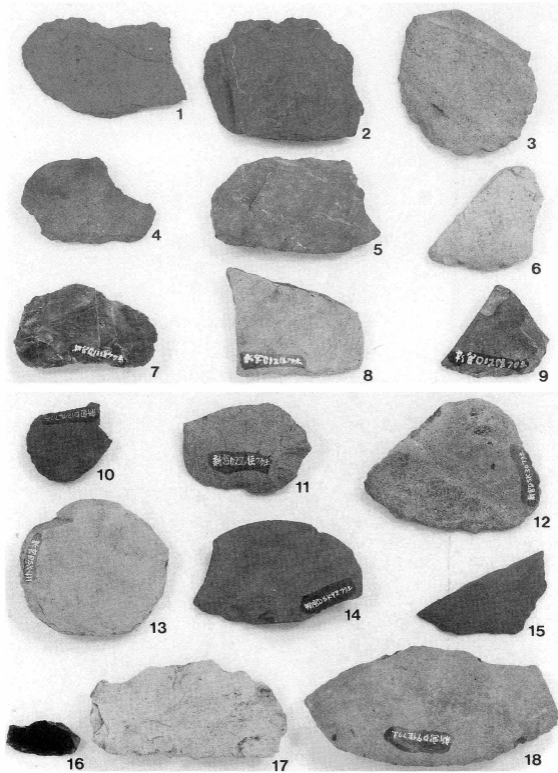


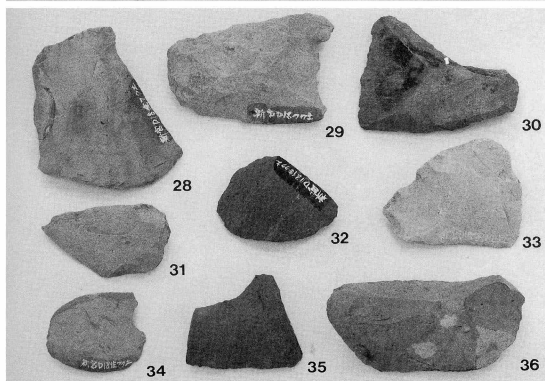
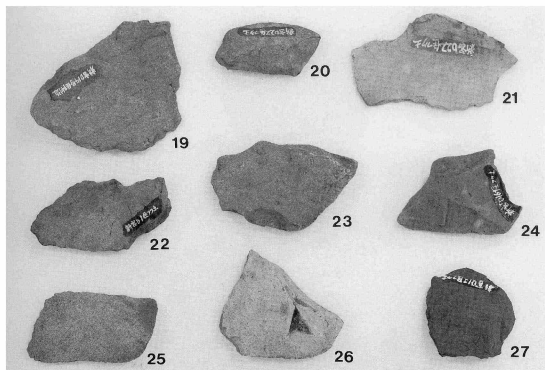


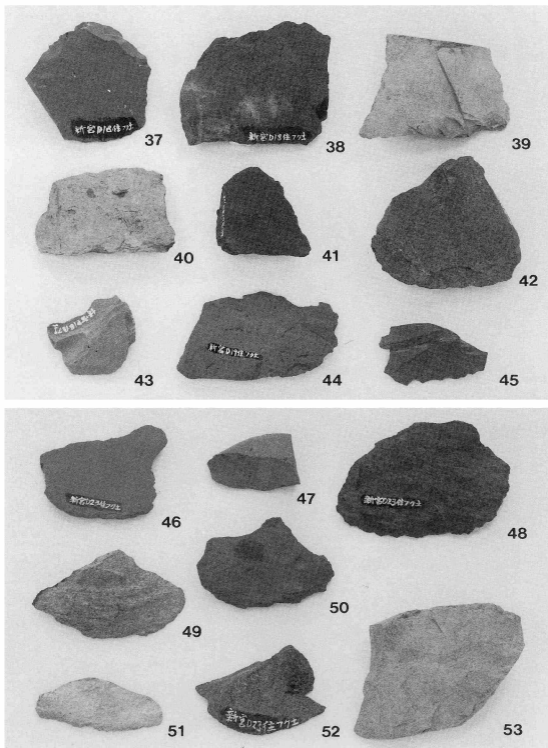


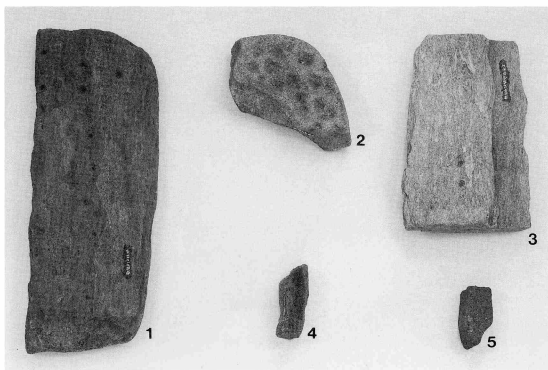
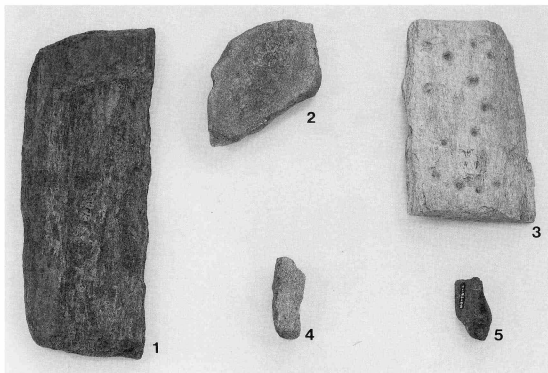


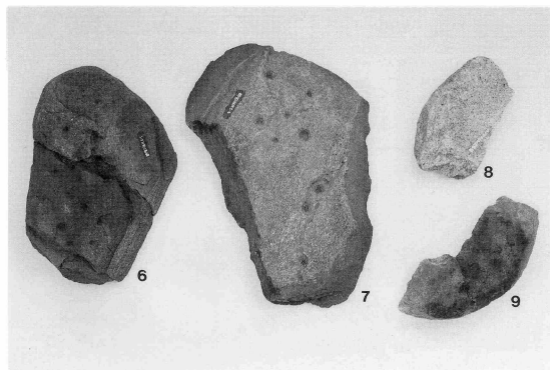
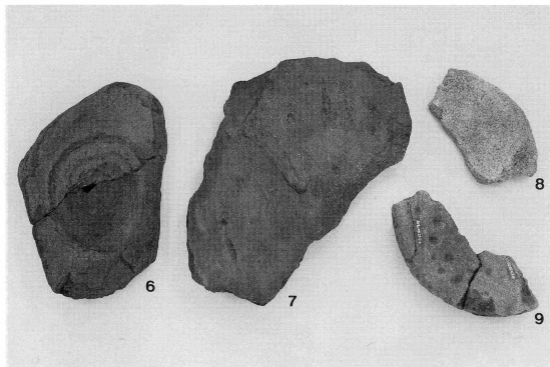


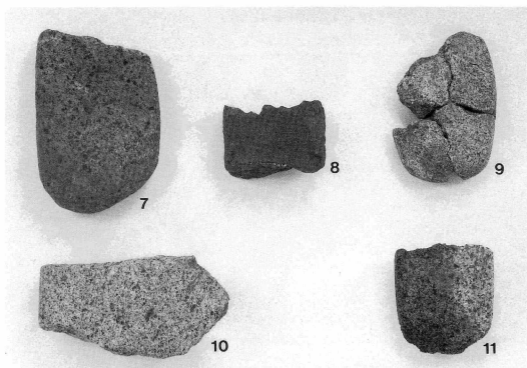
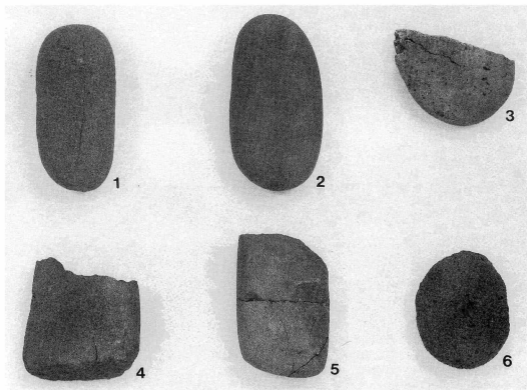


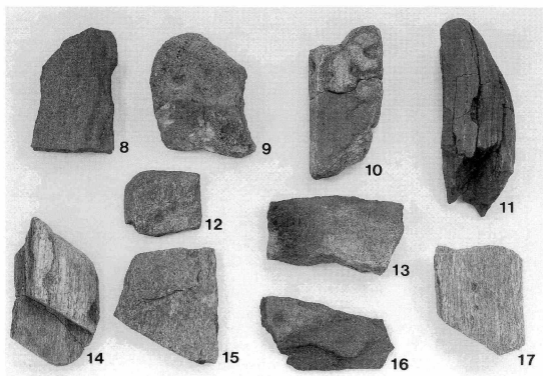
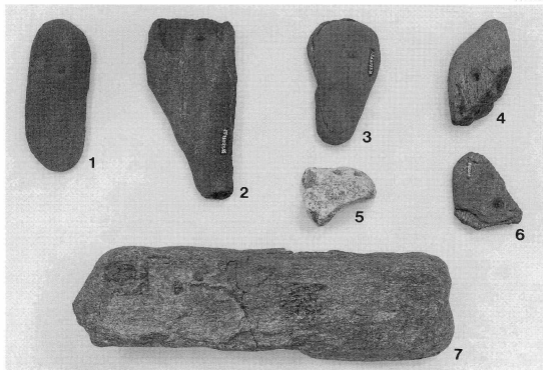


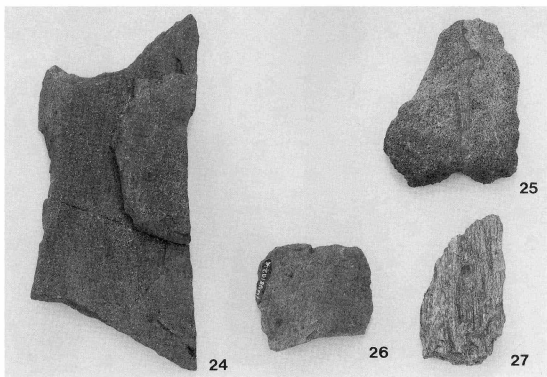
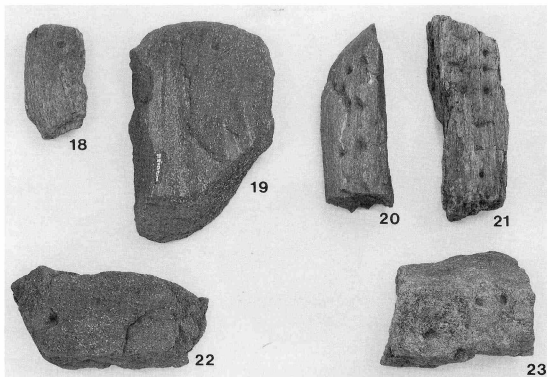


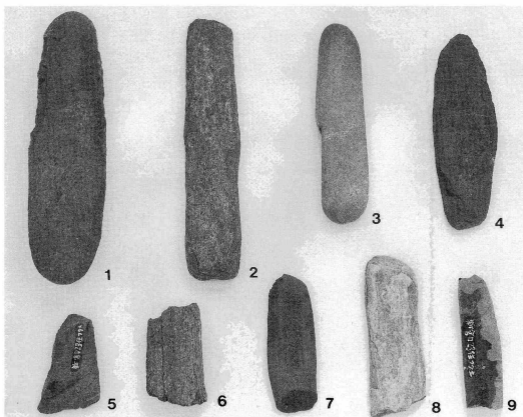
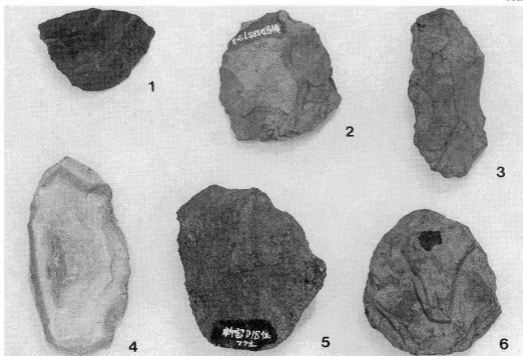












上一礫器、下一棒状石器

報 告 書 抄 録

フリガナ	ミナミキョウワ・シングウイセキ							
書 名	南共和・新宮遺跡							
副 書 名								
シリーズ	児玉町遺跡調査会報告書				巻 次	第6・7集		
編 著 者	恋河内昭彦							
編集機関	児玉町遺跡調査会							
所 在 地	〒367-02 埼玉県児玉郡児玉町大字八幡山368番地 TEL 0495-72-1331							
発 行 日	1995(平成7)年3月31日							
フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所 在 地	コード 市町村 遺 跡		北 緯 (° ' ")	東 経 (° ' ")	調査期間	調査 面積	調査 原因
ミナミキョウワイセキ 南共和遺跡	コダママチ キョウエイ 児玉町大字共栄 ミナミキョウワ 字南共和400番地	113824	029	36° 12' 8"	139° 8' 22"	19900402 ～ 19900427	460 m ²	分譲 住宅
シングウ イセキ 新宮遺跡	コダママチ キョウエイ 児玉町大字共栄 ミナミキョウワ 字南共和324番地	113824	030	36° 11' 59"	139° 8' 18"	19910415 ～ 19910722	1500 m ²	工場 建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物		特記事項		
南共和遺跡	集落	奈良・平安	竪穴住居8 掘立柱建物1 土 壙1	土 器 (土師器、須恵器) 石製品 (紡錘車、砥 石) 鉄製品 (鎌、刀子)				
		中 世	溝 1 土 壙1					
新宮遺跡	集落	縄 文	竪穴住居14 土 壙160	土器、土製品、石器				
	集落	古 墳	竪穴住居5 円形周溝1	土器、土製品				
	集落	奈良・平安	竪穴住居4	土器、石製品				

児玉町遺跡調査会報告書第6・7集

南 共 和 ・ 新 宮 遺 跡

平成 7 年 3 月 27 日 印刷

平成 7 年 3 月 31 日 発行

発行者 児玉町遺跡調査会
埼玉県児玉郡児玉町大字八幡山368

印刷所 たつみ印刷株式会社
埼玉県深谷市東大沼356